

ルース氏英語夏季講習會

規則并教授の要目

前號の本誌に豫告の如く來月五日より十八日迄國民英學會に於て催ふす英國文學博士 Professor Ernest Percy Ruse の專ら擔當する特別英語夏季講習會の規則并教授要目は左の如し

- 一、當英語夏季講習會ハ文部省ノ英語科教員夏季講習會ニ擬シ専ラ中學校師範學校及ビ高等女學校(公立私立ヲ問ハズ)ノ英語教員(男女ヲ問ハズ)ノ爲メニ設ケ
- 二、開期ハ本年八月五日(金曜日)ヨリ同十八日(木曜日)マデトシ土曜日曜兩日ヲ除キ毎日午前八時ヨリ十一時マデ授業ス
- 三、講習會場ハ麴町區三番町八十四番地本會分教室トス
- 四、當英語夏季講習會ハ其組織及ビ授業法ヲ英國ガックスフォード大學ノ「ユニヴァシチー、エキステンション」ニ則トリ同氏が未ダ嘗テ本邦ニ於テ試ミタルコトナキ斬新ノ授業法ニ依リ全心全力ヲ盡クシテ教授スベシ
- 五、聽講料ハ金貳圓トシ入會當日又ハ其前ニ納ムベシ但シ聽講料ハ一切割引セズ
- 六、聽講券ハ毎日必ラズ携帯ノ事
- 七、中學師範及ビ高等女學校ノ英語教員ニアラズト雖ドモ相當ノ學力ヲ備フル者ハ特ニ出席ヲ許ルス
- 八、十日以上出席シタル者ニ限リ英文ノ修業證書ヲ授與スベシ
- 九、出席志望者ハ可相成來七月三十一日迄ニ申込ムベシ

毎日之教授要目

- 午前八時ヨリ九時迄 讀方、朗誦、及ビ講義
教科書ハ神田氏英語讀本第五卷(三省堂出版ヲ用ユ)
- 同 九時ヨリ十時迄 作文實修
〔注意〕宿題ハ毎日與ヘ講習員ハ自宅ニテ作レルモノヲ講師ニ渡シ添削ヲ乞フベシ、各文章ハ一般講習員ニ示シ其長所短所ヲ批評セシム又講師ヨリ起草者ニ直接注意スルコトアルベシ
- 同 十時ヨリ十一時迄
- 一、實地美辭學
 - 二、英語教授法ノ常識的講話
〔イ〕作文ハ如何シテ教ユベキカ
〔ロ〕何ヲ讀ムベキカ又如何ニ讀ムベキカ
〔ハ〕文法ノ效用ト其亂用
〔ニ〕如何ニシテ實物教科ヲ授クベキカ
此外英語教員ノ心得ベキ諸點

注 意

- 一、左ノ國歌ヲ英語ニテ教ユベシ
〔イ〕日本國歌 〔ロ〕英國國歌 〔ハ〕米國國歌
- 二、土日兩曜日ノ内ヲトシ講師ルース氏ニハ講習員一同ヲ率テ英語會話實修ノ爲メ靖國神社内遊就館、上野動物園並ニ農商務省商品陳列所ノ如キ府下ノ名所ヲ訪問シー々英語ニテ説明ヲ與ヘ講習員ヲシテ實地會話ノ機會ヲ得セシムベシ
- 三、講師ルース氏ハ講習員ノ英語學力ヲ促進セシムルタメ出來得ル限リノ補助ヲ與フベシ又當講習會ニ出席セシ者ニ限リ本年 中英語ニ關スル質問ニ應ズベシ故ニ質疑アラバ之ヲ英文ニ認メ直接同氏ニ送ラバ同氏ハ早速其答解ヲ郵便ニテ送ルベシ但シ必ラズ返信用郵券ヲ封入スベシ
- 四、開會中ハ數回夜分ニ於テ英國ノ名所舊蹟ヲ寫セル幻燈會ヲ催フシ講師ハ一々英語ヲ以テ説明スベシ

ルース氏夏季講習會

國民英學會に於て催ふしたる同氏の講習會は其最初の景況だけは本誌前號に報導したり。其以後の事を説かんに都べて豫定の通り執行し。八月十四日（日曜）にはルース氏講習員一同と共に金を鑠かす如き炎熱を冒かし。午前上野公園なる動物園を訪ひて實地會話を練習せしめ。十八日閉會の日には講習員競ひて同氏に其熱心懇篤なる教授を謝し又同日の夜は告別を兼ねての茶話會を會場に於て催ふし。ルース氏始め講習員の英語演説等あり。又ルース氏には滑稽詩を歌ひて一同を抱腹絶倒せしめたり。日々講演の一斑は別項に掲ぐる原忠道。石川悌造兩氏の文に譲づる。而かも是れ九牛の一毛にも足らざるなり

文 部 省 夏 期 講 習 會 の 景 況

七月二十五日より八月十三日まで三週間金澤の第四高等學校に於て催ふせし文部省の英語夏期講習會の景況を講習員の一人たる某氏より聞くに。講師は岡山高等學校の教授英人ガントレット氏。前金澤高等學校教授マツケンジー氏(カナダ人)及び廣島師範學校教授エリオット氏(カナダ人)にして講習員は正員が七十名外に傍聴者が二十人にて。茲に注意すべきは第四高等學校長吉村寅太郎氏及び石川縣第一中學校長久田氏も日々傍聴したりと云ふ。時間は午前八時より十時二十分にて三講師の内最も評判好かりしはガントレット氏であつたらしく。同氏は石川縣第一及び第二中學校の一年級生徒三十六人に習字のレッスンを與へ同第五年級生徒に會話及び作文を教へて實地教授法を講習員に示めし。マツケンジー氏は同第三年級生徒に得意の Natural method を應用して教えたが同じレッスンを四五日間に亘りて教えたり。又エリオット氏には Oral Reading と云ふ題にて五年級の中校校生徒に reading を教えたが其前に emphasis や pause の説明を與へたり。又 Study in English と云ふ題にて是又四五日間に亘れるレクチュアを述べたりと云ふ。最も多く出席したるはガントレット氏にして最も出席數の少かりしはエリオット氏なりと云ふ。ガントレット氏の習字の教え方と英語の發音法は最も講習員に満足を與へたらしく氏の多藝多能なるには一同感服したり。偕閉會式に於て吉村校長の云く願くば尙ほ三四年間同じ講師の下に同じ場所に於て夏期講習會を開きたし左すれば十分に實功を擧げ得るならむと

「文部省英語科夏期講習会」12(6)、明治38年6月15日、188頁

文 部 省 英 語 科 夏 期 講 習 會

本年開催せらるべき師範學校中學校高等女學校教員等夏
期講習會の事は先日官報を以て發表せられたるが其中にて
英語科の分は七月二十五日より八月十四日迄にて其場所并
に講師は左の如し

東 京
金 澤

熊 本

岡 倉 由 三 郎 氏

茨城清次郎氏 ジョンニコルソ
ン、シーモル氏

講 師 井ウリアム、イー、エル、
スウサート氏

「東京の文部省英語講習会」12(8)、明治38年8月15日、251頁

東京の文部省英語講習會

東京の文部省英語夏季講習會は豫定の如く七月二十五日より昨十四日迄岡倉由三郎氏の主任にて小石川大塚町の高等師範學校内に於て催ふされたり。出席者は最初より三十を限りたる趣なるが其中四名許りは缺席し男子二十三名女名子三名合計二十六名許りは缺かさず日々出席したり。右三名の女子は何れも地方の高等女學校の英語教師なる由

「金沢英語講習会」12(8)、明治38年8月15日、251頁

金澤英語講習會

金澤に於て東京と同時に催ふしたる文部省の英語講習會は第四高等學校教官英人シーモル氏と同茨城清三次郎氏の擔當なるが出席者は約六十名にて随分遠方より來りたる人もありし由

走馬燈

今日の世に於て外國語の必要なるは猶ほ刀劍の武士に於けるか如くである。併し敵を殺し已れを防禦するための刀劍も之を亂用すれば自他を殺すが如く。外國語の素養も其用法を誤れば自國の機密を敵國に漏らす亂臣賊子と化せしむる恐がある今日の處英語には先づ其氣遣はないが佛語や獨語の如きは餘程誘惑が多いやうだ。警戒すべき事なり

● 先頃米賓タフト氏と其一行の歡迎會は實に外賓に對する歡迎としては古今未曾有の盛大であつた。實は先年グラント將軍の來遊の時形式の上から言はゞ仲々今度の十分の一も及ばなかつた。社交的日本の進歩も亦た軍事的日本、工藝的日本、學術的日本の進歩と共に著るしいことである

● ルーズベルト嬢が雲霞の如き歡迎者の中に於て薰高き香水のハンケチを打ち振り左ながら天女が天香を雨らすか如しと新聞紙に書てあつたが是は周圍の人の呼吸の臭きと汗臭きとを防ぐ體好き臭氣止とばお氣が附かれずや

● 學校は可成丈社會に信用ある名高き學校を撰まねばならぬ事は密だに其基楚の確實にして設備の完全なるためでない。學校を卒業して世の中に出でたる時に於て其難有味が解かるのじや。學校が確つかりして居れば天下の秀才が集つて来る。天下の秀才は社會に出でゝ勢力ある位置を得るに極つて居る。斯う云ふ人を多く學友に持てば自分が社會に出づるに方りて應援して呉れる。先以て孤城落日の歎が少ない此間の消息は學生時代には左程感ぜぬが一人前と爲つて社會に出づる時始めて感するのである。世

に學友ほど頼母しい者は無い ● 近世私立學校に於て多くの人才を輩出したものと言へば直ちに吉田松陰の松下村塾を聯想するが。併し世には隠れたる松下村塾がある其中の一は遠州掛川在倉眞(クラミ)村に明治十年遠州の豪農岡田良一郎氏が設立したる英漢私塾であらう。此私塾は岡田氏が二宮尊徳翁の主義を以て立てたるにて。行餘力あれば學ぶの趣意にて學業の傍ら耕作に従事すること生徒は勿論教員も亦然りであつた ● 創立より聘せられたる教師は慶應義塾出身の大江孝之氏にて當時は貴公子然たる一青年であつたが矢張日曜日と雖も畑に出でゝ生徒と共に耒耜を手にしたそうなる ● 先頃の事なりし此英漢村塾の出身者にして當時在京中の人士懷舊のためとて大江氏を神田明神社内の開花樓に招待し同窓會を催ふし一同撮影した。其來會者の面々は前文部省次官現今貴族院議員たる岡田良平氏。其令弟たる高等文官試験委員長貴族院議員一木喜徳郎氏東京法科大學教授法學博士山崎覺次郎氏衆議院議員青地雄太郎。文部書記官法學士松村茂助氏事業家足立勝太郎氏の諸氏であつた。今後も毎年二度同窓會を催ふす由なるが學界の一美譚と謂ふべし。因に云く衆議院議員松本君平氏も其後の同村塾出身者なりと ● 世の中は益々詰つて來て中學教員の位置でさへ仲々容易には得られぬ仕末と爲つて來たが併し今日とても一藝一能に達しきへすれば直ぐにも位置は得られる。唯だ人が其専門を堂奥まで修究せぬがために失意の嘆を發するのである。今日英語が能く話し英文が達者に書け兼ねて又タイプライターや英文記帳法さへ辨へて居らば英語教師以外に幾らも位置は得らるゝのだ ● 記者は去る七日大塚なる高等師範學校内に於て催ふす文部省英語夏期講習會に岡倉講師の許を得て傍聴の榮を得たから別項に掲ぐる同講習會記事の補遺として少しく其景況を説かまく思ふ ● 岡倉講師は Stout constitution の人にて身の丈は中脊の上と言ふべく顔は細長なれども新洋行者の常としてテツプリとして肉あり。鼻附は Greek 風に少しく The late Lafcadio Hearn の鼻天に似たる所あり確かに精透なる研究家也と見受けたり。唯だ同氏が教師として唯一の缺點なりと思はるゝは其音聲の餘り高からぬ一事に在り。此缺點に至ては氏は Dr. Sweet に肖たる所あり。沈着にして諄々教えて倦まざるところ敬服の外なし ● 諸講習員は如何にと云ふに洋服の人あり羽織袴の人あり。浴衣に袴の書生姿あり。三名の女子は何れも和服に海老茶袴を穿てあり丸帶を締めてあり。左手を頬杖と爲せる者。俯向く者。仰向く者。質問したがる者。沈黙の徳を守る者。筆記に餘念なき者。瞑目して謹聽する者。各々其性向を發露して居つたが併し最後の時間に一人も欠伸する者の無かりしは講師其人の Credit を reflect するものとや言はん ● 今朝の Lectures は矢張講師の得意たる Phonetics に關係せしが。既に其原理を説き其應用をも説き了りて是より文法作文の教授法に移らんとて。最後の三十分間は其序論とも言ふべきものを述べられた ● 其中の數言を拾ひて言はゞ云く文法を習ふのは地理を習ふのと餘程アナロジー(類似)がある ● 云く中學に文法を教ゆるのは文法を商賣とする(岡倉氏の言葉をまゐ)専門家が教ゆる如くでなく少く共初期には文法の中に含まれて居る原材料を澤山教へて其處まで文法のアナトミーをマスターすることが済んで後文法の方式に進むべし換言すれば文法

は inductively (歸納法的) より始めて後 deductively (演繹法的) に教へなくてはならぬ ● 又同じ意見を繰返へして云く文法を説く前一と通り言葉に付ての substance を學び得さしむべし。其までは文法的の知識を餘り商賣臭く technical terms を教へずには不知不識の裡に文法を知らしむるを要す。● 云く少く共三年迄讀み其と同時に文法を方式的に教へずには暗示的に教へべし ● 云く文法を教ゆるには始めの内は除外例を教えず重なる事をシツカリ教へ込むべし ● 云く現今我國に行はるる文法的讀本の中には一年級二年級と夫々級に割り當てて書いてあるが自分は其を探らず。それよりも文法のスタッフ (原料) を教ゆるを可しとす ● 生徒は外國語の文典を學ぶ前に本國語の文典の知識を多少知つて居る筈だから此知識を外國文典を教ゆる時に應用せればならぬ ● 名詞は或物の名である位は中學生徒が大概前以て知つて居る筈だから之を事々しく教ゆる要はない ● 云く齋藤秀三郎氏が深く文法を研究して文法書を書き世の中を利したることは少なくない結構な事とは思ふが併し同氏の文法書の缺點と言ふべきは文法の重き分と輕き分の區別がして無い。唯 Completeness のみが能でない ● 岡倉氏は神田男爵の文法書と讀本に付ても批評を加へて後文法が心智鍛鍊に於ける効果を論ずるに歐洲に於ける Greek, Latin の學修を主とし我國に於ける漢學を賓として以て譬を引きたるが其論や割切にして如何にも同氏の頭腦の明晰なるを證明した。記者は此一段の講話を聴きて同氏が單純なる語言學者にあらずして思想に富める人であり。其歸朝前倫敦に於て教育ある聽衆の面前にて日本魂の事に付て Lectures を試み喝采を博したる所以の偶然にあらずなるを頷首した ● 云く文法を研究すれば心智を練る功能ありと云ふ説は限られたる意味にて言ふ事にて。成程 Latin や佛蘭西語や獨逸語の如き文法が仲々入釜しくして微細の點まで注意せればならぬ。隨つて注意力を鋭敏にする利益はあるが。併し利益と云ふは此注意を惹く習慣を養ふに止まり文法が精しいからと云つて其れで頭が良くなるのは限らず ● 將基に喩えて言へば將基を差す者は將基だけの注意を惹くが他の方面に向つては注意を惹かず。理髮店の主人には能く將基の強い者が有るが併し其が頭の鍛鍊には成らず愚鈍にして店賃の催促ですら出来ぬ者がある。其と同じで世の中には文法其物に精しく共其他の方面に於て頭の悪い人がある。文法の興ふる mental training の範圍は限られて居る。文法より得たる Mental training にては社會の A member としての資格を作るに足らないと ● 斯の如く極めて卑近の例を借りて論旨を確めたるは岡倉氏獨特の長所にして仲々味ひがある ● 又一步を進めて云く世の中には文法とロツクとは一樣なるかの如く思ふ者あれど。是れは誤解である。例へば I am you と云へば文典の上からは正しいが併し I が you である譯はない (但し禪學では自他の區別はない萬有皆渾然として一なりと言ふかも知れぬが)。故に文法さへ知らば何でも出来るかの如くに文法を唯一の物と思ふのは大間違ひである。文法に精通する人が皆 logical なりとは限らず ● 云く文法は最初は無意識的に教へて後 consciously に教へるを正當の順序とす。中學の一年二年位は unconsciously に教へべし高等文法は中學を卒業して後學ぶべきものである ● 前にも言へる如く初期には

Exceptions 除外例を教えぬを可しとす併し Idiomatic の方は皆當くでなく。其中の要不要を適宜取捨して後教ゆる必要がある ● 例せば is, was, am, are の如きは不規則なれども最も必要の項目なれば可成丈初めより教ゆるが可い ● 以上は僅々時間に渉るレクチュアの一斑を示めしたるに過ぎず。而して岡倉氏のレクチュアは英語の外に獨佛の語を例に引いたり又和漢學をも引用すれば時には岐路に走ることもあるが。併し其れだけ講義が多角的多趣味にして聽者を倦かしめぬ力がある。勿論始終日本語にて話し。發音教授の如き唯だ同氏が語るのみで講習員には練習せしめなんだ。是は講習員が教員たる身分に氣兼ねてからの遠慮かと思はる。兎に角氏のレクチュアは日本語なれども説く所が多角的にして範圍が廣きゆゑ一々筆記するのも随分骨だつたろうと思はる。以上摘記したる所は可成の講師の用語を其まゝに用ゐたるなれども萬一誤聞あれば其は記者の責任である ● 金澤の英語講習會は昨年のと較べて如何であるか未だ其景況を詳かにせざれども本月一日の如きは單語を書取らせ s と th, r と l など聞き分ける練習がありたりと云へば餘り高尚でなく實用卑近を標準とせるやにも思はれる。因に云く同地の講習員約六十名の内九名は國民英學會出身にて本月二日は同窓會を某處に於て開きたりと云ふ ● 熊本の英語講習會はどうであつたか若し景況を聞き込まば何れ次號に於て報道せん ● 前號に紹介したるガントレット氏の直立體習字帖 (三省堂出版) の批評が先日のツヤパネールに見えしが。冒頭に斯う云ふ事を言つて居る ● 云く日本人は字を書くに右手が自在であつて且つ字を書く天稟の嗜みがあるから若し則とるべき良手本がありさへすれば立派な書家と爲れるのだが。併し何 (ド) う云ふ譯だか日本の學生は十年以前のやうには能く書けぬ ● これは彼等が識り合ひの外國人の癖を眞似るからであろう。例せば *ly* を書くに *l* を長くしたり *y* の下部に輪を作らずに書く如き狂態を眞似るからであろう ● 云く凡そ著るしい癖は多くの模倣者を作るものなれば。若し直立體の著るしき簡易と著るしき正整が同様に多くの模倣者を得たらば結構である ● 云く此癖を眞似れると云ふ事は讀み悪い字を感服すると云ふ心から起るのである。故に習字教師たる者の義務は此感服心を學生の心から除き去るやう教ゆるに在り ● 云く直立體の比較的斬新なる一事は學生を其方に惹き附ける一個の強き引力と爲るであろう ● 云く常に同じ事を同じ方法で爲すのは人情の厭ふ所である。日本の假名に片假名とか平假名とか萬葉假名とか種々の差別があり、又漢字の草書には種々の變體がある所以は此理より起つた結果であろうと。毎度ながら外國人が我國の事物に對する觀察は面白いではないか ● Winchester 氏の有名なる Principles of Literary Criticism の中に斯う云ふ事を言つて居る。十九世紀後半の英國詩人で後世に珍重せらるゝものは Rossetti, Swinburne, Morris の詩作よりも Matthew Arnold, Browning, Tennyson の詩作ならむ。是れ前者は中世の神話や口碑を題とし後者は其當時の最も深き思想と感情を吟咏したればなりと ● The Historian's History of the World (全世界歴史家全書) と題して紀元前五千年より千九百〇四年日露開戦に至る迄七千年間の大歴史が丸善に來て居る。索引に擧げたる項目が二十五萬件で卷數は上製全二十五冊。それで賣價金參百圓とは聞いて驚く

走馬燈

敗戦に次いで悲しむべきもの勝戦に如くはなし (Next to a lost battle, nothing is so sad as a battle won). と

は英將 Wellington の述懐である。嗚呼千古の名言。我々は今に及んで此一言の味あるを自覺す Here folly pashed to earth the victor's plume, and Policy regained what arms had lost とは Byron が *Childe Harold* に於て戦に勝てる英國が外交に於て佛國に負けたる當時の失敗を憤慨せる一句である。此邊の註解は本誌第五卷の同詩篇註解に在り讀者は尙ほ記憶せらるべし。語を寄す海内四千万万人の同胞よ今日吾人の憤慨する屈辱は歴史に於て其前例なきにしもあらず。由來何れの邦を問はず權祖折衝は戦闘よりも困難なる所以を反思せよ 〆 聞く所に依れば海軍兵學校の入學志願者は皆に其學力と體格のみならず其血統に於ても重きを措き庶生兒の如きは採用せざるやう昨年頃より實施せられ居ると堂々たる帝國海軍に取りては左もあるべき事にて海軍々人の品位は是より倍々高かるべし 〇 國民英學會の出身にて香川初太郎氏は熊本濟々塾中學の英語教員たりし處先月十八日熊本縣立病院に於て病死し同二十七日谷中天王寺に於て其葬儀を営めり。同氏は東京の人にて明治二十九年五月國民英學會英文學科を優等にて卒業して後函館中學校、岡山縣立津山中學校、三重縣立第三中學校、東京市芝區私立正則中學校、熊本濟々塾中學等に教鞭を執り又明治三十五年二月文部省教員檢定英語科試験に及第し斯學に於ては珍らしき篤學家にて其造詣も至て深かりしが不幸短命にして死すと痛惜すべき事である 〇 東京に於て開催の文部省英語夏期講習會は八月十四日東京盲啞學校に於て其閉會式を舉行したるが其前講習員一同には岡倉講師慰勞會を兼ねて懇親會を高等師範學校内に於て催ふしたるやうな 〇 其懇親會の席上に於て或人岡倉講師に向ひ人と云ふ者は固より神では無きゆへ失措と云ふ事は免かれませぬ。ソコで先生も又神でないゆへ少々位は失措もあられたであらうと信するゆへ後學の爲めに承りたいと三段論法を以て請求すれば岡倉代も去る者、然らば一つ二つ懺悔話仕らんとてエヘン咳一咳して述べられたるは左の如くである 〇 岡倉氏が高等豫備門(?)の生徒たりし時神田乃武氏は丁度米國より歸へり立にて同氏等の教員であつたが其頃の洋行者と云へば現今とは違ひ恰かも神でもあるかのやうに尊敬した時代なれば生徒一同も神田氏を確かに人間以上の活物と思つたらしむ 〇 そこで岡倉氏は一舉一動神田氏の舉動に注意し。神田氏がハイカラー的に頭髮を綺麗に分けて居るのを見てハ、ア洋行者と言ふ者は斯くの如く髪を分ける者だなと感服した。次に神田氏が廊下を通行する時靴音を立てぬのを見てハ、ア洋行者と云ふ者は靴音を高く響かせぬものだなと感服した。次に神田氏が蝙蝠傘と手提籠を教師のテーブルの上に置くのを見てハ、ア洋行者と言ふ者は蝙蝠傘と手提籠をテーブルの上に置くものだと感服した。次に神田氏がハンケチを以て口邊を拭ふのを見てハ、ア洋行者と云ふ者はハンケチを以て口邊を拭ふものだななど何もかも感服したやうな 〇 次に岡倉氏が未だ書生上がりの時或る學校にて文法を教へて居る時丁度文部視學者が校長に連れられて教室見廻りに遣つて來た時に一文章の中にて“but”の字の意味が何(ド)うしても解からぬ。由て抑も“but”は云々の意味もある。何々の意味もある。斯う云ふ場合には何と云ふ。ア、云ふ場合には何と解するのだと同じ事を何遍も繰り返へし心の中では早く時計が鳴つて呉れいば良いがなと思ひしかども時計先生容易に鳴つて呉れず。それでも尙ほ斯

う云ふ文の but は何品詞に屬す。斯う云ふ時の but は接續詞ではないなどと黒板を消して書き消しては書き居る内に待ち構えたる鐘は終に鳴つたそこで先生澄まし切つて生徒に向ひ此處の but は次同に於て説明します 〇 鳥渡お聞き申しますソツプとスープとは同一のものですが但しは又別物に候哉とマジメに質問を懸けたは先頃金澤に於て催ふした文部省の英語夏期講習會に於ての一珍話質問者は或中學教員で質問を受けたは講師の一人茨城清次郎氏であつた 〇 茨城清次郎氏は第四高等學校教授にて今年の金澤講習會に Dr. Seymour と共に講師たる事が官報に出でいから一般學生間に其名聲を知らるゝやうに爲つたが氏は金澤の人にて青年時代より秀才の譽高く同地の高等學校を出で大學に進み忽ち文學士と爲り忽ち第四高等學校の教授と爲り忽ち外國語教授法研究の爲めに英國に留學を命ぜられ二年間滞在の後昨年歸朝し引續き第四高等學校に教鞭を執らるゝ同氏は年齒僅かに二十四五歳なる由 〇 右の金澤講習會に於て一つ注目すべき事は或講習員の發議に依りて會員互に中等教育に於ける英語に關して話題を提出せしめ更に委員をして之を撰擇せしめた上數ヶ條に纏め。然る後各項に付き意見を吐露したる由 〇 今其話題の重なるものを擧ぐれば。(一) 教科書を使用するの可否。(二) 神田文法の各年級に配當の實況。(三) 教科書の最良なるものは何ぞ。(會話)に於ては(一) 教授法。(二) 自由會話の可否(三) 外人を用ゐざる學校に於て上級生に對する教授法如何。〔作文〕に於ては(一) 上級生に對する教授法如何。(二) 和文英譯と自由作文の利害。〔教授法〕に於ては(一) 神田讀本一、二を全く邦語に據らずして授業せる經驗ありや。(二) 各讀本の教授法。(三) 教授打合せ方法如何。(四) 英語の擔任は學科別にすべきか級別にすべきか。(五) 讀本のみにて英語全體を教授するの可否。〔試験〕に於て(一) 試験の弊を避け得て而かも生徒をして準備を怠らざらしむる方法如何。(二) 英語各科の日課點并に試験點を附する實況等にて。其他讀方及譯解、習字及綴字の條下に尙ほ許多の題を設けたるが會員交々自説又は實地經驗を述べ中々有益なりしが閉會の期迫まり僅かに大體丈の談話に止めたりと云ふが如何にも哀き思附にて後來催ふ夏期講習會のために好範例を開けるものと謂ふべし 〇 過去八年間諸官立學校の入學試験と文英譯の問題を對照して見るに一番六つかしいのが高等商業學校で其次が商船學校其次が東京外國語學校と海軍機關學校と高等師範學校である。海軍兵學校の入學試験は程度は餘り高くもなく餘り低くも無く中庸にて各科とも至極綿密である。高等學校の試験問題は高等商業學校に比しては遙かに平易である。陸軍士官學校の問題は以前は六つかしいのもあつたが兩三年來ズツと平易に爲つて來た 〇 是より露西亞語の研究は倍々必要と爲つて來た。樺太が露國との分轄と爲り隨つて日露兩國民が衝突する機會が多く爲つて來るだらうから 〇 函館中學校教諭心得たりし茨城教四郎氏(國民英學會出身)には英語英文學專攻の爲め本月八日横濱解纜の伊豫丸に搭乘し米國へ出發せり。因に云く氏は乗船前例の如く體格試験を受けしが同氏の語に此體格試験は重にもトラホームの有無を檢査するのであつて首尾能く試験に及第したものは全數の三分一に過ぎざりしと。以て如何に試験の嚴密なるかが推知せらる

走馬燈

「文部省の夏期講習会」13(6)、明治39年6月15日、188頁

文部省の夏季講習會

本年開設すべき師範學校中學校高等女學校教員等文部省夏期講習會の講習學科目、開會地、開會期限、講師、講習員資格等は五月二十六日の官報を以て告示されたるが。今英語科のみを茲に擧げんに講習地は廣嶋市にて。七月二十五日より八月十四日まで開き講師は廣嶋高等師範學校教授杉森此馬氏。同栗原基氏。同講師ビー、エー、スミッス氏。又其講習要目は二項に分ち。第一は英語音韻學(母音概論。子音概論、練習讀法)。第二は英文學講義(第十八世紀末葉より第十九世紀始めに至る概論)なりと云ふ

本年の文部省英語夏期講習會は別項に掲ぐる通り廣嶋の高等師範學校に於て開き講師は盡く同校の教授が擔任との事。洋行歸りの杉森氏も其中に見ゆれば定めて見覺ましき新知識を頒たるいならむが併し廣嶋と來ては餘りに土地が偏するやうだセメテ山紫水明なる京都であつたら宜かるうにと思はる ① 文部省がどう云ふ譯で廣嶋と定めたかは固より知る所ではないが併し廣嶋高等師範學校の教授連が出席するゆへ廣嶋にせればならぬと云ふ理屈は無い筈。僻遠の地方に奉職する中學師範等の英語教員は毎年でなく共少く其隔年毎に東京なり京都なり外國人の多く居住する繁華の土地に上るのが必要である。其機會を得るのは暑中休暇より外に無きゆへ成るべくならば講習會も東西の兩都に開きたきものである ② 數年前本誌にも度々報道せる通り英國 Oxford と Cambridge の大學にては隔年に交替して University Extension の夏期講習會を催ふずのが例と爲り本年はケムブリッヂ大學の持と爲つて居る。先頃同大學より記者に送り來れる其趣意書を見るに其 Science の部に先年我邦に來遊したるミス、ヒューズの名前が講師の中に見ゆ。そして同女史の演説は“The Teaching of Nature and Art in Japan.”としてある。定めて例の辯で日本通を揮り振はすことであるう ③ 此ケムブリッヂの夏期講習會は八月二日に始まり同二十八日に終はるのだと云ふ。日本からは今から直ぐ出懸けても遅くは無かるう ④ 其趣意書の中にケムブリッヂ滞在中の下宿料までが書てある。其で見ると一週間二十五シリンク即ち我が拾貳圓五十錢で部屋代と食料は十分だ。モツト安く上がるかも知れぬと。シテ見れば一箇月の下宿料がざつと五十五圓と爲る譯。成程オックスフォードやケムブリッヂにては神田や本郷邊の如く下宿屋の部屋とても學生向に小さく出來て居り食事とても質素であるから其で往ける ⑤ 在桑港の社友岡内半藏君より四月二十一日即ち彼の大地震があつて三日目に出した葉書が先頃記者の手に落ちたが同君は幸ひにも安泰なる由 ⑥ 又之も國民英學會の校友にて四年間桑港の某神學校に於て英文學と神學を學びたる新井正平君には同校を卒業し數日前歸朝した ⑦ 新井氏の語に依れば桑港在留の日本人は近年來何れも其事業が盛大を來したりとて喜べる最中に今度の大地震と大火にて大打撃を被むつた ⑧ 例の米國小學校生徒の宿所と姓名を知らせるとは前號の本誌にて一先づ謝絶して置いたが是は何も記者が其勞を厭ふのでは無くて。何分先方は僅かに十五名の小人数なるに對しては本誌の讀者中より彼等と文通もし繪葉書の交換もせばやとて申し來る者既に三百名を超えて居るいくら米國人が金持だとして斯う一時に澤山の相手があつては仲々以て娘一人に婿八人どころでなく米國の少童少女は親からもらふ小使錢を皆葉書や郵便切手に費さればなるまいと。斯う考へてから一先謝絶した譯であるから我が最も愛する讀者も記者の苦衷を推察して貰ひたい ⑨ 讀者の中には隨分難きを記者に求める者があつた。それは先方の宿所姓名を知らせて呉れと云ふ註文ならばまだしも。先方へ書き送る葉書の文句までもスツカリ教へて呉れと云ふて來たにはイヤハヤ記者も大迷惑だつたが其需めに應じた。併し是では何の學問にも爲らぬ斯くの如く記者は先方の手前を憚りて不本意ながらも宿所の通知を謝絶することにしたが併し先頃該小學校の校長 Miss Warren に手紙を送り本誌讀者の内まだ仲々多く貴校の生徒と繪葉書の交換を望む者があるから彼の十五人の外に日本の學生と文通したき志望の者があらば其姓名と住所を一報してもらひたいと書き送つた。多分近日の内に其返事があるだろうと思ふ其節は本誌に於て披露することいせう ⑩ 然る處茲に耳よりの話がある之を漢文流に堅苦しく言ひ廻せば空谷の足音とでも謂ふべき一の福音がある。其は何だと云ふに曩に記者より知らせて遣つた。其に従ひて例の小學校の生徒二名に早速繪葉書を贈つて遣つた京都の人にて和田傳吉と云ふ斯學篤志家より一週間前記者に寄せたる書狀を見ると Master Paul Currier よりの返書と外に彼十五人の外なる Miss Era Dimick なる芳紀十五歳の一少女より同氏に寄せたる

ガントレット氏主任 英語夏季講習會

國民英學會にては英人イー、ガントレット氏と相談り
斯學語名家の賛成を得て中學師範高等女學校英語教員のた
め來七月廿日より八月十八日まで三週間英語夏季講習會を
開催する筈なり。講習會場は神田區今川小路二丁目八番地
專修學校講堂にて。毎日授業時間は英語科が午前八時より
十一時まで。別科としてエスペラント即ち新萬國共通語を
十一時より十二時迄教授す。聴講料は英語科金貳圓五拾
錢。エスペラント金七拾錢。英語エスペラント兼修は金參
圓とし。束修は要せず。入會申込は來二十五日限とす。詳
細なる規則は別に印刷しあれば郵券貳錢封入の上國民英學
會へ申込あらば送呈すべし。尤も同講習會は教員にあらず
と雖も中學校卒業生以上の英語の力ある者は特に出席を許
す筈なり。其趣意書左の如し

ガントレット氏英語夏季講習會趣意書

英人ガントレット氏ハ數年來岡山高等學校ニ英語教師ト
シテ教鞭ヲ執リ來八月更ニ金澤第四高等學校ニ轉任セラ
ルハ筈ナリト聞ク同氏が我國人ニ英語ヲ教授スルコト玆ニ
十數年、其教授法ニ老練巧妙ナルハ一昨年金澤ニ於テ催サ
レタル文部省英語科夏季講習會ニ於ケル手腕ニ徴シテ明カ
ナリ、氏又フオチチックスチ首メ英語ニ關スル著述ハカ

ラズ、其筆ニ成ル英習字帖ハ當今弘ク全國ノ各中學校又ハ
商業學校ニ於テ教科書トシテ採用セラル、コト世人ノ知ル
所ナリ、實ニ氏ノ英語教授法ハ發音會話作文書取習字ニ於
テ各々獨得ノ創見ヲ有シ最モ常識ニ富ミテ入り易キヲ主ト
ス、其多技多能ナルヲ英語教授ノ旁ハラ夙ニ日本語速記ノ
新式ヲ發明シ、又歐洲ニ新萬國共通語タル「エスペラント」
ノ起ルヤ早クモ之ヲ研究シ率先シテ此新語ヲ本邦ニ輸入シ
爾來其普及ヲ圖ル等勉メタリト謂フベシ、今又夏季休業將
サニ近キニ在ラント是レ英語教師トシテ職ヲ各府縣中學校
師範學校高等女學校若クハ商業學校ニ奉ズル者ノ修養シ
他日ノ蘊蓄ヲ計ル好時機ナリ由テ玆ニガントレット氏ト相
謀リ諸名家ノ賛成ヲ得テ此講習會ヲ豎般ノ下ニ開キ聊カ奎
運ヲ補フ所アラントス冀クハ以上各學校長及ビ教員諸氏ノ
賛成ヲ得テ此講習會ヲ盛ニシテ二分ノ效果ヲ收メントナ
明治三十九年六月二十日

會主 磯邊彌一郎

賛成員 (イロハ順)

男 露 神 田 乃 武 氏

津 田 梅 子

小 嶋 憲 之 氏

淺 田 榮 次 氏

英習字に關する意見

去五月十二日英語教授法研究部會に於て決したる英習
字に關する件は同月廿五日會長より左の通り文部次官に提出
したりと云ふ

本月十二日開會の本會英語教授法研究部會に於て英習字
に關し別紙の通審議可決致候に付御參考迄に呈供候也

明治三十九年五月二十五日

帝國教育會長 辻 新 次

文部次官心得福原錄二郎殿

- 一、中學校生徒間に英習字獎勵の爲め必ず各學年試験
に於て其點數を英語科目の點數に加ふること
- 二、文部省直轄學校の入學試験に於ても英字筆蹟の良
否に依りて書取作文の採點に斟酌を加ふること
- 三、文部省教員檢定試験外國語の部に英習字の一課目
を加ふること
- 四、文部省令第三號中學校教授要目に掲ぐる英習字教
授の一項は簡略に過ぐる嫌あれば今少しく精細に説示する
こと

説 明

- 一、教師の筆蹟は直接に其感化を生徒に及ぼすものに
して其の書風美なれば黑板に書く時又作文の添削書取の訂
正に於て生徒は知らず識らず其善美なる書風に感化せらる
るに反し若し惡筆なれば生徒も亦惡筆に化し又自から習字
を蔑視するの恐れなしとせず
- 二、試験答案の文字讀み易く且つ美なれば採點上少な
からざる利益を受くべし
- 三、生徒の筆蹟善美にして且つ迅速に文字を書き得る
時は英語科は勿論地理歴史等の筆記に於て時間の空費を防
ぎ隨て教授の分量を増加する利益あるべし
- 四、文部省令第三號中學校教授要目に由り中學校第二學
年以上は特に英習字の時間を置かざる故生徒は習字を等閑
に附し易く却て之を課する第一學年の時に比し其の筆蹟の
劣る傾向あり是れ事實に於て往々證明する所なり

走馬燈

東京高等商業學校の卒業生は近來益々需要が多く本年の卒業生も専攻科卒業生を容れて二百名以上あるが最早大概其就職口が極まつて居るそうなる。同校卒業生は銀行や保險會社より傭入の口は澤山あれども餘り望手が無いそうなる。もつとも日本銀行と正金銀行は別に此二銀行ならば海外に行けるゆへ希望者は多いが其他の銀行や保險會社は事務の單調なる故に兎角好まざる風ありとか。又鐵道作業局からも口が懸つて居るが是も不人望だそうで。兎角官吏社會は東高商の卒業生が厭がる傾向があるとの事。之に較べては大學卒業生や高等師範の卒業生や私立學校の卒業生の身の上實にあればなものだ。一方は空しく利器を抱きながら輾轉不遇を歎じ此の世を狭しと思ひ終には厭世家と化するに他方では天下到處雙腕をひろげて我を歡迎する所ありとて得意がる。世の中と云ふものは狭いやうで廣い。廣いやうで狭いものだ。生きては不遇の地に立ち死しては天下の光榮を一身に集むとは故矢野次郎氏の語か。同氏は夙に Good English speaker として其名を知られて居つたが。記者が始めて同氏に面會したは同氏が尙ほ高等商業學校の校長時代であつて。英語教員傭入の件にて同氏を商業學校に訪問したるに時正さに正午過にて。こちらへと小使の案内にて校長室に通はされた。恭しく入口の戸を明けるとブンと香ばしい牛鍋の臭が鼻を衝いて來た。見ればダントの面相たる長顔瘦面の斑白なる老紳士が今や牛鍋を火鉢に懸け畫餠を喫する最中

にて記者を見るや恰も十年の舊知己でもある如くに無造作にいきなり英語にて話を仕懸けられたには驚いた。暫く用談して辭し去りしが此間同氏は始終箸を牛鍋よりして自身自身の口にまで運びつゝあつて少しも氣取るところ無きのみか堂々たる直轄學校の校長としての威嚴は何處に在る乎と疑はしめたが併し是が所謂矢野主義と云ふものであつたのか。矢野氏が校長時代には常に幌馬車を以て駈け廻り同校卒業生の就職の口を探がし廻はつたことは其頃の談柄と爲つて居る。同氏が其一身合體とも謂ふべき高等商業學校の校長を止めたは表面は病氣のためと云へど内實は同校を大學組織に改め卒業生に學位を與ふべしとの議論學生間に起り。同氏は例の主義にて商人に學位も糞も入るものかとて大に反對したのが學生の氣に障はり終に排斥運動と爲つた結果だと記者は記憶して居る。我儕が高等商業學校の講堂に入る毎に何となく不足に感ずるのは講壇の左右に森有禮澁澤榮一兩氏の油繪の肖像を飾つてあるが何故矢野氏の肖像が無いのだらうと遺憾に思ふのである。本年の高等商業學校入學試験には書取の答案に於て筆蹟をも見て採點したと云ふ。英習字の必要もいよいよ實際問題と爲つて來た。教師も今の内に手習をして置かぬと生徒に却て笑はれるぞ。油斷のならぬ世の中や。別項に掲ぐる如く本月三十日より八月十八日迄三週間國民英語學會の主催にてガントレット氏の英語夏季講習會を專修學校内に於て催ふす筈なるが。實際を云へば記者の如きは暑中は十分に休養したいのである。決して自から求めて勞苦したくはなし。靈骨的に云へば慾も何もない唯だ平生事務に忙殺せらるゝ心身をばせめて暑中休暇なりとも靜養したいのであるが。併し今年文部省の夏季講習會は唯だ一個所廣島に於て催さるゝのみなれば全國の中學師範高等女學校の英語教員の失望は左こそと察せられるのである。そこで最初ガントレット氏より申込ありしを直ちに承諾したのであつて。記者は最初より時と勞とを犠牲にする覺悟である。記者が中學校其他の英語教員の爲めに夏季講習會を催ふしたは今度で三度目。第一回はスワン氏第二回はルース氏の講習會であつたが何時も記者に取りては犠牲的であつた。唯だ此種の計畫が幾分か我國の英語界に貢獻する所ありしに相違なしと思ひ。之を以つて勞と時とに報ゆる無形の報酬だとして自から満足して居る。先頃發兌の米國 The Atlanta News と云へる雜誌に筆蹟の良否が國家の興亡に大關係を及ぼしたる古今の例を擧げてある。其中にナポレオンがウオーターローの戰爭に敗れたは其筆蹟が拙であつて號令の文字を其主將の一人 Grouchy が誤解した爲めである。即ち其號令は “bataille engagée” (battle is on) なるか將た “bataille gagnée” (battle is won) なるか判然と解からなかつた。そこでケルシー將軍は第二の意味即ち「戰勝てり」の意味に解し最早前進の必要なしとて油斷し來着が後れたから佛軍は敗戦したのだと。彼の米國エヴァレット小學校生徒と本誌讀者との通信は既に開かれ繪端書の交換が盛んに行はれて居るらしい。讀者の中には往々先方より受取つた手紙の寫を記者に送り來る者あり。又リッコン學校の生徒よりも私の友達何某は貴國の學生より美麗な繪葉書を贈つて貰つた。私も是非欲しいから一枚頂戴なと無心の手紙が其後二三本記者の許へ着して居る。そこで若し讀者の中に同校生徒と繪葉書の交換がしたくば手紙の中に一二枚美麗なる繪葉書を同

「広島英語講習会」13(8)、明治39年8月15日、250頁

広島英語講習會

廣嶋高等師範學校に於て催ふし昨日を以て終了したる筈の文部省英語夏期講習會は豫定の如く去月二十五日開會したるが出席者は約五十一名にて。中には福島縣や山形縣の中學校より遙々出張したる者もあれども關東の人は至つて少なく中國四國九州邊の中學教員が其大部分を占めたり其中には臺灣より出席したる者もありし由にて一つ注目すべきは沖繩縣中學校の傭外國人が一名出席したりと云ふ。合計三十四時間の内英文學史十時間の外は全く發音の理論及び練習なりし由。

「ガントレット氏の英語並エスペラント講習会」13(8)、明治39年8月15日、250頁

ガントレット氏の英語並エスペラント講習會

前號の本誌に豫告の通り國民英學會の主催に係はるガントレット氏の英語并エスペラント夏期講習會は豫定の如く神田今川小路二丁目專習學校に於て先月三十日より開會したるが英語科の出席者は大概中學教員にて約百名ありエスペラントの方は其二倍の多きに達したり。英語教授法に關しては夙に老熟の名あるガントレット氏の事でもあり又エスペラントの教授は我國に於ては破天荒なれば開會前より其評判高く先づ以て十二分の成功でありたり。英語科の講習會は遙々九州邊より來會したる者あれども大概は京阪以東の中學教員にて廣島なる文部省の講習會と東西相對立し茲に全國の中學英語の領分を二分したる觀ありし。英語科の出席者は大概エスペラントを兼修し。又兩科共數名の女子出席者あり何れも有名なる女學校の出身なり。エスペラントの講習會は知名の新聞記者もあれば實業家等もありて其分子種々雜多なり。又參觀者は絶えずありて中にも輕井澤に避暑中なりし米人某氏には態々出京して一日參觀に來りしことあり講師ガントレット氏の着實にして諄々教えて倦まざる風あるは殊に欽仰すべし

走馬燈

昨今俄に流行を來たしたのは 에스ペラントで。此兩三年來チラホラと 에스ペラントの聲は聞えしも世人が又例の世界語かと聞き流がしにして居つた然るに雑誌[直言]に其文法の一斑が顯はれ夫から讀賣や二六などに書き立つるやうに爲りて世人の注意を惹き始め。先頃終に日本 에스ペラント協會が東京に設立せらるゝに及び 에스ペラントとは如何なるものかと益々世人の好奇心を引起した矢先に斯道の泰斗ガントレット氏が東京に於て此度 에스ペラントの講習會を開くと云ふので今まで嫌つて居つた焰はバツト燃え立ち。いよ々々以て 에스ペラントが新語學として我國に基礎を立つるに至つたのである。● 最初の見込では 에스ペラントの講筵は出席申込者二十名に達した上にて開かんとの前觸をなし置きたる程にて實は成效を危ぶみ居たるに蓋を明けて見れば二十人が十倍と爲つて殆ど二百名の多數に達した。● 七月三十日午前十一時イザ是より 에스ペラントの講筵が始まらんとする時一同の好奇心は茲に沸騰點に達したやうで知識の新天地は今や將に彼等の眼前に展開せられんとし。満場片唾を呑んで講師の發聲を待ち構へたる其さま英語で形容せば Sublime とでも言ふべきであつた。● 今日には實に一刻も油斷のなれぬ世の中じや。少しでも脇目なすると他人に抜懸けせられ自分は人後に落ちねばならぬ。暑いかからと贅澤を極めて海水浴や温泉に可憐光陰を空費して居る間に一方では油汗

を流がして 에스ペラントの研究に餘念なき者もある。三週間の苦學も其効空しからず新知識を得て我身は已に萬人を抜くこと數十百里の外に在り。知識是れ權力也と云へば此新世界語を學び得たる身は是れ新たに權力を得たのである。世界萬國の 에스ペラントと自由に交通し得るの權力を實際得たのである。● 何でも新しいものは涼しいものである。果して然らば 에스ペラントの研究も亦最良なる消暑法と云はねばならぬ。何となれば問題が新しいから身外の事物を忘れる。三伏の炎暑の如きは何の苦にも思はねからである。● 記者が毎々憤慨する通り我我英語研究者は何時までも英米人の前には何だか頭が上がりぬやうだ。先方が如何に詰らぬ人物でも英語と云ふ點からは何となく一目置くやうな氣がしてならぬ。然るに 에스ペラントに至ては或る國の歴史的國語でもなく言はる世界共有の國際語であるから此國際語を以て行く分なら何れの外國人とも同等である。少しも氣兼ねることも要らず茲に至て始めて語學上對等の地位に立つと云ふものじや。● 에스ペラントが將來日本に盛んに流行するに至らば英語の行末は何う爲るだらう。エスペラントには英語のやうな不規則もなければ例外もない。譯もなく學ばれる。之に較べては英語の如きは迂遠極まるゆゑ途にはすたつて仕舞ふだるふとは英學者のチョツト杞憂する所ならむ。現に記者も最初の頃は左様に思ふた。いよ々々 에스ペラントが世界語として英語に取つて代つたら其れこそ大變だ。丁度英學に取つて代へられた漢學同様我々英語で飯を喰つて居る者は口が干上がつて仕舞ふだらう。ハテサテ困つた事だと内々苦にしたこともあつたが。併し彌々眞面目に 에스ペラントの研究を始むるに及び此取越苦勞も無くなつた。● 其譯と云ふは元々 에스ペラントは既に存在する國語の補助語として起つたのであつて彼 Volapuk の如く萬國語として凡ての國語を打滅ぼさんなどの野心は無いのである。● 元來我大學の如くに數個の外國語を學生に強ゐるのは馬鹿氣な事でもあり又無理な事である。限りある人間の腦力にて左様一時に數個の國語が覚えらるゝものでない。縱令し生嚙りは出來得るも實地の用には立たぬ。然るに英語なり獨逸語なり若しくは佛蘭西なりをウント學びて我物とした上補助語たる此 에스ペラントを學び置かば勞と時とを大めに儉約し得て其他の國民と自由に交通が出来る。此事は現に歐洲に於ても實行され獨逸の學者間には 에스ペラントを以て學術研究上の通信語とする者ある由。● して見れば 에스ペラントの盛んに赴くのは普通の語學研究者に時と勞とを省かしめ益々其専門の語學に上達せしむる機會を與ふるのであれば我々英語研究者も大めに安心し且つ喜ぶべき事である。● 第十版の大英百科事典には 에스ペラントの事が載つて居らぬ。然るに兼々記者が本誌に於て紹介した倫敦の Harmsworth Encyclopedia には凡そ其半欄を 에스ペラントの記事に充てて居る。因に云く同百科事典は全部四十冊の處第三十二冊が先日到着したから本年中には全部出來するだらうと思はる。● 에스ペラントの發明者 Dr. Zamenhof (ザメンホフ) は露領ポーランドの眼科醫者にて始めて此新語を世に發表したのが今より二十年前即ち千八百八十七年七月であつた。然るに此人は名利の念薄く始めは Dr. Esperanto なる假名にて發表した。何も 에스ペラントなる人が別に有るのではない。然るに邦人の中には別に 에스ペラントと云ふ人があつて多分スペインの人らしく此人が同語を始めて工夫したの

文部省夏期講習會

本年の夏廣嶋にて開催せし文部省英語夏期講習會の景況は同講習會に出席せし社友毛利元正氏より詳細報じ來りたるが。今と爲りては少しく時機を失するやの恐あり。且つ本號に餘白乏しきゆゑ。其中より一時的でなく永續的の價値ある部分のみを拔萃し下に掲ぐ

一、活きたる蓄音器

此頃はライオン齒磨小林富次郎氏米國よりエヂソン式語學用蓄音器を輸入し。大分英語界に好評あるやうだが。今又標題の如く(活きたる蓄音器)と聞ては又其上の改良かと驚く人々もあらんが實は斯うである。講師杉森此馬氏が開會式當日に述べたる演説中に下の如く言つた

予が受持の音韻の如き。一見平易の觀あるも。殆ど今日にして語の根本ともいふべき音韻は果して如何なる方法手段に由るべきか。學者の所論まだ一定せざるが如き位なれば。實に研究すべきの價値あり。幸ひに Mr. Smith の同意を得。同時に二人して講義することいせん(此一言に講習員一同は不審顔)。換言せばスミス氏をば予が音韻學講義の道具に使用する積なれば。スミス氏は即ち一種の蓄音器であると言つた時は衆一同微笑を禁するを得なかつた

(記者評)。日本人が邦語を以て音韻學を説き。音韻の實例には西洋人の道具に使ひ其活きたる音を以てす。是ぞ理想上の教授法にして甚だ可し

二、英語と英文學

杉森氏に次いで栗原講師には一應の挨拶ありて後。英文學を講習會に講ずるのは多分文部省の講習會にては破天荒なるべく。自分にも甚だ名譽とする所である。是れ蓋し文學即ち國民の思想と日用語との連絡密接なる所以が明かに認められたる一證にして。吾人が英語を教授するのは或意味より云へば文學を教授しつゝあるもの。換言せば英語を教ゆるは英國の思想を鼓吹しつゝある也。清韓人と大和民族の異なるは外來の新思想に由り。自分てふものを發揮するの有無に在る 所以なれば。吾等中等教育者は單に Linguist たるのみならず。又大に Educator たるの覺悟あるべきにあらざるかと言ひし由。

三、參考書

廣嶋高等師範學校圖書室は午後講習員の便を計りて開かれ。別に又講習用參考書として掲示の書目は下の通りであつた是等の書は現に同校の所藏に係はる

Warner: *Library of the World Best Literature*.
Knowlson: *How to Study English Literature*.
Garnett and Gosse: *English Literature*.
Saintsbury's *Nineteenth Century Literature*.
Coleridge; Charles Lamb's Works; Keats' Poetical Works; Cowper's Poetical Works; Campbell's Poetical Works; Byron's Poetical Works; Burns' Poetical Works. Scott: *The Waverley Novels*. Sims: *Living London*.
Brander: *Main Currents in the 19th Century Literature*.
The Works of Chaucer. Lee: *Stratford-on-Avon*.
Shelley's Poetical Works. Lee: *A Life of W. Shakespeare*. Johnson: *English Dictionary*.
Encyclopedia Britannica. The Century Dictionary.
Rippmann: *Modern English*. Sweet: *History of English Sounds*. Sweet: *A Primer of Spoken English*.
Scripture: *Elements of Experimental Phonetics*.
Myer: *Lexicon*. Magazines: "Outlook"; "Current Literature"; "Literary Digest"; "Review of Reviews".

四、音韻學に關する參考書

(註) 括弧の中は出版所の名なり)

H. Sweet: *A Primer of Phonetics*. H. Sweet: *A Primer of Spoken English*. (Clarendon Press, Oxford).
R. J. Lloyd: *Northern English* (D. Nutt, London).
Rippmann: *Elements of Phonetics* (Dent, London).
Rippmann: *Dent's First English Book*. E. R. Edwards: *Victor and Dön Engisches*. E. R. Edwards: *Lesebuch 1: Phonetic Transcription* (B. G. Teubner, Leipzig).

(因に云く此獨逸ライプツヒ府の書肆たる B. G. Teubner には何國の出版でも苟くも Phonetics に關する書は何でも有るそうなる。又 Edwards 氏は先年日本に來り日本語の音を調べた人なり)

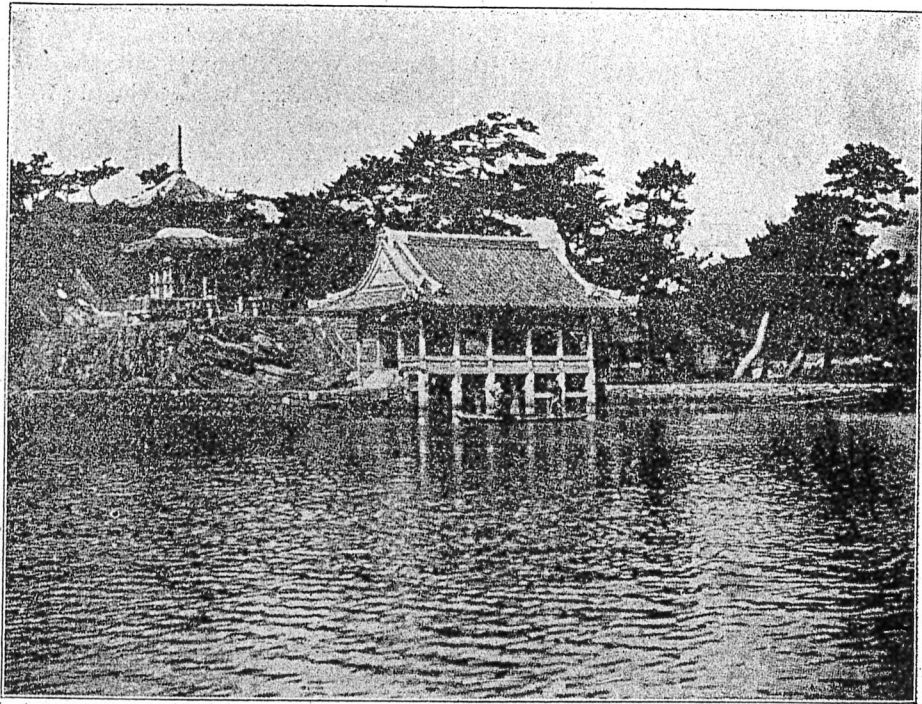
Grandgent: *English and German Sound*. Scripture: *Element of Experimental Phonetics* (Ginn and Co., N. Y.).

(註) Grandgent 氏はハーヴァード大學の教師にて英米等各地方の發音を比較して居る。甚だ有益の著書なり)

W. Scholle and G. Smith: *Elementary Phonetics* [Northern English.] (Blackie and Son, London).
Paul Passy and George Hempl: *International French-English, and English-French Dictionary* (T. C. and E. C. Jack, London).

(註) Phonetic 體の字引は本書が唯一のものとする。但し唯だ注意すべきは米國音に従ひて書けり。三四圓位の品なれば學校には一冊備付くべき字書なりとのこと)
The Walter Crane Readers: 1, First Primer; 2, Second Primer; 3, Steps to Reading; 4, The Dale Readers in Connection of the Walter Crane Readers Book I. (George Phillips and Son, London.)
Miss Dale: *On the Teaching of English Reading*.
Further Notes on the Teaching of English Reading. Jespersen: *How to Teach a Foreign Language*. Jespersen: *Progress in Language with Special Reference to English*.

和歌の浦名勝の内観海樓



THE "KWANKAIRO" (i. e., 'Sea-Viewing' House) IN WAKA-NO-URA, KISHU.

五、杉森氏の講話

杉森氏の音韻學の方は發音機關の説明から音韻に quality や quantity の差あること。又は articulation の變化等によりて種々の音を發することを一々掛圖によりて説明し。外國にては蓄音器にて練習するものもあれど今日迄の經驗上發音機關の圖や口（鏡にて見て）によりて教授する結果。其説明する教師よりも語を學ぶ生徒の方が比較的正しい音を出すといふにあり。於是其説明の便宜上必ず同音に共通の符號即 Phonetic Alphabet の必要なる所以より Standard English は Southern English で之の authority は現今 Dr. Sweet なること（序でに Northern English の authority は Dr. Lloyd）及杉森氏の用ゐらるゝ發音記號は主として International Phonetic Association のものに依ること等の説明後。母音を W. Rippmann 氏の唇の圖の順に一々説明し。一つが終れば例の活きたる蓄音器たる Smith 講師は直ちにいで。之れが記號を書取らしめ。一發音練習を行つた。而して此母音丈に七月二十五日から八月六日迄かつた。

（註）記者云く教師の發音が盡く正ければ勿論蓄音器の必要も無からんが今日我國の狀態では甚だ必要ありと思ふ

六、“Yes”の發音法

會員の中には“Yes”の發音が正しからずとて之を正さるゝに一時間もかいつた。諸 Yes は (e:s) でも (ies) でもない (jes) だ即ち England に於ける發音の時とは Quality が違ふ最少し口の後方にて發せねばならぬ

七、英國社交上の雜談

諸て杉森氏は講義以外に。談話會や演說會や幻燈會其他機ある毎に。一度らなず二度迄も立つて Southern English や Northern English や米音や Cockney Dialect との差異を示し。英國社交上の習慣、風俗、演劇等の日常吾人の氣付かざる而かも必要なる細微の點まで話されたは深く會員として謝せざるを得ない。只だ遺憾に思つたは今一人講師中に英國人がほしかつたのと。讀方練習に時間が不足であつた事である。

八、“Thank you”の意義

森杉氏は又日常語の種々の習慣。例へば Thank you. といふことは。英國にては（有難）の意味でない様な時にさへ用ひ非常に其範圍が廣い。即ち道を問ひ説明をした後で向から thank you と云ひ。狭い所など人の間を通る時など thank you. 甚しきは或る婦人が足を踏まれて婦人の方から thank you をいふたには驚いたとのこと。尤も〔足を踏む様な所でなく少しのいて下されば有り難いに〕の意と思へば不都合はない。又 Did you enjoy? に對し Yes, rather. の如く Yes, rather を妙な所に用ふる習慣等の事は別に澤山あつたが。是は中外英字新聞 VOL. VI. No. 13 に於ける記者足下の歐米周遊日記中に書いてあること、餘り違ひはない参照せられたし

（記者云く。此外尙ほ Phonetics に関する一覽表などあれば特別な活字を要し印刷上の都合もあれば略す）

「文部省英語夏期講習会」14(6)、明治40年6月15日、184頁

文部省英語夏期講習會

文部省に於て本年開設すべき 師範學校中學校高等女學校
教員等夏期講習會の内英語科は 七月二十五日より八月十四
日迄廣島に於て開催し、其講習要目は

- (一) 英語音 韻學講義 (發聲機關の構造、各音韻發聲の理法)
- (二) 英文學史 (エリザベス朝より王政復古迄)。讀方、會話
作文にて。講師は廣島高等 師範學校教授杉森此馬、同永野
武一郎、同 ウィリアム、エリオットの三氏なり

「広島高等師範学校の特色」14(8)、明治40年8月15日、248頁

●広島高等師範学校の特色 広島高等師範学校にはフ
ォネチックスを専門に攻めた杉森 永野等の洋行歸りも居る
し又外國人の講師も英語教授法の問題に熱心なる人々であ
る、故に中等教員のために開く講習會を広島高等師範に開
くのは至極適當で文部省が昨年も今年も引續き同校に於て
夏季講習會を催ふすのは大出来と言はねばならぬ、●併し
今年の講習會の如きは其講習員は大概關西九州四國地方の
中學校や商業學校の教員のみで東は滋賀愛知の兩縣に止ま
り其以東の中學校より出懸けた者は一人も英語科に見えな
かつた ●察するに是は關東や奥羽邊からは餘り遠方だ
から旅費の點などから文部省が斟酌したのであらう ●又
文部省の考では東京には官設の夏季講習會を開かなくとも
私立學校の催しがあるからと云ふ譯でもあるかとも思はれ
る ●若し果して然りとせば私立學校が國家教育の發達
進歩に貢獻する所あるべきを文部省に於ても認めて居るも
のと推論せねばならぬ、そんならそれと私立學校を繼ぎあ
しらひにせずにモット保護して宜きそうなものじや ●
但しは又文部省の考では關東地方の各中學校 商業學校の英
語教員は何れも其學力十分であるから夏季講習會の必要な
しと認定しての事か…… 豈夫れ然らんや ●然し二年
も續けて英語科夏季講習會を廣嶋に開いたから明年は是非
東京に於て東京と廣嶋の兩高等師範連合の大講習會を是非
開いて戴きたい

「大阪の英語夏期講習會」14(8)、明治40年8月15日、249頁

●大阪の英語夏期講習會 村井知至氏には本月一日より
十日間大阪商業會議所に於て夏期講習會を開きたるに來會
の聴講者は學生や中學教員又中には商店員も交り 無慮二百
名に達し最初二三日間は午前と夜間兩度なりしをそれにて
は村井氏疲勞するゆえ午前の組を夜間に合併し得意の會話
やグリュプスオフロンドン、米國ドラマなどの譯解を教え
又同氏の英語研究の經歷談などを話し非常の盛大なりし由

広島高等師範学校に開会の文部省 英語夏期講習会の情况、

講習員 石井清三郎氏報

他人は 山は箱根日光、海は須磨明石と、避暑に閑日月を送る折柄、余は懐かしき琵琶の音(ネ)ならぬ、潮水を後に見て廣島に向暑すると、云ふだけならまだ宜いが毎日々々一堂に相集り、蛙(a)、蚊(b)、蝨(ab)といふ舊式の spelling でなくなれば新式でも、骨の滑輪具 (phonetic spelling) などをやるのは、何と妙ではなからうではないか、随分苦しい筈である、併し又、吾々風情には到底何處へ行ても暑さを知らぬと云ふ贅澤は出来ない身分だから、此んな處で、講師の説明や、偶然逢ふた昔の友や、新たに親しくなりし人々や種々の事情で朝から晩まで甚だ無爲に苦しむこともなく、従て暑さも左程に苦しくなく暮らせるのは、又なんと妙であるまいか、殊に高等師範の音楽堂の二階で南北抜き晴らしの眺め、所謂鯉城を北窓、似ノ島の藝州富士を南窓の活幅としてゐるので、豫想した程の暑さもなく、苦もなく、學びつゝあるのである、今其模様を委しく陳べたいが未だ時日半ばにも達せぬので、さうは行かぬ、其代りに開会の情况と講師が三週間に 教授すべき要項を述べたのを掲載したら、まづ大體は分るだらうと思ふ、次號には講述の時間を追ふて可成委しく報導したいと思ふ、

廿五日(七月)午前八時 頃開會、英語、國漢文、兩科の講習員一同、講堂に着席するや、間もなく講師、事務員の着席あり、同時に高等師範學校長北條時敬氏、來て講壇に上り、禿頭肥軀、溫厚篤實の體化とも稱すべき態度、徐ろに原稿を開き、徐々と説き出す開會の辭及其旨意、音吐上らず、抑揚流暢ならざるも、熱誠を罩めて諄々説き出る言々句々、氏が平素の教育に對する抱懷如何を偲ぼしめ且つ文部省が講習會を開ける意の那邊にあるやを極めて正鴻に傳へたり、其要概を左に(文責在記者)

日本に新教育の起りてより、今日に至る間を三期に分つを得べし、即ち一は新舊思想の交代、二は教育の建設、三は改良發達とにして、其間顯然たる區劃を施して、三分し能はざるも恰も夏の秋に入るが如く、漸々と遷移したる跡を見れば、先づ維新の際より、明治十年頃に至る間、新思想の來て、舊思想を破壊せんとして、最も激烈なる衝突を起したるを第壹期、新舊思想交代の時代と稱すべく、十年

頃即ち西南戦争の頃より、廿七八年に至る間に教育の擴張あり、諸種の學校は建設せられたれば之を第二期教育建設の時代とすべく、廿八九年日清戦争の終極を告ぐる頃よりを第三期改良の時代と稱するを得んか、

かくて新舊思想交代と云ふべき明治の初年にありては、日本人の思想、眼界、甚だ狹隘にして、吾が國は吾が國とし、歐米は歐米とし、互に個々獨歩の思想を懷けるのみならず、往々歐米諸國を夷狄と呼び、甚しきは尊王攘夷と稱し、彼等を仇敵視したり、されど印度洋を通じて往來せる微々たる交通によりて、東西文物の交換は一緩の命脈を繋ぐを得、譬へば東西の兩隣、互に仇敵視して親睦を結ばず、僅に兩家の間にある狹隘なる廊下に依りて時々往來し、又は視合ひなどして、漸く交通の命脈を保つを得たるに似たり、爾くする中に彼の地に航する人、此の地に來る人、又は書籍の翻譯等に依りて東西思想の交換漸く開け日露戦争に依りては、吾國情は遺憾なく歐米人の間に紹介せられたり、されば今や吾國は世界の日本にして往日の日本的日本にあらず、國土は依然昔日の國土に相違なきも、世界の社會に融合し、之に必要な部分の技能を有する地位を占むるに至れり、されば他の歐米諸國と等しく日本の思想は世界の思想の一部となり、即ち吾國は世界の社會に對して、儼然たる一地步を占むると同時に、世界的社會に調和して之に參はるものなり、故に身を教職に委る者は宜しく此の思想を以て教育に従事せば、夫れ誤たざるに庶幾からむか、

終に臨み、講習員に望む處は從來文部省にては數年各種の講習會を開きたるも其效力の有無、又は如何なる反響を起したるやを未だ確めたることもなく、又之を確むる方法を講じたることもなかりしかば、講習會開催の結果收められたる效力及び其反響は如何なる程度に達せしや、全く知悉することを得ず、唯會員中一二の者の意見により、效力の有無の茫漠たる觀念を收め得るに過ぎず、實に遺憾なることと謂つべし、されば本期の講習會はかかる茫漠たる結果に終らしめず、充分其效力反響を確め、文部省に申告せんと希望すれば、會員諸子は講習の終りに當り講習に對する所感及び意見を、次の如き、

- 一、講習會に於て得たる效力、
- 二、講習に對する評、
- 三、講習に對する將來の希望、

との三條によりて、口頭又は筆紙を以て、遠慮なく、充分に開陳せられんことを切望す、

之にて開會式は終り英語、國漢文の兩講習員は各自關係せる教室に入る、英語講習會場は音樂室なり、杉森教授先づ、講壇に立ちて、講習すべき事項及講習開會中諸事執掌の任に當る委員撰定の注意あり、次にエリオット講師の講習中の覺悟及び教科書等に付意見を述べたり、其辭の醜弄巧妙なる講習員を頗る解かしむるも、又省みて聊慚汗背を沾ふすを覺えたり、曰く、教科書はスキントン第一、及第四、會話の材料としてはロングマンの第二若くは第三を用ふべし、作文の材料には高師第三年生の作文添削の際、抄書し置ける英文誤謬を其儘黑板に掲げ、質疑應答の間に之を訂正すべし、之れ最も實際的の作文法なり、又講習員も各一文章宛を草し提出すべし、三週間の終りには其誤謬例を指摘し批評を加へん、之れ又甚だ實用的なり、「されど、勿論諸氏の姓名は決して云はざるべし」と會員をして苦笑せしめ、中にはホット溜息を胸でしたるものありしなるべし、スキントンの第一は教職にある人に對して教授するは餘り

に簡易に過ぎるも、深く考ふる時は大に其必要を認め得べし、本校第三年生にて附屬中學校に教生たる者にして、時時、スキントン第一を持ち來りて、其初めの部分に於ける極めて平易の句、例へば It is an ox. の如きを please show me how to read this sentence. と問ふものあり、其理由を問へば I am going to teach this part to-morrow. と答ふ、然り、實に其必要あるべし、第四は甚だ面白し、之れは何處を撰擇教授すべきやを調べ置かざれば、本日調べ置きて、明日之を告ぐべしと、尚ほ語を次いで、「數年前某所の講習會に講師となりしことありしが皆中等學校の教員なれば、解し得る者と心得、普通の英語を普通に話したるに、中には、之を全く理解し得ざるもの數名もありきと、不平を洩らしたるものすらありしとの事なれば、今回は始は平易の語を撰び、靜に講述し、諸子が如何に聞取に慣れ、如何に單語に富めるかを見て、後に普通の速力を以て、講すべし」と結論せられたるには、一同之こそ眞の苦笑を發せざるを得ざりき、

廿六日(七月)、杉森教授、(文責在記者)

私は此の夏期講習會に於て、音韻學の大意と、其實實際的應用とを講述しようと思ひます、音韻學と申すと、廣義によれば、言語學に屬し、其範圍頗る廣けれども、私の云ふのは狹義の音韻學、即ち英語に就てだけで、之を實用的に陳べたいと思ひます、併し實用的と云ふても、勿論少しは理論的にもなります、此の中には未だ音韻學を研究せぬ人もあらうと思ひます、日本で出來たものには片山寛氏及マツケロー氏共著の音韻學、去夏か岡倉由三郎氏の著せる「英語發音學大綱」、日本語の音韻に付ては伊澤氏調べられたのがあります、私の之から講述しますのは主として南英語であります、南英語といふのは、ロンドン及其少し南方の小區域で教育ある人々の間に使用さるゝもので、之を代表する人は、牛津にあるヘンリースキートといふ人で、北英語といふのはロンドンより西北バーミンガムとダラムとの兩緯度の間に話さるゝもの、事でドクトルロイドといふ人が其代表者であります、かくいひますが、言語といふものはなかなか明確なる區別をすることは出来ません、地方によりても同一の音韻に多少の相違があります、家によりても相違があります、個人によりても相違があります、であるから標準英語を確定することは容易に出来ません、音韻學は本國の英吉利でも未だ盛とは云はれません、併し獨逸や佛蘭西では音韻學の研究が盛である様です、獨逸では「ベル」「フホエ」其他數名、佛蘭西では「パウルバッシイ」などいふ人が盛に研究して居る様であります、米國で話すのも英語は英語であるけれ共、英本國のと區別して American English と云てゐます、米國にて音韻學に名あるはスクリプチャーといふ人にて The Element of Practical Phonetics といふ著があります、ハバート大學教授グララングエントといふ人の English and German Sounds や Vowel measurement. といふものもあります、牛津のドクトルスキートは音韻學には甚だ熱心で著書も色々あります又倫敦大學にリップマンと云ふ音韻學に熱心なる人があつて毎年外國人に英語及音韻學に關する夏期講習會を開きます、さて日本人に音韻學を教ふるは何の爲かを知らねばなりません、日本の英語の發音は標準が定らない、いや全體標準とすべき處がない、では非標準を定めねばなりません、學校を巡回して、何處の學校では英語の發音が良いとか、悪いとか、批評を試みる人がありますが、夫れは單に發音が外國人に似てゐるとか、流暢であるとかのことで、何を標準として善惡な

差別するか、薩張り解りません、であるから中學校の英語を改良するには是非とも多少標準ともなるべきものを作らねばなりません、其標準により英語を始める時から音韻を正しく教へこむ事が必用と思ふ、

音韻には單獨なる音韻、結合より成る音韻、文章としての音韻、があります、之等の研究は未だ経験なき人には極めて、乾燥無味ではありませんが、英語教員たる以上は是非研究せれば、教授上大なる不便を感じます又少し研究したら興味も出て来るでせう、かく音韻を重すれば、小學校などで、英語を教へるは頗る危険であります、之れも正しき發音を教授するなら勿論宜しいけれども、若し誤つた發音などを教へられては中學に進學の後教師も甚だ迷惑です、まづ音韻を改良するには中學校でも初年級より改良する必要があります、其時は正確なる發音を教へねばなりません、例へば L と R とを誤て、flay を fray の如く發音しては、全く誤りで、西洋人の耳には蛙 frog と聽へるかも知れない、又普通 hall と hole など殆ど區別されて居らぬ様です併し大なる相異があります、hall を hole に發音しては英國人には一向に意味が通じない、日本の一般の中學校で五年も英語を學でも卒業の後英語を語ても西洋人には解り悪い俺れの英語は西洋人に解るなど思つたら或は間違でしょう實は解るのは先方が多くは察して笑れるのだと思はねばなりません、讀方は概して spell 讀みである、實は話さるゝ通りに讀めといふのであるが、之は容易の事ではない例へば How do you do? を書いてある通りに讀めば「アナタハドウシテシマスカ」と聞えて、此方の思ふ「御機嫌如何ですか」とは聞えない、之を Hau dju du? という様に云へば、云はんと欲する處の「御機嫌如何ですか」と聞えるのです、Did you go? などを書かれた通りに讀めば往くのか、もう往つたのかといふ様な意味の方が強くなる、dzu go? の様に、讀めば、單に行つたんですかと響くので、此方の思ふて居る意味を通することが出来る、若しかう行かれれば讀方は教へても expression を教へたと云へません、尚ほかういふ例は澤山あるけれども、他日教授の折々に話すことに致します、(又發音を字體に表す書き方も他日學で行くに従て解ります) かいる具合に意味を表はす様に英語を話し且つ讀むには音韻を研究する必要があるので其音韻を研究するには其正道を踏むことが必要で、又之にはまづ第一に發音機關の名稱を知らねばなりません、

記者云右は講演の大體を筆記したるものであるから、讀者は其積りで讀んで貰ひたい、杉森教授の講述、之より愈々本文に入るのであるが、本文は他日順序を整ひて報導することとし、今は暫く情況を説くことなれば、永野教授の音韻學實修準備に對する講話を報導すること致します、之も講習員一同多大の興味を以て聞ひたものです、

廿一日(七月)、永野教授(文責在記者)

永野教授は今回夏期講習會の講師たる命を受けたる次第に就て頗る謙遜なる挨拶をなして、「杉森教授が駿馬に跨り、縦横に馳驅したる跡を、私は驚馬に鞭つて追ふて行くやうなものです」と巧みなる比喩の後今回講述すべき次第を説明したり、

「杉森教授が phonetical transcription を教授されつゝありますが、之は甚だ必要であります、英語を眞個にやらうといふには、是非之れを知らねばなりません、之は初めは難く、中頃容易い様に感じますが又深く入るに従ひ、漸々

難く感ずる様に思はれます、Phonetic symbol で書いたものが、直に讀める様なのが必要であります、併し又讀みながら、其音が phonetic alphabet に含れて居る様でなければなりません、外國人の發音中之はと氣が付く面白ひ音は直に phonetic alphabet にて書きとめて置ければ宜いのです、先きに杉森教授の云はれし如く、Hero の發音に Hiero と o を入れて sound を柔らかにするなど、甚だ興味あることであります、尚ほ進んで只今杉森教授の講述せらるゝ理論を終へ、實際に入り、練習をせねばなりません、例へば音の glides なども理論はよく解り居れども、之を實際に表すは困難です、かういふことに就ては念を入れて研究し質問をして貰ひたいのです、質問の折は紙片にでも書いて出しなさい、さうすれば私は頭腦が鈍いから、速答し兼ねることもありますから、宅へ歸て能く調べてお答ひ申します、であります、音の發し方に付ては南方の英語であるとか、北方で話さるゝ英語であるとか、佛蘭西人の話す英語であるとか云ふことを判識することは、外國人よりは却て私の方が都合が宜いかと思はれます、毎時間五分若しくは十分を割きスプリント第一讀本の new words を phonetical alphabet に書き私に出して下さい、歸宅の後校閱致します、第四讀本の new words も宿題として出します、之が大體終る頃は word ではなく sentence の transcription をやります、一語々々と讀む時と、sentence として讀む時とは違ひますから之も大切です、之には又 stress の關係もあるから、之は Prof. Elliot の讀方の折に尋ねて下さい、さて其後にドクトルスケートの如き大家の phonetical transcription を版刷に致し御目にかけませう、之を練習するには四十何人では、多過ぎますから、甲組乙組と二ツに分ち乙組は未だ發音に未熟なる生徒の積りになつて頂きたい、随分亂暴でもありませうが、命令的に訂正して上げたいと思ひます、夫れから洋行された方々、Mission school を出た方々、常に西洋人に接する機會の多い方は甲組に入りて頂きたい、若し Vocal exercise などは相當の方法で通知があるならば避ける様にしても宜う御座います、又私の時間には各自西洋紙半枚宛を持參して頂きたい、夫れで私のやりたいと思ふ仕事の大體御解りなつたらうと思ひます、

杉森教授や Elliot さんが未だ御話しにならなかつた「胸の聲」といふのを練習するのが必要です、ロンドンなどへ行て居て實によく日本語を話さるゝ方でも、日本人は矢張りどうしても日本人であるといふ事が解る、之は胸の聲がないのが日本人たるを betray するのであります、横濱正金銀行支店員の(名前まで申しても宜う御座います)菊池と申す人は實に英國人らしくありました、之はテニスを演りながら語り合ふて居るのを陸で聞いて居つたのでした、夫れは何の故であるか云ひますと、皆胸の聲があるからです、日本人は聲帯を緊縮するから聲が口先き許りで、キイキイ出る、singing をやれば、之を improve することが出来ます、併し日本流ではいけません、私の子供などの唱歌をきいて居ますと全然(マルテ)胸の聲がなく、苦しさうに口頭許で唱ふてゐるのです英國人は胸と喉と口と同様に開いて呼吸を出すのです、呼吸を横隔膜でやれば、多少の練習になります、英國人は發音は必ず chest から出すのです、私が英國に居つた時某教授が日本から蓄音機を取り寄せました、多分藝妓でも吹き込んだのでせう、其歌が口頭ばかりでキイ々々やるのですから、夫人は大層噴き出しました、教授は流石に噴笑もしませんでした、日本人の聲は蓄音

器に適して居らぬと云ひました、私は yes とは答へ置きましたが、胸の練習さへしたなら出来ぬことはないと思つたのです、西洋の唱歌は英語発音の練習には大なる關係を持つてゐると思ひます、

Sound と palate との關係に付ては充分注意せぬ人がある様ですどうしても clear articulation を得るには發音機關の障害物即ち teeth, lips, 及 palate 等を巧みに利用せねばいけません、但し之を亂用するものが多い、中庸を得て障害物を巧みに利用する人は Normal articulation の人です、あります何もかも、兎に角、persistent practice に限る、其好實例を申しますと、私が學校が休業になりましたから、宅に居て庭園の世話など致し、少し練習を缺いて居ましたら、或音は良い鹽梅に出ぬ様になりました、開校式の日に Elliot さんと話しますと、どうも思ふ様でない、練習の缺くべからざる證據です、

私は此の學校(高等師範)へ入り授業する前に、教授上の連絡を取る爲に、彼處此處の中學校を參觀しました、杉森教授の云ひました様に、l や r や th などに注意する人もあるけれども、lips や palate に注意する人はありません、之が練習をやり、聲を clear に出さうと思へば、hard palate に breath を當てる積りで breathing をやるのです、洋行したる人々の中には同様の感もあらうが、西洋人にも随分不明瞭な發音の人もありますが、聞いて居ると話すことがよく了解されます、之は練習の結果であります、palate に呼吸を當て、之を止めやうとする障害物を破られねばなりません、之が練習をするには h の音を以てするのが一番良く解かります、vowel の練習も忽にすることは出来ぬが、殊に consonant の練習を勉めねばなりません、

西洋の俳優や説教家などは皆鬚を剃てゐます、之は音が muffle されることのないやうにするのです、故に口鬚を長く延ばしてゐることはよくありません、唯今申した通り Vowel よりも consonant の方が、談話上、實際の價值を持てゐます、Vowel をよく發音すれば English らしい音が出るが、他人に了解さるゝには、consonant を明瞭にする必要があります例へば pet の發音に pit, pet といふても誰れでも之れは飼猫でも指してゐるのだなどといふことが、直に了解されます、が consonant を誤て、bit, bid といふたら解りません、此の積りで練習を怠らぬことを希望致します、

文 部 省 英 語 科 夏 季 講 習 會

文部省英語科夏季講習會は講師岡倉 由三郎氏の專任にて先月二十五日より大塚なる高等師範學校に於て開催し昨十四日を以て終了したる筈なり。講習員は約百名、内女子も二三名見えたり。今其景況及び日々講習の課目を聞けるまゝ大略を掲げんに

七月二十五日上野音樂學校講堂に於て英語科は勿論各學科の講習員 四百八十餘名を集めて開會式を執行し岡田文部次官、乙竹 視學官の演説あり。岡田氏の演説中に「英語に關しては六つかしき文句を了解し得るも新聞紙の廣告や荷物に貼付しある商標が讀めぬと云ふやうでは實用の効なし」との一言ありしと云ふ

七月二十七日 岡倉講師は外國語を學ぶの必要、國民教育中の英語、中學校に於ける英語 教授の目的は如何、英語の實用知識とは何ぞや、如何にして讀書力を養ひ得べきや卒業生の學力を一様 (unify) にするの手段等 諸項目に論題

を分ちて詳かに自説を吐露する所あり。其中英語の實用知識とは何ぞやとの疑問に對し同氏は主として讀書する爲めに學ぶべし。世人は讀書するのみならず主として話し且つ聞き取ることを目的とせよと主張すれども氏は讀書を中心とする方利益ありと主張せり。然らば如何して讀書力を養ひ得べきやと云ふに實用英語の内特に讀書力を中心として之に讀方、譯解、作文、文法、會話、書取、習字等の各科目を集中すべしとて二様の圖を示し、第一圖は平行式とて從來中學校に於て多く用ゐるゝ教授法を示し。第二圖は集中式とて讀書力養成を中心とせる圖解を示めり。岡倉氏云く各課目の平行式は詰まり薄弱にして淺たる知識を得るに終るものなり、宜しく初年時代は會話を主とし上級に至りて讀書を主とすべしと

七月二十八日 此日の講演は語學に關し一校教師の研究打合會を實行し學校出身の異同又は地位の高下に依りて互に打ち解けざるやうの事あるべからずと戒しめ。其より學級持ち上りと分擔とは何れが利益ありやと云ふ疑問に對し高等師範學校附屬中學校の例を引き同校にては現今一年級より四年級までは持上り制を實行し居り五年級のみ否らざるが追つて之も持上り制を實行するに至らん。併し岡倉氏の意見では最後まで通じて持上りは不可である。それも三年級までは可ならんも上級に在りては二人以上分擔する方宜しからんとて其理由を説明せり

又外國人教師を如何に取扱ふべきやの疑問に對し外國人教師雇入の可否は如何にと云ふに之を雇はざる方を理想とす若し之を置く時は内外人教師間の連絡を要す而して初年級より外國人をして擔任せしむるを可とすと言へり。又次に相互授業の參觀に付て述ぶる所ありたり

次に外國語の研究法と題し。Ollendorf, Otto, Prendergast, Berlitz, Gouin, "Natural Method," "Reform Method" 等の各教授式の綱領を擧げて其長所短所を批評したるが、Berlitz 式を説く時岡倉氏云く要するに人あり獨り外國に置き去りにせられし時如何にして自己の思想を土人に傳へ得べきやの最良の法が發達して此式と爲りしものなりと。又云く從來此方式の發明者 Berlitz より我文部省へ此法式を採用しては如何やと交渉し來りしも同氏が日本に渡來するに要する一切の費用を支辨する外に日本人教師の内に多くの弟子を作くり是等の人より俸給の何分と云ふ買物を納めざる可らずとの條件なりしかば文部省は經費の都合にて之を拒絶せりと

"Reform Method" の一個條たる *Realien* を岡倉氏は風物教授と譯語を與へ、風物とは外國の習慣、生活、制度、歴史、地理、文學を謂ふのであると

七月二十九日 此日は昨日其要領のみを與へ置きたる Reform (or New) Method に付て逐條詳説する所あり。其意見の中に、該方式に従へば徹頭徹尾成るべく多く外國語を使用するとであるが岡倉氏は反對し、母語を用ひて差支なからんと思ふ、舊式の 'It' が何 'is' が何 'a dog' が何と云ふ日本語に相當すると云ふやうに分析した丈で終るから失敗したのだが其後巧に之を應用して讀んだり話すのが英語の教授である故此分析和譯を以て限らざる限りは差支なしと思ふ。又 'I am a girl' を「私は女の子です」と平たく和譯するのは適當ならんも語の順序に付て何にも教えて居らぬ、I am.....何ダローと首を傾げざるべからず次に 'a girl' を附けて始めて了解する次第なるを以て和英兩文の Syntactical order を比較せざるべからず、これ

は意識的に教へるのであるけれども練習を積みて無意識に話すやうに修養せざるべからず、否らざれば語學の講義に終はるのみと

又英文和譯、和文英譯に付て云うやう、思想上何の關連なき片々の文章を翻譯さす代りに Free composition を課すべし。free と云へば語弊あらんも材料を既修讀本中より取り三人稱にて書いてある文章を生徒自らが自語するやうに改むるか、又は直接話體、間接話體の轉換などさせることである、

又云く風物教授の點より云へば東郷大將の傳よりも Nelson の傳にて英語を學ぶを可とす、繪畫は日本式のものよりも英國式を用ゆべしと

又文法の教授法に付ても説く所あり、云く文法を歸納的に教授するの必要なることは今日の輿論なり、抑も文法は既に得たる所の知識を綜合するものにて更に新知識を供給するものにあらず、文法教科書には先づ八品詞を名詞、代名詞、形容詞、副詞、前置詞、接續詞、間投詞等の順序に排列しあるも實際に於ては種々雜多の順序に出るものなりとて。岡倉氏は一個の面白き圖を畫きて文法教授法を解けり。例せば 'I am a boy' なる一句に付て文法を教ゆるに入品詞の順序に依り boy.....I.....a.....am の如き順序にて教ふるは不可なり、'I am' なる句に於ては I と am とは附き物なれば、從來の文法書の如く先づ I を教へたる後ならでは am を教へずして之を跡廻はしにする如きは不合理である。これを以て文法書は何處より始むるも可なり、末尾に index (索引) さへあらば後に査閲し得べし。又茲に動詞 break と broke と二個の形のみ實際必要なる場合には何の關係もなき過去分詞まで覺へしむるの必要なしと。尙ほ文法に付ては此後詳しく説く所あるべし

又次に單語の知識と其補給法に就て説く所あり、單語は繪畫に由りて學ぶべし、又上級にては一單語より引て他に及ぼし或は語源の知識に由りて此目的を達し得べしとて二三の例を擧げたり

七月三十日 此日も前日に引續き單語の知識と其補給法を詳かに説明し、此目的のために適當なる Füßli と云へる獨逸人の著はせる Bilder-saal と題する繪本の内容を紹介し。次に W. Rippmann の單語集をも紹介せり。

又單語の制限に依りて英語科の程度を一定すべしとて云く、辭書に由りて得たる單語の知識も時には滑稽なる譯解を來たすことあり、嘗て試験に辭書の使用を許したるに "He was sound asleep" を「彼れは鼾聲を發して眠れり」と譯し、「成功の秘訣」を "Constipation of Success." と譯せるが如き笑話もあり。(註、constipation は便秘、秘結の義なり)。今是等を救ふには單語の意義を明らかに授くるの必要ありとて、同氏は次に學級の高下に應じて單語の程度を示せり。

此外に獨逸の外國語教員補給法、英語教師としての資格。生徒文庫。讀本などを説けり。

此内教師として一般に要求する資格は (一) 風物上の知識、(二) 發音學上の知識(但し教師自ら此知識を直接に教場に持込むは不可ならん)、(三) 言語學の知識を有するを要す、此第三の知識を養はんには Dr. Sweet の "History of Language" (代價壹志位) が邦人に適するならん

田舎に居る英語教師は特に自己が語學に意を注ぐことを生徒に示し生徒を獎勵するの必要あり、學校の引出しに教科書を仕舞つて歸宅するや否や若、將棋に耽ると云ふ様な

事實を生徒が知らば語學教師は單に生徒を苦しめる者ならずやと疑ふに至らん、智的生活は教師に必要ななりと

七月三十一日 昨日の續き頁讀本の資格に付て尙ほ説く所あり。Jespersen 氏は讀本が具ふべき要件に關して曰く(一)合理なる連絡ある text (註。教科の本文)、(二)趣味あるもの、(三)日常用語に必須の材料、(四)正しき英語(五)易より難に入る、(六)單に文法の點より難易を考え過す勿れ、材料にして興味あるものなれば多少難き文章も覚え易しと

次に英語を始めて教授するには如何にして入るべきやの問題に就き文部省にて目下詮議中の教授要目の大綱に付て一二の點を漏らし。其より初學者教授法に就き岡倉氏が先年倫敦附近の Wimbledon に於て Miss Nellie Dale の學校を參觀したる話を引き詳細に説く所あり

發音の教授法に付て氏云く、母父音の内父音より始むべし、何となれば父音の value は殆ど不變のものなるも母音は然らず、常に變化極まりなきものなればなり、云々

八月一日 前日に引續き初學英語第一時間目の教授に就て講師の意見を述べたり。其内 嶄新なるものは pen と云ふ英語を group (註。集團)として發音や書き方を授けたる後分解して此語が三字より成る事を教へねばならぬが、舊式に據ると spelling method で

ペーイーエヌ=pen (ペン)

として授けたがこれは不合理で馬を捉へて鹿だと言はするに同じ、これは母語教授には適せんも外國語に不適なることを知り、五十年前より歐洲にても Pronouncing method が始まつたので獨逸にても此方法が盛んに行はれて居る、即ちプーエヌ=pen (ペン)と言ふのだが、本邦の如き在來の習慣は一朝にして打破することを得ざるゆゑ折衷式を可とす。即ち p (プ) 音ノ符號、e (エ) 音ノ符號、n (エヌ) 音ノ符號と長たらしく擧げ來り「音ノ符號」と云ふ語を除きて始めて pen (ペエヌ) と發音するのである。其外 Diphthongs の ea, ee, oo 等も何音の符號と云ふ名稱を附して後發音すべきであると

八月三日 本日より初の一時間は Phonetics を英語にて始むることせり、先づ「Language」より説き起し Phonetics に Organic side と accoustic side ありとて、先づ organic side より始め其内の Organs of breathing を説明せり。

第二時間目は正しき發音は文學を讀むにも必要な所以を述べ。次に習字科に移り Vertical と Slanting とを問はず、良き英字の資格は(一)技巧を要せざる形、(二)楷書と草書體との形の差違を少くせる形、(三)文字の鮮明を要するため線と線との間を廣くせる形、なりと言へり

八月三日 最初の時間は引續きフォネチックスを説き。次に英文和譯の弊を擧げて後、英文和譯は直讀直解で無くてはならぬ。或人がベスト流行當時に押入を開きたるに一疋の鼠を發見したるや否や「吁五錢白銅が一個ころがつて居る」と叫んだと云ふ話があるが此位に直覺する様になりて始めて外國語を master するの極意に入つた者と謂ふべし。吾等は今日英語教授に就て此位まで行つて居るか否かを熟考せざるべからずと

八月五日 前日に引續き聲帶と呼吸、音聲、さいやき等の關係より母音、有聲子音、鼻音と無聲子音との差違、日本のヒ音の特徴等を講義し、それより教授法に移り、譯解に直譯、意譯等あるも何れも語の Syntactic order を無視

したもので、例へば漢文は日本に輸入しても語脈は依然として日本語式であつて、「我觀月」を「我一月一觀」と返へり讀みす、此の Syntactic order は日本語なり英語なり の Physignomy (註。特質)である、然らば如何にして譯するかと云へば熊本氏の所謂首振り式を可とす、'I went to see him.' を「私は度々い……遇ひ……彼の人に」と云ふ様に……の後の語が來て始めて成程と首肯することが出来るのだ、斯くすると英語の Syntactic order も保たれる

八月六日 前日の如くフォネチックスの説明を爲して後、教授法に移り、英語には Many sides (多側面)があるが、英語を教授するに方りては皆此多くの側面に觸接しなくては可(イ)かぬ。唯だ第何學年には特に何科目に重きを置くと云ふに過ぎない。Spoken form にて英語が解かつたら又 Written form を以ても之を示さないで讀書が出来ないやうになる。會話中に Idiomatic expression を用ふるは宜い動もすれば Slang と Idiom とを混同して何か珍奇な言ひ方を授けて得意がる傾向が起る、これは避けざる可らず。教師は生徒に善く解かると思ふて其地方の方言を用ふるは不可である。教師の聲の明瞭快活と教室の廣さに適する聲の量も必要の條件である。Otto Jespersen 氏の英語讀本には其 text の下に Phonetic spelling を以て讀方を示したものがあつた。我文部省では此方式には不賛成であるが。岡倉氏の意見では此式の讀本は良しと言つた。但し本邦にて此式を行(ヤ)るとせば假名を種々に變化させて用ゐるがよい。

文法の効用は新知識を與へるのでなく、既に學習せる知識を綜合するに在り、文法を教授する重要な事項の一は語の位置である。文法は縦列に切りて教へるのでなく輪切りに、横切りに授くべきことは七月二十九日講義中にもある通りだ。文法教授に單語本位と文章本位の二つがある。前者は心理學上より視るも不合理なることは明らかである。文法書も先づ Sentence より始むるは今日の傾向である。一般の規則を示し、例外は成べく隠くすやうに力めねばならぬ。處が此例外を多く臚列するのは著者が文法學者が自分の博識を街(テラ)ふ心から起るのである。若しそんな野心があるなら教科書や教室でなく自己の博識を示せる物を書いて學者間に配布するが可(イ)い。何も生徒を苦しむるには及ばぬと

八月七日 先づ Nasal sounds, Resonance, Noise に就て講義すること少時、夫れより色々の質問に應じ、第二時には前に掲ぐる文部省英語教授法調査委員の報告中に在る事項に就て説明があつた。

其大要を擧ぐれば。第一學年の發音と云ふのは Spoken words の發音を指すのである。單語に就てとあるは古流の bā, bē, bī, bō, bū. 式でなく、單語や文章に爲りて居る Concrete (具體的)のものに就て發音を練る方が兒童の心に浸み込み易いからである。從來讀方と云ふ名稱は讀方だけでありしが、今度は聽方、言方、書方と云ふ様な名稱を附けた、而して聽方だの、言方だのと言つても何れも意味を解しての聽方や書方や讀方たることは勿論である。又此聽……言……讀……書方と云ふ井べ方は自然の順序である。Passive より始めて Active に終はるのである。夫れから別に撰定せらるべき單語と云ふのは未だ着手しても居らぬ、又誰が撰ぶのが未定である。吾輩(岡倉講師)の意見は別に單語表を作りて一學年、二學年と印(シルシ)を附け、又授けても授けなくとも差支ない語も同様印をして置くのであ

る。倅單に單語の知識ばかりでは効果が少きゆゑ其運用を利(キ)かせなくてはならぬ。習字は全體で一時間であるが。必らずしも全き一時間を其に充つると云ふのではない。一時間を數回に分割しても可(ヨ)いのである。唯だ合計して一時間となれば可(ヨ)いのである。次は第二學年に習字を新たに分置したる事である。第三學年以上の文法に關しては、從來の如く文法書を頁を逐ふて教授するよりか早く遭遇する順序に并らべて從來の品詞順に據らず、唯だ後に充分の索引を附して此を調ふるに便ならしむるやうに編纂せる教科書が出版せらるゝか、或は此式に依りて教師が應用するがよい。作文書も此式が良いと思ふ。從來は三四年は文法教科書を用ふることに定めしも、今回は唯だ参考書として用ふることを得べしとした。これは文法の教授を輕んずるのではなく、讀本より材料を取り文法書に重きを置かねばなる事である。第五學年には新たなる文法知識を加へぬことにした。尙ほ全體に渉る説明は翌日に譲るとして此日は散會したと云ふ (以下次號)

文部省英語科夏季講習會の景況

前號の本誌には同講習會第一日より始めて八月七日までの分を掲げ置きしが、今八月八日より十四日の閉會式までの景況を此處に掲ぐべし。岡倉講師のフォネチックスの講演は精細なるものであつたがフォネチック文字を別に鑄造せねばならぬ必要あり發行期日を急ぐ雑誌には其手筈が急の間に合はぬゆゑフォネチックスの分は遺憾ながら略することとせり

八月八日(土曜日) 此日も前日に引續きフォネチックスの講述あり、音韻の分類表や發聲機關の圖解など器用なる岡倉氏の事として精細綿密なるものであつた

發音學が済んでから彼の文部省調査委員の調査案説明を前日に引續き與えたが其大要に云く、讀方(所謂譯讀)は Syntactic order (註。文章構成の順序)に注意して譯解をも授けざるべからず此 Syntactic order は動詞の順序が最も必要である、

發音の重要なこと既に述べたる通りである、初年級教授は既述の通りなるも上級に對する方針は如何、中學校卒業生を高等學校に連絡するには如何にすべきや、入學問題の性質から視ても勢ひ所謂譯讀を勉めねばならぬ様になる、これは高等學校の方から改正せられぬ限りは今日の事實に照らして其に應じ得べく行はねばならぬ、例へば新教授法に據りて第三讀本を五年級まで終はるとせば實力は養成らせるにも量の點に於て高等學校の入學試験に通過することは六つかしい

上級に於て聽取等を主とするは迂遠なるものと感ずるの傾あり、吾人が中等學校に對する英語教授の目的は讀書力を養ふに在り、これが爲めには直讀直解を要し直讀直解せんには語の形に親炙せざる可からず此事は既に講じたる所なり、

外國人教師を置かざる學校にてはこれが代りをする必要があり、偕一人の教師が持ち上がりして五學年に至るまで讀本を開かしむる前に初等教授の如く Preparatory lessons を行ふとせば一日に一二節しか進まぬこととなる、故に分り切つた事實を此方法に據るゝは必要がないのみな

らず却て生徒を倦ましむるものである、此點を調和するには如何にすべきや、一週數時間の内一二時間は外國人教師に代はるべき方面を行ひ前述の法式にて録るか或は前以て次の課の大意を口授して讀本に取懸る準備をなすべし、徒らに辭書を引出して不要の意義をも併せ探索するは徒勞に屬するの憂なきや、或は獨逸にて行ふ如く初め十分間位他の問答を行ひ耳や口の練習を爲し、それから讀本を披きて授業本部に入るも可なり、豫習を命じ偶々誤譯し來りたる語句文章を正だすのは譬へば一旦結びたる繩を又解き再び結び直はすのと同じ譯で繩には前の結び處が幾分か残る如く兒童にも一つの悪い Mental habit が出来て利益がない、勿論生徒に樂なすのは不可なるも働かす部分に就て熟考せざるべからず、故に單語句の難なるものを前以て教授したる上其殘部に向つて働かすが可い、問答を行(ヤ)るにも先づ此の如き問には此の如き答が出るものと豫想し、English equivalents を與へたる後問答に懸かるが良し、辭書だけを以て豫習を強ふるのは猶ほ道具を買つて遣るから箱を作れと言ふが如くである

是より講師は文部省調査委員案の詳しき説明を與へたが、本案は公表前なるを以て唯だ講師自身の意見として洩らすものである、此の意見は公然雑誌等に載せざるやうにと云ふ注意ありたれば、本誌も其掲載を見合はすべし。唯だ其項目だけを擧ぐれば第一、一般の注意。第二、發音、綴字。第三、聴取、言方。第四、讀方。第五、習字。第六、書方。第七、文法である。

それより岡倉氏には生徒の自習に關する注意數則を示めせり、云く

(一) 教場に於て授けられたる事項を復習するの習慣は務めて最初の時期より之を養ふべし

(二) 習字は常に家庭に於て之が自習を課すべし

(三) 第三學年に至らば豫習を課すべし 凡べて豫習を課する場合には生徒の自から了解し得ざる事項は豫め之を教へ又は自から之を調ぶる方法を指示するを要す

(四) 適當の機會に於て辭書の用法を授け其用法に慣れしむべし 辭書を用ふるには單に原語の意味を検索するに止らず其の發音及び文法上の變化并に同語異義に注意せしむべし

(五) 生徒用辭書と教師用辭書とは可成之を一致せしむるを可とす、第四學年以上に在りては對譯にあらざる字書を使用せしむべし

(六) 和英字書を使用するは主として既知の英語を記憶する手段なることを知らしむべし、若し和英辭書に於て未知の英語を索當したる時は更に他の辭書に據りて其語の意義を確めたる上之を使用する習慣を養はしむべし

(七) 教科書に記入を爲すことは一般に之を禁すべし特に發音を假名にて表はすことは初歩の場合に於ても之を嚴禁すべし

次に岡倉講師は教員及編制に關する事項に就て次の如く説けり

(一) 一學級は一人の教師にて擔任するを本則とす、但し外國教師を交ふる場合は此限に非ず

(二) 教師は互に連絡を保ち教授上の統一を圖るを要す、一學級を數人の教師にて分擔する場合には特に此點に注意すべし

(三) 主任教師を置き教授上一切の計畫を立てしめ他の教師をして其方案に従ひ教授せしむべし

(四) 主任教師は擔任の餘暇常に他の教師の教授を參觀し又時々打合會を開き批評協議等をなすべし

(五) 男女を問はず外國教師を置くを可とす

(六) 外國教師の教授は殊に他の教師と連絡を保たしめ孤立することなきやう注意すべし

(七) 外國教師の擔任は發音會話等一方面に限るべからず教授方案を授け各方面の教授を爲さしむべし

(八) 一學級の生徒數は可成少數なるを可とす

(九) 教師は自己の發音に注意すべきは勿論なれども第一學年を擔任する者は特に正確なる發音を爲す者たるべし

八月十日(月曜日)

此日もフォネチックスの續講ありて後ち講演を完結したるが終りに臨み講師にはフォネチックスの文字にて示めせる英語讀本の内左の二書を紹介せり

Daniel John's "Phonetic Transcriptions of English Prose." W. Rippmann's "Specimens of English." (定價壹志六片)

教授法は前週土曜日、發音學は本日なを以て講了したるを以て今後毎日、日英堂出版 "Humorous Readings" の第一巻に據り先づ "Memoirs of a Mother-in-law," by G. R. Sims を解讀することとなり、講師又は講習員に於て順番に讀み時々質問に應じ英國の風物に就て繪畫を以て説明し或は語句の異同辯や發音に關し説明をし、誤りも正だす所ありたり

八月十一日(火曜日)

讀本讀方前日の如し

八月十二日(水曜日)

前日の如し 此日英國劇場及學制の説明ありたり

八月十三日(木曜日)

前日の如し、此日帽子の種類、寢室、便所、建物、馬車の種類に就て實驗談ありたり

八月十四日(金曜日)

本日は最終日なるを以て講師は講習員の質問又は意見の發表を許す旨宣告し其前に左の問題に就き滔々述ぶる所ありたり、云く

今日の外國人教師の缺點 今日日本邦に居る所の外國人教師(主として英米人)にて中等學校に職を奉する者に二個の缺點あり、第一は自己の修養の乏しきこと。第二は外國人教師に對する組織の缺點なり、英米人が獨逸人に比し教師たるの修養乏しきは本國に於ける教員補給法の然らしむること勿論なるは前日講述せし如し、又授業中個人に重きを置き Class を疎外するの傾あり、就中西部米國人中には文法の知識もなく教師としての何等の研究をも爲さずして唯だ自己が兒童たりし時習ひし如く教授する者多し。第二項に至りては外國人自身の缺點に非らずして外國人と内國教師との連絡を缺ぐことあり、各 Two halves であるから此を合して一の The whole と爲さる可らず

某官立學校(岡倉氏は其校名を擧げしも少しく憚る所あれば茲に明記せず)の外國教師が日本人に質問されても即座には答へず先づ辭書の在る處へ伴ひ行き辭書を引きたる上に漸く答辯するやうな仕末、日本人の方が能く調べて居れば彼等も浮つかりとは即答は出來まい、例へば Correspond to も with も別に區別せず同じ事だと云ふやうな者もある、こんなことは内國人には容易に區別し得る事柄である

記者云く Correspond to, with に就て記者の所藏する米國出版の "A Complete Dictionary of Synonyms and

Antonyms," by the Rev. Samuel Fallows. には次の如く
例を與えて居る

Correspond with, to.

Not for three years to correspond with home.

Tennyson.

The book corresponds with his style.

The words corresponds to these ideas. Locke.

岡倉氏語を續けて云く、今日外國人を雇ふには吾人日本人教師は英語文法音韻學に關しては大めに注意して居りて此れが修養も相當にあると云ふことを確信せしめ教授法の註文をするが爲、外國人として一も二もなく崇拜するの時期は既に過ぎ去れり、勿論吾人は實力ある外國人は尊敬するのである。外國教師の粗末な者を雇ふよりも確かりした内國人を雇ふが利益である、成程是等の人は Too bookish の點もあらんが他の點に於て補ふ所あらん、若し外國教師を雇ふならば内國教師の質問及び協議に應ずるやう時間を工夫して雇ふが爲、

次に講習員より質問及び意見を提出す、其内に或人は直譯の利益如何と問ひたるに講師の云く、直譯は文法と解釋を併せ知るの利益ありと考ふる者あるも兩損に終はること多ければ矢張文法は解釋と別けて授くるが爲と言つた、講師の此一言はこれまで講演の趣旨と撞着するが如く思はれ小首を傾けたる會員も中に見えたり。岡倉氏又云く、'See him run' を「走つて居る(所の)彼の人を御覽」と譯すは眞の意義にも違つて居ると思ふ、元來此組織は 'See him' と 'See running' との結合であると思ふ、故に「彼れが走つて居るのを御覽」が爲と思ふと答へらるゝや講習員側に於ては 'run' なる infinitive は形容詞樣で complement ではないかと云ふ説多かりしかば再び答へて曰く、往昔釋氏が自分の説く所或は來世又は其次の世に出でずんば解し得ざる所あらんと語りし事あるが余に釋迦の識見なく敢て自から釋氏を以て任せざるも上記の如きは研究を要すべき難問題にして二三の文法書に據り定むべきに非らず其研究參考書の一として獨逸 Paul's "History of Language" を Wheeler が英譯したるものなどが爲いとて氣焰を吐いた

以上にて講演が終了し此日午後二時より講習證明書授與式を高等師範附屬小學校に於て舉行し小松原文相の演説ありたり

講 習 員 の 論 文

此講習會に出席した者の學力試験を行ふことありやと講習員が質問したるに講師云く予の關する限りは統を高ふして可なりと由て講習員は安堵し居りたるに數日を経て講師の言はるゝには自分は前日述べし如く試験を行はざる積りなれども文部省より頻りに試験を督促するを以て英文又は和文を以て英語に關する論文一編を草し提出すべしと、茲に於て講習員の大多數中に恐慌を來たし總代に托して論文中止を交渉したれども其勞も盡餅に歸し會期の末日までに概ね提出した、併し此成績に依りて證明書を交付したのでなく唯だ出席日數を査定して證明書を與へたのであつた、何となれば證明書授與式當日までに提出したることなれば審査の餘日がないからである。聞く所に據れば前記論文を上中下の三等に評點し文部省へ報告する筈なりと

國民英學會の夏期講習會

既報の如く本月四日より晝夜とも開會せしが、炎暑の候にも係らず講習員甚だ多く、殊に夜學科の如きは廣き教室も殆ど空席なきほどにて、近來の盛會なり、午前は高等受験科と英文學科に分ち、夜學は中等科、高等受験科、英文學科に分ち、外に午前夜學とも初學者のために初等隨意科を設け、讀本の第一より第四卷までの間各自好む所の本を自由教授す、授業時間は午前は七時三十分より十時三十分まで、夜學は六時より九時までとす、其教科書は次の如し

午前高等受験科

- 一、YOUTH AND CULTURE. (趣味ある英米諸大家の修養論を掲ぐ、大日本圖書會社發行、)
- 二、THE EARTH TO THE MOON AND BACK. By Jules Verne. (有名なる「月世界旅行」を神戸高等師範學校教授ミユラー氏が短縮したる最新出版にして日本橋區本銀町一丁目六番地明誠館發行)
- 三、英文典要領口授

午前英文學科

- 一、ESSAY-GEMS OF CARLYLE AND EMERSON. (カーライル氏の Sartor Resartus, French Revolution, Heroes and Hero-Worship よりの拔萃、竝に Emerson の論文を集む、日本橋區大傳馬町二丁目十六番地内田老鶴圃出版、)
- 二、THE EARTH TO THE MOON AND BACK. (前に出づ)
- 三、高等文典要領口授

夜學中等科

- 一、Stories from Cuore. (本書は伊太利統一戰爭中の逸話にして夙に名著として知らる(本郷大和屋書店出版)
- 二、Short Stories from English History. (英國史談にして小説以上の興味あり、三省堂發行、)
- 三、英文典要領口授

夜學高等受験科

- 一、Sketch Book. By Washington Irving. (省略せざる本を用う)
- 二、THE EARTH TO THE MOON AND BACK. (午前の部を看るべし)
- 三、高等英文典要領口授

夜學英文學科

- 一、LITERATURE AND LIFE. (本書は Carlyle, Emerson, Ruskin の文を集む、カーライルの部には Sartor Resartus, French Revolution, Heroes and Hero-Worship 中より拔萃す、大日本圖書會社出版、)
- 二、The Earth to the Moon and Back. (午前の部を看るべし)

和文英譯は各級に於て宿題として教授す、講師は午前は岡村、足立、田村、服部、鬼嶋、磯邊の諸氏。夜學は岡村、足立、鬼嶋、宮本(英一郎)、榊原 彌、磯邊の諸氏なり

廣嶋英語科講習會

膳所中學校教諭 南石福二郎氏

文部省英語科夏期講習會の概況

(其 一)

本年文部省の英語科夏期講習會は、廣嶋高等師範學校に開かるゝ事に、其講習科目講師等は六月初旬の官報にて發表せられた。即杉森教授の音韻學、菱沼教授のコーマス研究、及プリングル教授の讀方、作文指導と同教授の一九一一年に於ける英文學と題する大講演とである。杉森教授の音韻學に於ける、菱沼教授のミルトン研究に於ける何れも世に有名なるもの、プリングル教授の講演に至りては若し此機を逸するならば再日本にて聴くの機會を期する事能はざるを以て、本年の英語講習會が全國英語科受持の中等教員の注意を惹きしは當然のことである。現今中學校に於ける英語教員の最大なる短所は即發音の不正確なること、讀方の未熟なること、作文の能の乏きこと、及文學的趣味に缺けて居ることである。割合に文法の點に於ては殆遺憾なしであるが正直に言へば、多數の教員は英語といふ living language を化學者の態度を以て——而も多くは無機化學的に——解剖して——勿論之も必要であるが——頗る乾燥無味な物にして丁うのである。文部省が英語教員の實力を補充せん爲夏期講習會を開設するに當り其項目の撰定寔に我輩の敬服する所である。諸講習員はと言へば全國より集つた者、正員、補充員、及傍聴員を合せて九十二名である、其内女子が三名あつた。北は米澤より南は沖繩までは關東都督府の中學より來られた者もあつた。朝鮮總督府の中學より來られた講習員が總督府の金肩章付の服制で來られたのは一層人目を惹いた。兎に角非常の好景氣であつた。而も何れも眞面目なる研究者で、其率直の態度大に我輩の意を強ふる所である。講習員は開會の前日迄に學校に出頭し到着簿に署名し、滞在宿所を届出で、且履歷書を差出すことになつて居る。時間割は次の通である。

	午前 8.—9.	9.10—10.10	10.20—11.30
廿五日 木	開會式		
廿六日 金	讀方(ブ氏)	コーマス(菱沼氏)	音韻學(杉森氏)
廿七日 土	英文學	同上	同上
廿八日 日	宮島遊覽		
廿九日 月	作文	同上	同上
三十日 火	英文學	同上	同上
卅一日 水	讀方	同上	同上
一日 木	英文學	同上	同上
二日 金	作文	同上	同上
三日 土	英文學	同上	同上
四日 日	舊大本營拜觀		
五日 月	讀方	同上	同上
六日 火	英文學	同上	同上
七日 水	作文	同上	同上

即音韻學が總計十一回、コーマス講義が十一回、英文學講演が五回、讀方練習が三回と作文練習が三回と斯の如き豫定であつた。讀方練習は Shakespeare の Julius Caesar, Tempest 及 Swinton's 5th Reader の中で隨意的個所を朗讀せしめ之に對して一々適切な批評を爲し終にブ氏自ら範

讀を爲し、作文は講習員をして各自の好む題にて英文を書かしめ之を添削批評することになつて居たのである。

開 會 式

開會式は七月二十五日午前八時樓上の大講堂に開かれた。講習員一同の着席、各講師初諸係員一同の着席の後北條校長は壇に登り大略下の如く一場の訓示演説をせられた

北 條 校 長 の 演 説

本年の文部省英語科及博物科の夏期講習會を本校に開くこととなつたのである。抑夏期講習會は近年歳を追て益々盛になり行く有様であるが元來之は二十年程昔米國に於て夏期學校といふ名稱の下に創められたもので、當初は一には兒童に善良なる感化を與へる爲には少し教育的につまり有用なる知識を授けるといふ趣意を以て各二種の夏期講習會が出来たわけである。何れも夏期不用になつて居る校舍を利用し、教師の餘裕ある時間を利用して世の便益を圖らんとする精神から斯ういふことを思ひ付いたのであるが、夏期講習會が我國に輸入せられてから日淺きにも拘らず克く世の要求に應じ、文部省の開催する夏期講習會を初め或は各府縣各都市の教育會等によりて企てらるゝ部分的講習會に至る迄多數の聴講者を惹き付け、而して其講師となつて居る人とは言へば何れも當代一流の夫々専門の大家であるといふわけで、夏期講習の盛な事では西洋でも中々盛であるが日本も決して西洋諸國に劣らぬといふ有様である。併しながら斯る貴重な機会を世人が如何様に利用し、之に依りて如何なる効果を收めつゝあるかは今尙疑問である。予は諸君が充分講習會によりて其利益を得て夫々歸任せられん事を希望する次第である。尙一言諸君の注意を促したい一事がある。畏多くも聖上陛下には過日來御不例にあらせられ我等一同誠に恐懼に堪えぬ次第であるが近頃内務大臣は宮内大臣と相談の上一の訓令を各府縣に下した。即諸興行物の如き此際特に差止むるに及ばずとのことである。我等之を聽て誠に感泣する所である。即興行物とても又一部國民の生業であるからである。諸君は娯樂の爲に講習會に出て來たのではない。諸君が遠方から出て來たのは夫々職務の爲である。諸君は宜しく忠實に各自の職務に勵むべきである。其心掛を以て此講習會より出來得るかぎりの利益を得て夫々歸られんことを希望して止まないものである。

茶 話 會

講習會の利益は茶話會にあると言ふても過言ではあるまい。互に胸襟を披て遠慮なく問題を提出し、又講師等と懇談する折もありて其益する所實に講堂の講演所でない。偕此度の講習員の懇談茶話會は廿七日午後二時階下なる會議室に開かれた。先茶話會委員は來會者を一々紹介するに講習員の名簿を讀み上げる、名を呼ばれた者は起て禮をするといふ順序である。所が固有名詞程厄介な者はないもので紹介者がデنشヨ某君と言へば、はい私です田所（ダドロ）と申します。紹介者が並河（ナミカハ）君と呼上ぐればはい私ですナベカと申すなどいふ様な風に、却て興味があつた。滋賀縣の八幡商業をヤワタとは尤らしい讀み方である。拙者の南石をミナイシと正當に發音する者の方がexceptionであらう。ローマ字會員が之を聽いたら「それ見よ、それだから早くローマを採用すべしと言ふだらう、英

語にも Salisbury や Cholmondeley などがあるが之が本當に讀めるのが不思議である。あまり談が他へ飛だが名前の紹介が済むと、英語で挨拶をする者がある。其内プリングル教授は起て自身が學生時代の経験を語られた。希臘語の教師の快活にして學生の受けがよく、羅甸語の教師が嚴格にして受けが悪かつたことなど、何國へ行ても氣風は變らないと見へる。喝采を以て迎へられた。菱沼教授は米國にて自身が參觀した某中學校の例を引いて realization exercise つまり年々高等商業などで催す衣裳著のドラマを奨励し可成我國の中學校などにても讀本中の物語を dramatize して生徒にやらせたら其效果頗大なるものあらんと言はれた。我輩實は双手を舉げて賛成する所であるが、今日我國の中學校で之を此儘實行することは困難であらうが、せめては part をきめて對話をする位は適當な事で容易に實行し得ることであらう。杉森教授は自身が特に Phonetics を専門として攻究するに至る動機を語られた。最初氏は某外國人と共に學校を管理し校舎其他の事務を大部分英語にて辨ずるといふ事情の下に勢英語の使用に馴れ自身も大に確信する處ありしに足一度英國を踏むや忽今迄の英語は皆無役に立たぬといふことの夫が発見せられた。一寸買物に行て note paper をくれと言ふても對手には更に通ぜない。やうやうどうかして用事を間に合せたが實は之は o の音が不充分である爲先方には not paper としか聞えぬ、ま斯ういふ風に實際英國に行て見て初めて今迄日本で習た英語が本物でなかつた事に氣が附いたので之が動機となつて正確に英語の音を修得したいとの希望から竟に音韻學に志することとなつたとのことである。之は獨り杉森氏ばかりの告白ではない。大抵の日本人が英國の本場へ行て斯く感ぜない者は殆どあるまい。高楠文學博士であつた日本に在る家族に安着の電報を出さうとして電信局へ其事を申出たがどうしても通ぜぬ依て紙片に用向を書て初めて用を便したといふとだが皆そんなものであらう。字引の發音と實際の發音とは大部異ふ所であるから研究者は常に注意して居らなければならぬ。又實際の發音と言っても中には vulgar sound もあるから能く注意して採擇宜きを得ないと飛だ失態をすることがある。例へば下宿に居る下女共が No. をナークと發音するので之を採用した所が、之は實は極下等社會の音だと聞て早速廢めて了たといふことだ。杉森教授の發音に關する談は中々興盡きぬものであつた。作文教授に關する質問を出す講習員もあつたが此作文教授が又中學校の難問題である。何れの學校を見ても作文教授は幼稚なものだといふことであるが作文が割合に完全に教授が出来たら英語教師として大成功と謂てよからう。何れも困て居る様である。作文教授などは最教室以外の勢力を要するものであるから教師の骨折も一通りでない。世には參觀本位の學校もあつて緻密な帳簿など澤山備付文部省あたりの役人を喜ばせるにはよいが、あまり下らぬ事務に教師の勢力を殺ぐことは疑問である。尤も授業終了の鐘が鳴るや否や直に釣竿を持て出懸け大公望をきめ込て居るといふ教員も時にあるから校長は色々な帳簿を拵へて事務を與へ文部省は一週二十四時間に受持時間の増加を斷行しやうとするのである。つひ談が横道へ外れたが、此度は女子の學校で一番困るのは生徒が口を開くのを厭ふとのことである。女學校で教師が生徒をして充分口を開かしむるに成功したら half the battle である。其他色々な面白い談が澤山にあつたが茶話會の記事は爰に止めやう。

語叱府

●文明とは簡短なる状態よりして複雑なる状態に進化する手續を謂ふものなりと學術家は言つて居るが、併し治政界に於ては其反對の手續が行はれて居る、近い話が王政維新に爲つて一世一元と言つて天皇の御一代には一つの年號に限ることに改まつた、然るに今回 先帝陛下の御追號を奉つるに方り明治の年號を其儘採りて 明治天皇と稱し奉つること、如何にも簡短にして且つ御盛徳を遺憾なく發表して居る、明治の二字は我々六千萬の人民には千萬無量の意味を含んで居る、明治と云ふ響きは其中に我々を引き附け、我々を激勵し、我々を向上せしめ、同時に又我々の心に National pride を満たさしむる一種の魔力を有して居る、我々は此響と別れたく無かつた、然るに今や大行天皇の御追號として 陛下御在世の時の如く我々は此意味多き響に親まむことの出来るのは實に幸福である、吉凶に關する我 皇室の儀式は飽くまでも故實に據り莊重尊嚴を以て貫くのは願はしい事であるが、人民に對する慣例は成るべく簡便にあつて欲しい、恐れ多い事なれども我儕は一年に一度位一般臣民をして宮城の内部を拜觀するの特權を得せしむる時代の來らんことを切望する、

●先頃廣島高等師範學校に於て催はした文部省英語講習會の模様は別項に掲ぐる南石氏の文にて大概分かる、本誌に於て號を重ね追々發表する筈であるが、此講習會は英語全般に亘りたれば定めて講習員は多大の利益を得たべらうと信ずる杉森教授のフォネチクスの講演は同氏の得意とする所なれば、間々滑稽を交へて講習員を飽かしめず、今其滑稽の一例を茲に紹介しよう ●英國の某教會にツンホの人が居つた、此者牧師の説教は聞えなかつたが、其の口の動かし方を見て其言ふ所を了解するを得た、然る處其牧師先生には其の後鼻を長く伸ばしたがために其口の動き方が見へなくなり、隨て其説教が彼のツンホには能く見へず、それからと言ふものはバツタリ其教會に行くのを止めたとの事である、是に由て之を觀れば英語を話すのに鼻を伸ばすことは考へ物であると ●杉森氏の教場に立つや非常に熱心にしてベルの鳴るのを心附かずに居る位だと云ふ、同氏は見掛けた處五十の坂を越して居る、其れであるのにフォネチクスの研究を始めたのは比較的 近年の事であるさうな シテ見ればフォネチクスは若い者でなければ學べぬと云ふのは間違である ●齋藤秀三郎氏には去七月より八月に懸け正則英語學校に於て中等教員のために 夏季講習會を開いた、然るに無月謝で、教科書は盡く只で呉れるし、又土曜日には講習員一同を御馳走するとの觸込であつた、記者の如きは最初之を聞て眞實だと信ずることが殆んど出来なかつた、如何に其教科書を賣り附ける策だとしても、苟くも人の師たる者が餘りに不見識ではないか、と竊かに眉をひそめたのである、然るに事實其通りで、教科書は同氏の編纂したものを十五冊計り各講習員に進呈し、又土曜日は上野邊の茶亭やレストランに招待してビールなど饗應したとの事である、然る處醜を得て蜀を望むといふのは人情の常で中等教員と雖も此弱點は免かれがたいものと見へ、講習員の或者は明年は往復の旅費も出して呉れ、又出席しても好いなどと言つて地方へ歸任した者もあるさうな若し旅費を貰つたら其次は慰勞金と言ふだらう ●救世軍總督ブース大將には先月二十一日終に昇天し

た、想ふに去六月左眼の施術以來二ヶ月餘の病臥は甚く其全身の健康を害し加ふるに前月來の苦熱を以てし竟に其老體をして復起つ能はざるに至らしめたものかと 東京救世軍本營よりの通知に見ゆ、ブース大將は日本にも親しく傳道に來られ、本邦と淺からぬ關係がある、其のためか、倫敦の救世軍本營に安置せる同大將の柩の上には日英米の國旗が掲げられたとの事である、タイムズ新聞は同大將を現代の最も偉大なる使徒(Apostle)として頌讃した、適評と謂ふべしである、救世軍にては黒棒を附せざるのが其例規なりとて右の通知書には黒棒がない ●話が又元へ戻るが廣島高等師範學校の講師プリングル氏は英人にて、英文學の外に法制經濟にも通曉し、年齢は未だ四十には達せざるやうである、氏の發音は力があつて極めて明晰である、其レクチュアの仕方は普通の人には筆記が殆ど出来ないほど早かつたとの事、察するに日本の中等教員の英語を餘り高く買ひかぶつて居つた結果であらう、●同氏は何か日本に於て研究する所があつて、其傍らで英語を教へて居るのであらう、英語教師を長くして居るやうな人物でなさうである、故に同氏のレクチュアを聞いた人々は仕合せである、

BARON KIKUCHI, former Minister of Education, has received an invitation to address the opening ceremony of the new University at Houston, Texas. He will send a written address¹ but will not be able to attend.—J. A. 1. 祝詞を送るべし

廣嶋英語科講習會

滋賀縣立膳所中學校教諭 南石福二郎氏

文部省英語科夏期講習會の概況

(其二)

送別會

附長屋教授の談

八月六日の午後送別會を開いた。勿論御大喪中の事であるから華美なる事は一切避け徹頭徹尾知識修養の爲益する事に最靜肅を守てやることにした。當日は三講師は申す如くもなく北條校長長屋教授其他二三の教授方も臨席せられた。杉森教授が外國より持歸られし英米の金、銀、銅貨、スケート、繪葉書及植物標本など中央の机の上に陳列したる所、皆珍らし相に手に取て見た。實物教授の必要を爰に述べる迄もないが、實は英語教授に於て外國の風俗や何かを大方こんなものだらうと、各々好い加減に想像して居るのと。實際其物を見るとでは千里の差がある Things seen are mightier than things heard と詩人も言ふて居るが、實際百聞は一見に如かずだ。贅澤を言へば限もないが普通讀本の中に出て来る所の外國の事物の實物標本がせめては繪葉書にても一通りは各學校に備付て置きたいものである。何れの學校にも博物の標本や理科の器械には莫大の金を投して完備を圖て居る、歴史科や地理科でも繪葉書や其他色々な参考品の蒐集に骨折て居る。英語科でも英語教授用の繪葉書や出來得べくは金銀貨、讀本中の詩などに矢鱈に出て来る動植物の標本は一通り集めて English Museum を作りたいものだ。實際田舎の中學校では fork さへ知らない者もある。五年級になつて mantelpiece さへ見たことのない者もある。cupboard などは尙知らないし。吾々も未だ hansom-cab の實物は見たことがないのである。奇なるは shilling の銀貨など貨幣の表にも裏にも金額の名稱が書いてない。夫でも其大きさに依て shilling といふことが一般に認められて居る所などは何處迄も英國風を發揮して居る。skating などは水泳と同じく思ひ切つた度胸で練習せれば中々上達せぬさうである。寒國では冬 skating 程愉快な且健全な運動はない。嚴冬でも體が暑くなるさうである。が又未熟の輩が氷の上で helplessly にまごついて居る程みじめなものもないさうだ。日本でも諏訪湖などで年々盛に行はれ skate club などいふものも出來て居るさうだがあれは矢張り Skating Club とした方が正しいなどと誰やら批評して居つた。其内茶菓が配布される。藤本君が英語で挨拶をされる。次で長屋教授の有益なる演説がある斯くして和氣霽々たる裡に半日を暮した。因に米澤中學校の藤本鴻

太郎君は最初講習員中の委員に擧げられてから茶話會の計畫に、講師との交遊に、或は印刷物の調製配布に、さては又面倒な會計事務に熱心且獻身的に盡力せられ、克く講習員一同の利便と満足を圖られたことは一同感謝する所で、講習會の記事中省くことの出来ない事である。長屋教授は廣嶋高師の重要な教授で文部省の視學委員を兼ね財務上中等教育の實際に接して居られる丈其言ふ所も至極實狀に觸れて居る。氏は先づ中學校に於てどの位の英語を教へたらばよいか、近頃頗る中學生の學力退歩を唱ふる者があるが之は或は言ふ者の要求があまりに高過ぎるのではあるまいかと問ひ、

長屋教授の談話

法令では日常簡易なる英文を讀み書き云々とあるが、此日常簡易といふ言葉の意味はと言へば頗る漠然たるものである。そこで今日中學校に於て教ふべき英語の程度はと言へば先づ高等學校の入學試験問題位を標準とする外はない。尤曾ては高等學校の入學試験問題なるものは随分無理な不適當なものがあつて英語を専門とする者でなければ充分に答へられぬ様なのが盛に出された時代もあつたが、近頃さういふ風は漸くなくなつて、本年度の問題の如き誰が見ても適當と認められるのである。諸君の中には中學校は決して高等學校の豫備校ではない。其入學試験の如き我不關焉として居らるゝ向もあるなれども、具體的に中學校の英語の程度如何と言へばまづあれを標準とするの外はあるまい。そこで其活用の程度は、假令五年級で第五の巻を教科書として用ゐて居るとするならば、生徒が第四卷又は之と同等の書をすらすら讀みながら其意味を正確に解し得られたら程度充分である。讀みながら解すといふのは實は今日遺憾なく行はれて居るといふわけにゆかぬ。生徒は勿論教師も reading には存外無頓著で字さへ讀めたら意味が果して解せられて居るか否に就てあまり注意を拂て居ない。甚しいに至ては字さへ讀めて居ないものもある。例へば生徒が know をナークと讀て居るのを教師も平氣で聞き流して居るやうな實例もある。併し英語を適當に理解するには矢張り reading に依らなければならぬ。昔漢文が日本に輸入せられた時に日本人は漢文を日本流に下から上に點讀みの癖をつけた。一面には點讀みは至極重寶であつて之に依て漢文を解釋するには差支はないが、今日から見れば若し昔から日本人が點讀でなく訓讀みの習慣がついて居たなら、今日支那の時文などを讀み支那語で談をするにも非常な便利であつたらうし、又昔の詩などの妙味を充分に知ること出來たであらうと思はるのである。幸に英語は reading で解するの習慣が出來て居たので我輩今日爰においで Professor Pringle などとも自由に談話を交へることが出来るのである。そこで吾輩の考では中學校の上級生が第四讀本程度の本が讀みながらすらすら解り、且第三讀本位の英文が見も角も人に分るやうに書けたら充分であらうと思ふ、それから英作文であるが、英作文は吾輩は教科書を用ひぬ方がよいと思ふ。願くは教師が毎年一冊宛の作文教科書を編纂する位の覺悟を以て綿密な教案や練習問題を自ら作成してやる事を希望するのである。之は隨分骨の折れる事業であるが併し骨を折る丈の効果は慥にある。教科書を用ゐるのは便利ではあるが、年々同し本を用ひて居ると二年目にはちやんと虎の巻が出來て居て生徒は皆虎の巻によつて準備をして來るから能く出來るには違ないが作文の教

授としては全然失敗である。否來年と言はず同じ日に於ても五年級が二組あると、後の時間に行く組には矢張り虎の巻が出来て居る。之を取締る用意が教師の方に充分にあるならばよいが、之が中々困難なことである。

以上は予が記憶を辿りて書いたもので予の主観的分子も不熟入て居るであらうが、ざつと長屋教授の談話の一部である。尙長屋氏は試験廢止問題羅馬字問題にも説き及ぼされたが之等は略して置く、丁度同教授の許へ米國から一通の手紙が來て居て Reformed spelling に就て何か言ひ越して來たものらしく、其結末に何か之に就ての決議文を送て呉れと書いてあつた。丁度羅馬字問題に關聯して吾々の考究すべき題目である、杉森教授は、そんなことは米國でなければ出来ぬ、英國では favour の u を一字省くのも容易なことではない、そんな突飛な事は米國人に任せて置く方がよいと何だか擲論する様なことを言はれた。夫から外國人を使用せる學校にて最有效に西洋人を利用する方法に就て杉森氏の注意があつた。

杉森教授の談話

西洋人に或は會話とか作文とかを専ら任せて日本人の教師と丸で分業的に双方孤立して居るといふのは甚不得策なことである。日本人教師は西洋人に色々注文する所あり、共同して教案を作るといふ風にしたらば一層有効である。西洋人の時間に日本人の教師が立會て居るのは至極よいことで大分諸方の學校でやつて居るが、中には日本人教師は唯一個の通辯といふ姿であるといふ學校も時にあるが、之は教師としての威嚴といふ上からも如何だらう、矢張邦人教師は西洋人と同等の見識を以て臨まねばならぬ。且又通譯して聞かすのはよくよく止むを得ない場合迄せぬ方がよい。西洋人は、どうにかして分らせやうとして手眞似や何かを用ひ色々言廻したる更へたりして言ふから、反て其處に利益があるのである。又中には日本人の教師が立會ふて居らぬと教場が喧しくなるので管理の爲め臨席して居るといふ所もあるが、之は驚いた話で左様な西洋人は寧ろ用ゐぬ方がよい。それから西洋人の態度に就て杉森氏は言を續けて、言はるゝに、西洋人には最初から丁度西洋の子供を教ふると同じ様に教へて貰ふ様に、よく注文して置く方がよい。西洋人殊に日本に永く住て居る人々の中には、日本人は是位にしか出来ぬものと頭から高なぐゝつて居る者があるが之は大に困ることである。前に本校に居た Smith 氏などは西洋から新任の教師が横濱へ着くと直に自分の所へ來いと呼び寄せて横濱あたりに居る外國人に悪い忠告をされない様に注意した程である。

時刻も大分移て一同校庭にて記念の撮影をして散會したのは殆薄暮であつた。

終業式

英語科講習會も愈七日を以て結了を告げ、講習科目も豫定の通悉く了したので同日午後二時から終業式を擧げた。北條校長以下各講師及重なる教授列席し校長より修了證書を授與し、北條校長は御製の歌詞を引用し 先帝陛下の聖德を語り、語學教育に従事する者の覺悟に就て懇篤に訓告せられた。杉森教授も英語科の教員が能く統一を圖て、群雄割居の様な有様にならぬ様注意する所があつた。藤本君が一同を代表して答辭を述べて式を終り各々 Good-bye を交換して夫々歸途に就いた。

廣 嶋 英 語 科 講 習 會

滋賀縣立膳所中學校教諭 南石福二郎氏

（其三）

杉森教授の英國風俗に關する談片

英語教育に當る者が英國の風俗習慣に通して居ることが、必要なるは、今更言ふ迄もない。杉森氏はあらゆる機會に英國の風俗殊に英語に密接なる關係あるものに就て、屢興味ある談をせられた。聞て居ても宛ら自身が英國に行て見て來た様な感がある。予自身初めて珍しく聞た點も澤山あり、一般英學生を益する事も多大であらうと信ずるから、爰に記憶を辿て無秩序に書き集めた次第である。文責筆記者に在り。

英語で first floor とか second floor といへば、直に文字を見て階下、二階と解し易いが、實は first floor は日本の二階に相當するので、second floor が三階といふ風になつて居るのである。一番下の階は ground floor と稱す、其下の地下室が basement といふのである。basement は多く厨房等の下等な目的に用ふるのである。併し first story は丁度日本の階下で、second story が二階、third story が三階である。大きな hotel などは昇降器を用ひて居るが、之を elevator と呼ぶのは米國で、英國では之を lift と稱して居る。地下鐵道は lift に依て昇降する様になつて居る。英語と米語との異も厄介なもので、store と shop, corn と grain などは大抵人も知て居る様であるが、まだ他に澤山ある。米國では小手荷物を baggage といふが、英國では小手荷物は luggage で米國と反對である。日本で普通チョッキと呼で居るのを、米國では vest といふが英國では waist coat といふ。英國で vest とは膚褌袴の事である。ジョンの事を米國では pants といふが英國では trousers といへばジョン下である。ジョンは英國では必 trousers と言はなければなら

ぬ。因に日本の猿股は水浴用の目的であつて、あれを swimming drawers といふ様だ。道の兩側の人の歩く所を side-walks といふのは米國で、英國ではあれを pavement といふ。市街の四辻の廣場を米國では square といふが、英國では circus といふ。尤有名な Nelson の紀念碑のある Trafalgar Square などは例外である。普通日本で靴下を呼で stocking といふが、stocking は婦人用の膝迄ある長いのであつて、我等が普通用ひて居るのは socks といふべきである。靴は shoes と云へば所謂半靴である。英國にては日本でいふ編上靴を用ふ。而してそれを boots といふのである。日本で普通用ふる深ゴム靴は多分 elastic-side-boots といふ様である。併し英國ではあれを用ふる者はない。日本でいふ長靴は英國では top boots 又は Wellington boots と呼で居るが、あれを穿つ者は軍人の外は掃除人夫其他汚い仕事に従事する下等な労働者ばかりである。英國で普通只 hat といへば主に silk hat である。英國紳士は皆用ひて居る。烏打帽は新聞賣其他の小僧が多く着て居る。一般人は silk hat でなければ大概日本で言ふ黒の山高帽を着て居る。脊廣服に山高帽は普通である。唯フロックコートを着た場合には是非共 silk hat を被らなければならぬ。モーニングには silk hat でも山高帽でもよろし、しかし麥藁帽を被てはならぬ。英國にも毛の切れた、高帽フロックコートを着た紳士氣取で居る人もある、こんなのを shabby gent といふて居る。食事は朝目が醒めると、先自分の室で coffee を飲む（一般ではないが）夫から八時か九時比食堂に出て行て breakfast を喫する。夫から一時頃になつて lunch であるが、何れも手輕な食事である。四時過比になると茶を喫す。是を afternoon tea と云ふ。英國人は茶が好きで、多くは印度からの輸入に係る所謂 Ceylon tea である。途中歩いて居ても市中到る處に喫茶店がある。之を tea room と云ふ。無論 tea と云ふても他の食品もある。tea の時は家庭にても又 tea room に於ても、大概パンの薄片にバターを塗たものを喰ふ、是が即 bread and butter である。此外菓子も、又時とすると小蝦 (shrimp) の鹽ウテ杯をも喰ふ事がある。Scotland の方へ行くと、tea の時に多く肉を用ふ。之を名けて high tea 又は meat tea といふ。夫から七時頃になつて dinner を喫するので、これが一日の重なる食事で此時に御馳走が色々出る。それから九時頃になつて supper (是も一般ではない) を喰ふ。これは至て手輕なものである。日本語に譯すと dinner も supper も同く夕飯として了ふが、supper は普通 dinner の後に食ふ小食事である。斯く英國人は日に六食であるが、實は食事らしい食事は唯 dinner 丈である。日曜日は平日と少し異ふ。日曜日には朝は教會に行く事の出来る様な時間都合になつて居る。夫から散歩でもして歸ると大抵一時比になる、そこで dinner を二時頃喰ふ。そして tea は平日より少し重くして八時か九時頃に supper を喰ふ、多くは冷肉である。市中には cab があつて之が日本の人力車のやうな用をして居る。手を舉げて呼べば直に來るし、向ふでも Cab, sir! と言って客を呼ぶともある。cab に二輪のと四輪のとあつて、二輪のは hansom cab といひ、四輪のは four wheeler といふ。馭者の居る所が客の乗る席の背後の高き所にあつて、客の後から即屋根越に駛して行く有様は見馴れぬ目には奇觀である。倫敦乗合馬車は例の Omnibus で通常 buss といふて居る。今では多く自動車になつて motorbus といふ。市街の最繁華な場所へ來ると、此 buss や其他の車馬が往復續るがこ

とく、街路を横ぎることが困難である。街路の取締は巡査が中々よく世話をやいて呉れる。いくら車馬が疾驅して居ても、巡査が手を擧げると止り、又合圖をすると動くといふ風に、萬事規律正しくて心持が宜い。時々 blind と書いた札を首から掛けた、盲の乞食があるが——乞食とても毛の剥けた silk hat を被て居るものもある——盲でも道を行くに決して不自由をせぬ。日本に見るやうな、覺束なげに杖をついて、溝の測を索るやうなことはない。何故かならば英國では、巡査は勿論一般の通行人でも、盲人のやうな弱者を助けることは、公共的の當然の義務であると、各自考て居るからである。倫敦は市街が比較的狭く又不規則である上に交通が非常に繁き爲電車を設けることが出来ぬ。只地下に電車がある。之は元 tube と云て一線丈であつたが、今は幾線も出来て居る。市外には電車が出来て居て tram 又は tramcar と云て居る。英國人は演劇が好きである。 theatre に行くには上等の席に行く時は男女共ちやんと正装して、即男子ならば evening dress を着て行く。觀劇中は喫煙は勿論飲食などは一切せぬ。別に食堂はある。俳優又は女優といふのは英國では尊敬すべき profession である。 theatre の外に music hall と云ふのがある、之は不思議な名稱で決して music をやらぬ場所である。輕業茶番等何でもやるが、唯音樂はやらぬ。夫でゐて music hall と名けて居る。併し此中には紳士たる者が公然出入することを愧づる様なものもある。さういふ所へ出る俳優や女優は日本などいふ俳優女優のやうなものである。それから男子が女子と共に道を行くときは、必ず男子は roadway の方に寄て歩くのである。又途中で見知らぬ婦人には物を尋ね途を問ふにも決して物を言ひ懸けてはならぬのである。女子は日没後は決して男子の同伴者なくしては外出せぬ若しあればどんな無禮をされても仕方がないのである。英國人は繼して古風であるから、今に家々の戸には knocker が設けてある。而して之の叩き工合で大凡誰といふことが分る。例令ば 訪客は通常トン、トン、トンと軽く叩く家人は一つといふ風になつて居る。郵便配達などは二つ叩く若し書留郵便の如く必ず家人に渡すべきものならば、二つ、トン々々、トン々々と二度叩く。英國では電信の配達夫が待て居て返信迄持て行て呉れる。道を行く郵便配達夫を呼止めて郵便物を頼めば持つて行つて呉れる。萬事斯ういふ風で巡査なども道を尋ねるとわざわざ連れて行て呉れるので、多少の心付は自然にやり度くなる。

THE widow of the late Col. Astor,¹ who was drowned in the *Titanic* disaster, gave birth to a son on the 14th Aug. All New York is rejoicing at the event.²—*J. M.*

1. 富豪アストル大佐
2. 其出産を祝して居る

THE DROWNING OF THE BOY SCOUTS.

As already briefly reported, nine Boy Scouts¹ were drowned² at Leysdown, Isle of Sheppey, on the 4th inst. (Aug.) owing to the capsizing of their cutter.³ Seven bodies were found when the early tide receded from the low flats⁴ known as the Mussel Bank, on the eastern end of Sheppey. One boy died on shore, so there was only one body missing.⁵—*J. M.*

1. 少年義勇隊
2. 溺死したり
3. 快造船の顛覆に由り
4. 洲(ス)
5. 行衛知れず

其後任者と爲つたのである ●英語少年記者にして健筆の名ある服部保氏には先般嚴父を喪ひ、郷里より歸京すると同時に猖狂熱に侵され、某病院に入院、漸く昨今に至りて略ぼ全快した、 ●文學士浦瀬白雨氏は岡山高等學校の出身なる由 ●廣島講習會に於てプリンガル氏には讀方練習の時間中講習員の希望を容れて reading の模範を示された其材料は沙翁の「シーザー」中例のアントニー葬らひ演説の全部であつた、之を聴聞した南石氏は生まれて未だ此の如き reading を聞きしことなし、其崇高なる宛ながら富嶽の高さを仰ぎ見るの感あつたと言つて居る ●先頃帝劇に於てシャーロック、ホームズ劇にホームズの役を勤めた英人ダン氏は先年海軍兵學校の教師たりしことあり、同氏の嚴君は倫敦に於て有名なる俳優にして先帝エドワード七世及び同皇后陛下の御前にて度々演劇し、最も Recitation に妙を得たる人なりし由、因に云く帝劇に於けるダン氏の給料は一興行に四百圓なりと云ふ、これは確かな筋より聞いた、多分相手のオデル氏の給料も同額であらう ●本誌別項に掲ぐる通り、此秋メドレー氏其他外國の紳士淑女が帝劇に於て僅ほす筈に爲つて居つた「ヴェニス商人」の素人演劇は御大喪に依り無期限延期と爲る ●The Outlook の副編輯人たる Dr. Hamilton R. Mabie と云へば當時米國に於て名聲噴々たる學者であるが、博士には來月頃本邦に渡來し、六ヶ月間の巡回講演を行ふ筈なる由、これは新渡戸博士の渡米に對する返禮であるそうな、漫にはエリオット老博士の演説あり、今又此名士の講演を聞き得るとは今日の英學生も亦多幸多福である ●倫敦の雜誌 Tit-Bits は滑稽が趣意であるが中には極真面目で有益なる材料も折々見へる、併し矢張滑稽が其生命を成して居る、其 jokes は能く詠味すると仲々皮肉な處があつて、これも其一例だが、先頃或る鐵道工事請負人が三百本の wooden sleepers を買ひ入れたしとの廣告を新聞紙に出した、sleepers は即ち枕木である、然る處其請負人は近傍に住む一牧師より早速一通の書翰を受取つた、其文句は「廣告の趣正さに了承仕候就ては拙者監牧の教會員一同をば相當なる條件にて御譲り申しても宜敷」と云ふ趣意である、何？鐵道の枕木に教會員一同を譲渡さんとは餘りに見當違であるが、此牧師は sleepers をば文字通り睡眠者の意味に取り、又 wooden は「木の」と云ふ意味なるを牧師は形容的の意味にて「ホンヤリしたる」、「唐變木なる」の意味に取り、自分の教會員が説教中ホンヤリして居 睡りばかりして居るので先生イヤに爲り、幸ひ、「ホツトしたる睡眠者」の募集廣告を見たので早速相當の條件にて譲渡さんと申込んだのである ●何と残酷な皮肉ではないか、併し現に日本に於ても其教會員の“wooden sleepers” たらざる教會が果して何處にありや ●齋藤秀三郎氏には文部省が本居博士に囑して作れる奉悼歌を英詩に譯し、和文と對照して上等の洋紙に印刷し、各學校へ配つた、ルース氏の近日發行せんとする「大正英學生」と云ひ、此奉悼歌の出版と云ひ、何れも機を見るに敏なるは感心の至りである ●日本は今や降り坂に向つて居るとは東京の倫敦タイムス通信者が同紙に送つた通信の趣意であつて、タイムス記者は其次に我輩は左様思はぬと斷つて居る、又此通信者はプリンクレー氏では無いと某新聞紙に書てある ●日本は果して此通信者の如く降り坂に向つて居るのであらうか、是は我々の大に自省すべき問題である、該通信者は何が故にこんな悲觀的な觀察をしたのか、詳しい意見を聞きたいものである、併し局外者の

英文学最近の趨勢

広島高等師範学校講師プリングル氏講演

（其 一）

緒 言

茲に掲ぐるは 先般広島高等師範学校に於て催はせる文部省英語科講習會に於て Professor Pringle 氏が爲したる講演の大意にして執筆者は講習會員の一人たる南石福二郎氏なり、南石氏の此文を草するやプリングル氏には特に親切にも其講演の原稿を示されたり、由て此筆記は言はゞ “Authorized” たるの權威を有す

プリングル氏の此講演は六回を重ねて述べられ、而して豫め Syllabus (綱要) を謄寫版に印刷して各員に配附せり、依て each lecture の前に其シラバスを冠し、且つ當記者の譯を加ふるとせり、プリングル氏の lectures は其主題を Fiction, Drama, Literary, Biography, History, Travels, Politics, Sociology, Philosophy, Books of Reference, Anthropology and Archaeology, Art and Architecture などの數門に分つ、即ち廣意義の Literature を網羅し、何れも昨年出版の新書に由りて文學界最新の傾向を観察したるものなり、其を僅に六回を以て講演するのであれば固より詳密を得ざれども、其簡潔にして要を得たるは却て我儕の喜ぶ所なり、先づ講演の順序に依り小説界より説き始めん

一千九百十一年に於ける英文学

Prof. J. C. Pringle 氏は當世稀に見る篤學の人であると兼て聞て居たのであるが、予は實際氏の講演を聴き、氏を訪て談話を聞て、一層氏に敬服した次第である。氏の講演はあまりに數字に緻密で、其大部分は統計的であつたので、聴講者の中には氏の講演を以て乾燥無味なりと感じたものもあつたかなれども少しく眞面目なる研究者には反て其乾燥な所が甚有味で、其數字的な所に大なる興味があつたのである。

南石福二郎述

Subjects.	Rough percentage.	Number of books.
Agriculture, Forestry, and Gardening	1½	82
Anthropology and Folklore	<1	51
Archaeology	>1	61
Architecture	<1	48
Art	>3	171
Biography	7½	399
Books of Reference	>1	61
Dictionaries	<½	23
Year Books and Directories	2	113
Classical	<1	40
Cookery	<½	22
Drama	2	119
Economics	2	95
Education	>1	60
Engineering	1½	81
Fiction	17½	942
Geography	<½	11
History	<4	209
Law	3½	186
Literary	<5	246
Mathematics	½	14
Medical	2	107
Military	1	49
Miscellaneous	1½	82
Natural History	1½	89
Naval	<1	38
Oriental	<1	40
Philosophy	1½	70
Poetry	5	243
Political	2½	127
Reprints	5	253
Science	2½	138
Sports and Amusements	2	99
Technology	½	31
Theology	10	507
Topography	2	117
Travel	5½	290

此表に依れば最多數を占めて居るのが Fiction 即小説類の 17½ であるけれども、前に言ふた通り此類の書物は一に娛樂を目的とせるものであつて、眞面目なる educated class は殆ど之等を眼中に置かない。そこで此種類を除ては Theology 即神學書の 10% を第一に推さなければならぬ。Fiction に屬するもの總て 942 であるが此内 Times 紙上に稍綿密なる批評紹介を受くるに至たものは僅八十種に過ぎぬ、而して其著者は七十六人である、其他は只書物の名が掲げられたのみである。此批評に上た八十種の内でも、タイムスの全欄を費す程な批評を受けた者は殆ど無である。此八十種の小説の著者七十六人の内二十三人は女子で、又其内七人は女子の生涯を畫いたものである、つまり女子自らが自叙傳を書いたわけである。重なる女子の作を擧ぐれば

Mrs. Humphrey Ward: *Richard Meynell*.
Miss. Goldning: *The Downman*. (一青年社會主義者を描きたるもの)
Jane Barlow: *Mac's Adventures*. (Irish life を描きたるもの)
Miss Wylie: *Dividing Waters*. (Anglo-German misunderstanding に就て)
Miss Braddon: *73rd Novel*.

Problem Novel 問題小説といふても極めて漠たるものであるが、其重なるものは、

Mrs. Maxwell Armfield: *Mothers and Fathers*. (The family ought to be the training ground といふ事を主張す)

Prof. Jacks: *Among the Idol Makers*. (ニーチエー派に對する嘲罵)

A. L. George: *A Bed of Roses*. (ある年若き寡婦が生活の壓迫を受け遂に墮落して賣笑婦と成りし一の社會問題)

Quiller Couch: "*Brother Copas*"

W. B. Maxwell: *Mrs. Thompson*. (低級なる中流社會の研究)

W. D. Paterson: *The Old Dance Master*. (慈善事業に一生を獻げたる人が自分の子が cabman と結婚するを許さざる矛盾)

Eden Philpotts: *Demeter's Daughter*.

Algernon Gissing: *Rosanne*. (一婦人が子を産みて初て人生の目的を悟りしこと)

次には **Specific types of social life** 即或特別なる社會又は地方の生活狀態を描きたるもので其數二十一其分類は Irish life 5, high society 4, Dartmoor, Kent, Oxford, Prussia, Cornwall, South Africa, Klondike, Porcety, Music Hall (別項 杉森氏の風俗談参照), struggling literary man (貧乏文士の生活), school master's common room (教員等が兎角猜疑心の強い有様を描く), musical and artistic set. (數字の記載なきものは皆一種なり)

次に **Prophetic novel** 即豫言小説にては R. H. Benson の *Dawn of All* であつて、1973 年には全世界を擧げて Catholic となり、所謂 Lord of All は self-worship of mankind 即人類の自己崇拜を以て全世界を統一するといふのである。

大家の作を模せるものでは

J. G. Paterson: *Love like the Sea*. (Thomas Hardy を模せるもの)

Richard Duelllyn: *The Imperfect Branch* (Meredith を模せるもの)

Mystic に關しては總て四種即

G. M. Forster: *Celestial Omnibus*.

Blackwood: *The Centaur*.

Rider Haggard: *Red Eve*.

Arthur Ransome: *Hoof Marks of the Faun*.

Borderlanders とは近頃言ふ精靈的事實を豫定して書いたもので其三種即、

Hichens: *The Dweller on the Threshold*. (人格混合及轉換に關して)

Newbolt: *The Twysmans*. (時間と永遠の問題に就て)

Mrs. Whanton: *Etham Frome*. (Haunting の事實なることを説く)

Current Politics 即政治小説では、前に出た Miss Wylie の *Dividing Waters* は英獨の誤解を書いたもので此類に入るのであるが、其外には Conan Doyle の *The Last Salley* がある。内容は the allegory of the fall of Carthage (カルセーダ滅亡の譬喩譚) である

Historical novel では多數は佛蘭西革命に關するもので之は歴史小説の材料には無盡藏と云て差闕ない。其外にはかの Lady Hamilton なども題目とせられて居る。

Studies of women by men 即男子の見たる女性と言ふてもよい、前に出た Maxwell の Mrs. Thompson など矢張り此部に屬するが、尙外に、W. J. Locke の The Glory of Clementina がある、内容は the glory of being a woman (婦人たるの光榮) である。

Adventures では海賊談や密輸入商人などの話が興味盡きないもので Masfield の Jim Davis などがある。

以上は色々な方面の小説に於て其重なるものを觀察したものであるが、次には著名なる作家に就て一年間の作品の重なるものを觀察すれば

Anthony Hope: "Mrs. Maxon Protests"

此書は marriage convention 即婚姻制度に對する近世反抗運動を最丁寧且哲學的に研究せるものであつて Can a woman defy the existing marriage convention in England and be happy? (即ち婦人は英國從來の結婚に於ける習慣を蔑視して其れで幸福を得べきや)との質問に對して Hope は最も力を込めて No! と言ふて居る。

G. K. Chesterton: The Innocence of Father Brown.

Chesterton は元來小説家でなく、宗教政治家であるが、自身の主張を發表する爲、物語に托して意見を書いて居るのである。此書は十二の物語より成り、Brown といふ羅馬教の一僧の經驗、勇氣及偉大なる論理の能力を描いたものである。

Galsworthy: The Patrician.

此書の主眼は "Sacrifice of feeling in the interests of aristocratic idea" であつて、G 氏は社會問題を主とせる小説より漸々純粹なる、人の興味を主とせる作に移りつゝあるのである。又吾人は此書にて現代英國の Crying question を窺ふことが出來得るのである。

De Morgan: A Likely Story.

之は古代以太利の悲劇を近代の romance に傳へたるものであつて、種々なる苦痛に對する同情に満ちたるものである。

Arnold Bennett: Hilda Lessways.

: The Card.

前者は懇切なる人生の心理的研究であつて、後者は一の出世譚である。card とは、僥倖兒といふ意味の slang である。此書物の主人公は Edward Henry Machin といふ貧少年で、うまく狡猾な手段で中學校の入學試験に通過したのが端緒で、夫から夫へと、所謂玉の輿に駕して面白く世の中を渡行く筋を書いたものである。Henry は Ed と一しよに合せて發音して Denry と呼ばれてゐる。唯面白い話であるといふばかりである。

H. G. Wells: The New Machiavelli.

人間の合理的分子と本能的分子との衝突であつて、一は生涯の方針を規定し、一は規定した方針に合するを欲せず、而して遂に社會上其他色々な方面に此書中主人公の破滅を表するのである。恐らく此書は Wells の最傑作であらう。

Joseph Conrad: Under Western Eyes.

或は "Crime and Punishment" と題してある。一少女の信賴的眼色に勵まされて一罪人が遂に自白するに至りし筋である。此書に於て露國の生活狀態が實によく描かれてゐる。

Hewlett: "Brazenhead"

此外に Queen Mary of Scott や Richard the Lion-hearted など歴史的人物を研究せるものがある。

Belloc: The Girondin.

1792 年佛國革命に於て穩健なる民主々義を唱へ終には Jacobin 黨と衝突し死刑に處せられたる Girondin 黨は此書に於て言を盡して賞讃せられてゐる。

英文学最近の趨勢

広島高等師範学校講師プリングル氏講演

(其 二)

緒 言

茲に掲ぐるは先般広島高等師範学校に於て催はせる文部省英語科講習會に於て Professor Pringle 氏が爲したる講演の大意にして執筆者は講習會員の一人たる南石福二郎氏なり、南石氏の此文を草するやプリングル氏には特に親切にも其講演の原稿を示されたり、由て此筆記は言はゞ“Authorized”たるの權威を有す

DRAMA. Condition of the English stage. The stage societies. Conspicuous pieces in 1911. The two great “hits.” Translations of continental and classical plays. The production of the Oedipus. Apparent requisite for success in a play of modern life. Is civilized life dramatic?

劇に就ての講演

其 梗 概

英國劇壇の景況 演劇協會 千九百十一年中の名作二個の大當り 大陸及び古典の劇の翻譯 The Oedipus の作出 近代生活の劇に於て成功に必要な要と思は素るゝもの 文明生活はドラマ的なりや

DRAMA.

Drama の重なるものは

Hewlett: *The Agonist.*

(神と人との結合を主眼とす)

Graham Moffat: *Bunty Pulls the Strings.*

Syngé: *The Playboy of the Western World.*

Gilbert Murray: *The Oedipus.*

(Sophocles の作を翻譯せしものであつて Herr Rheinhardt 指導の下に舞臺に上されたものである)

此等の外には

Shaw: *Doctor's Dilemma.*

Benson: *Maid of Orleans*

Scenes from Alice in Wonderland.

Comus for girls' schools.

The Blue Bird.

Chushingura, with reproductions of Hokusai.

The Pageant of Bruce.

Masefield: *The Tragedy of Nan.*

Jerome: *The Masks of Mrs. Chivers.*

LITERARY. Calendars of three living and three recent writers. To what extent are books still written on the great authors of the past? Who are the 19th century writers who are still actively studied?

Do poets, novelists, or essayists come in for the most persistent study? Are any living writers the subjects of books? The attitude of the general public.

文学に就ての講演

其 梗 概

現代作家の年譜及び近年の三作家 過去の作家に就て何程の書籍が今尚ほ書かるゝや 今尚ほ盛んに研究せらるゝ十九世紀の作家は何人なりや 最も多く研究せらるゝは詩人なりや小説家なりや將た論文家なりや 現存の作家にして著述の主題と爲れる者ありや 公衆の態度

LITERARY 即古今の文豪作家の如何なるものが今日最研究せられて居るかといふに其比例次の如し

Shakespeare 10	Dickens 4
Arnold Bennett 2.	Gray 1
Matthew Arnold 1	Greek Epics 1
Bacon. 1	Greek Epics & Roman Poets. 1
Beowulf 1	Thomas Hardy 1
Charlotte Brontë 1	John Oliver Hobbes 1
Browning 1	Lionel Johnson 1
Mrs. Browning 1	Keats 1
G. K. Chesterton 1	Kingsley 1
Coleridge 1	Mark Twain 1
Dante 1	Meredith 1
George Eliot 1	Petrarch 1
Emerson 1	Tennyson 1
D. G. Rossetti 1	H. G. Wells 1
Stevenson 1	Whittier 1
Thackeray 1	Wordsworth 1
Tolstoi 1	Sir Thomas Wyatt.

BIOGRAPHY. Who are the people of our time whose lives are being studied? How many have been rendered interesting by their services to society and their attempts to solve its problems? How many are studied because of their books, their preaching, their acting, their painting, their singing, or their musical composition? How many biographies are of persons now belonging to past history? To what extent are they written to satisfy curiosity and to please? To what extent to add to our understanding of human life and character?

傳記に就ての講演

其 梗 概

現代の人物の内何人の傳が最も多く研究せらるゝや 社會に盡くしたる功勞及び社會問題を解決せんと思ひたるがために其履歷に興味の附せる人々は幾人ありや 其著書、説教、演劇、畫、唱歌又は樂曲のために研究せらるゝ者は幾人ありや 今は過去の歴史に屬せる人々の傳記は幾冊ありや 世人の好奇心を満足せしめ且つ世人を樂ましむるために是等の傳記は如何なる程度まで書かるゝや 又は是等の傳記に由りて吾人が人間生活と人間の品性を了解し得るに於て如何なる程度まで助けと爲るべきや

BIOGRAPHY I

現代の社會問題を攻究せし人々の如何なるものが最も多く書かれてあるかといふに、

Jane Adams	John Burns
Mrs. Eddy	Lombroso 伊太利の犯罪學者

英 學 時 評

京都に於ける英語教師大會

本月三日より五日迄京都府立第一中學校に於て開催する内外英語教師大會は先月十二日及二十二日に發起者及び委員より夫々英文の案内狀を出したるが出席申込は發起者の豫測よりも遙に多く定めて盛會ならんと豫想せらる、今其案内狀及びプログラムを茲に掲ぐ

The English Teachers' Conference,
April 3rd, 4th, & 5th, 1913,
FIRST MIDDLE SCHOOL,
KYOTO.

DEAR SIR, March 22nd, 1913.

On the 12th inst. we took the liberty of announcing to you the English Teachers' Conference which is to be held at the 1st Middle School in Kyoto, April 3rd, 4th, and 5th. We now have the pleasure of calling your attention to the enclosed programme. You will join us, we feel certain, in our feeling of great satisfaction at having secured such a large number of eminent and efficient speakers. We feel confident also that the subjects to be discussed at the conference are such that they will be of intense interest and practical value to all teachers of English who attend.

You will be interested to know that the Committee has sent out invitations to all schools of "Chu Gakko" grade and above, in the entire western half of the country, comprising 29 prefectures and containing some 700 government and private schools. This together with the approval received from the Department of Education make us hope for a gathering large in numbers as well as large in its spirit of mutual helpfulness.

We again invite you to send in not later than March 31st either to Mr. S. Sugai, 2nd Middle School, Kobe or to Mr. M. D. Dunning, Karasumaru Dori, Ichijo, Kyoto any topics you would like to have discussed at the conference.

Also, let us say once more that we desire those expecting to attend to send in application to Prof. T. Iizuka, Dōshisha, Kyoto not later than March 31st.

The Kyoto committee on local arrangements have kindly offered to reserve accommodations for delegates at either foreign or Japanese hotels. Those who wish accommodations reserved for them should write to Mr. K. Shimo, 2nd Middle School, Kyoto, or to Mr. M. D. Dunning, stating the kind of hotel preferred. In this connection your attention is called to the enclosed slip regarding rates.

Hoping to see you in Kyoto,

We remain, dear Sir,

Faithfully yours,

HONORARY PRESIDENT,

M. KUHARA, Imperial University, Kyoto,

HONORARY VICE-PRESIDENTS,

S. SAKAI, 3rd Higher School, Kyoto,

T. HARADA, Dōshisha University, Kyoto,

T. HOJO, Higher Normal College, Hiroshima,
A. KATO, Higher Commercial School, Osaka,
N. KANEDA, Kitano Middle School, Osaka,
T. MIZUSHIMA, Higher Commercial School,
Kobe,

S. MORI, 1st Middle School, Kyoto,

K. NOMURA, Wakayama Middle School,
Wakayama,

K. TSURAZAKI, 1st Middle School, Kobe.

ORGANIZING COMMITTEE,

ROY SMITH (Chairman), Higher Commercial
School, Kobe,

K. S. BEAM, Middle School, Iwakuni,

FRANK CARY, Kitano Middle School, Osaka,

C. G. DITTMER, Higher Commercial School,
Osaka,

M. D. DUNNING, Dōshisha University Kyoto,

G. M. FISHER, Tokyo,

S. KANAI, 1st Middle School, Kobe,

S. KOKUBO, Higher Commercial School, Kobe,

P. A. SMITH, Tsu, Ise,

S. SUGAI, 2nd Middle School, Kobe,

W. E. L. SWEET, Higher Normal School, Tokyo,

G. E. TRUEMAN, Nagasaki.

(Detach, fill up and send in not later than
March 31st).

1913.

PROF. T. IIZUKA,

Doshisha, Kyoto.

DEAR SIR,

In reply to the letters of March 12th and 22nd from President Kuhara and others regarding the English Teachers' Conference, to be held at the 1st Middle School in Kyoto, April 3rd, 4th and 5th I am pleased to say that the following gentlemen from my school expect, unless detained by some unforeseen reason, to be present:—

Name.

Position in School.

Faithfully yours,

The English Teachers' Conference.

April 3rd, 4th, & 5th, 1913.

FIRST MIDDLE SCHOOL,

KYOTO.

PROGRAMME.

(SUBJECT TO CHANGE.)

April 3rd, Thursday Afternoon.

1:30—2:10—Opening Remarks by Chairman of Organizing Committee—ROY SMITH, Kobe
Higher Commercial School.

Opening Address by Honorary President

—Dr. M. KUHARA, President Kyoto
Imperial University.

2:10—4:30—Means Whereby the Japanese Teacher may Improve his Knowledge of Colloquial English and that of his Students:—

(a) By Association with Foreigners—Mr.
ISHIGURO, 2nd Middle School, Kobe.

(b) Without Foreigners—Mr. S. SUGAI, 2nd
Middle School, Kobe.

- (c) From a Foreigner's Point of View—Prof. FRANK MÜLLER, Tokyo (Formerly of Kobe Higher Commercial School).
OPEN DISCUSSION.

April 3rd, Thursday Evening.

7:00—8:00—The Place of Translation in Teaching English in Middle Schools:—

- (a) A Paper—By the English Teachers of the 1st Middle School, Kyoto—Read by Director S. MORI.
(b) Prof. S. KOKUBO, Kobe Higher Commercial School.

OPEN DISCUSSION.

8:00—9:00—The Auxiliary Methods of Teaching English—Prof. K. KUMAMOTO, Peers' School, Tokyo.

OPEN DISCUSSION.

April 4th, Friday Morning.

9:00—11:15—The Teaching of Composition:—

- (a) Methods Employable by Japanese Teachers—Prof. C. NAKAMURA, Osaka Higher Commercial School.
(b) Methods Employable by Foreign Teachers—Prof. W. E. S. SWEET, Tokyo Higher Normal School.
(c) A Communication from Miss A. C. HARTSHORN dealing with the Methods Employed at the Joshi Eigaku Jiku.

OPEN DISCUSSION.

11:15—12:00—The Teaching of Conversation:—

- (a) The Use of Pictures, Current Events and Stories in Teaching Conversation—Rev. G. W. RAWLINGS, Momoyama Middle School, Osaka.
(b) The Use of the "Eigograph"—Mr. EDWARD L. CLARK, Miyazaki Middle School.

April 4th, Friday Afternoon.

1:15—2:15—The Value of Phonetics to the Teacher—Prof. Y. OKAMURA, Tokyo Higher Normal School and Department of Education.

2:15—3:00—Means of Extending the Modern Language Learner's Vocabulary—Prof. M. D. DUNNING, Doshisha, Kyoto.

3:00—3:30—Reading—Mr. J. E. MONCRIEFF, Yamaguchi Higher Commercial School and Middle School.

OPEN DISCUSSION.

April 4th, Friday Evening.

5:30—7:30—Conference Dinner. (Club Building Imperial University.)

7:30—9:00—An Address:—The Cultural Value of Modern Language Study—Prof. BIN UEDA, Kyoto Imperial University. (This will be given in Japanese.)

April 5th, Saturday Morning.

9:00—12:00—How can the Co-operation of Foreign and Japanese Teachers be made most Efficient for the Teaching of English in Middle Schools?

- (a) Prof. S. IBARAKI, Department of Education.
(b) Mr. P. A. SMITH, Tsu (Formerly of Hiroshima Higher Normal College).
(c) Mr. K. UEDA, Fusoku Middle School, Hiroshima Higher Normal College.

OPEN DISCUSSION.

CLOSING REMARKS.

英 學 時 評

京都に於ける英語教師大會

本月三日より五日迄京都府立第一中學校に於て開催する内外英語教師大會は先月十二日及二十二日に發起者及び委員より夫々英文の案内狀を出したるが出席申込は發起者の豫測よりも遙に多く定めて盛會ならんと豫想せらる、今其案内狀及びプログラムを茲に掲ぐ

The English Teachers' Conference,
April 3rd, 4th, & 5th, 1913,
FIRST MIDDLE SCHOOL,
KYOTO.

DEAR SIR, March 22nd, 1913.

On the 12th inst. we took the liberty of announcing to you the English Teachers' Conference which is to be held at the 1st Middle School in Kyoto, April 3rd, 4th, and 5th. We now have the pleasure of calling your attention to the enclosed programme. You will join us, we feel certain, in our feeling of great satisfaction at having secured such a large number of eminent and efficient speakers. We feel confident also that the subjects to be discussed at the conference are such that they will be of intense interest and practical value to all teachers of English who attend.

You will be interested to know that the Committee has sent out invitations to all schools of "Chu Gakko" grade and above, in the entire western half of the country, comprising 29 prefectures and containing some 700 government and private schools. This together with the approval received from the Department of Education make us hope for a gathering large in numbers as well as large in its spirit of mutual helpfulness.

We again invite you to send in not later than March 31st either to Mr. S. Sugai, 2nd Middle School, Kobe or to Mr. M. D. Dunning, Karasumaru Dori, Ichijo, Kyoto any topics you would like to have discussed at the conference.

Also, let us say once more that we desire those expecting to attend to send in application to Prof. T. Iizuka, Dōshisha, Kyoto not later than March 31st.

The Kyoto committee on local arrangements have kindly offered to reserve accommodations for delegates at either foreign or Japanese hotels. Those who wish accommodations reserved for them should write to Mr. K. Shimo, 2nd Middle School, Kyoto, or to Mr. M. D. Dunning, stating the kind of hotel preferred. In this connection your attention is called to the enclosed slip regarding rates.

Hoping to see you in Kyoto,

We remain, dear Sir,

Faithfully yours,

HONORARY PRESIDENT,

M. KUHARA, Imperial University, Kyoto,

HONORARY VICE-PRESIDENTS,

S. SAKAI, 3rd Higher School, Kyoto,

T. HARADA, Dōshisha University, Kyoto,

T. HOJO, Higher Normal College, Hiroshima,
A. KATO, Higher Commercial School, Osaka,
N. KANEDA, Kitano Middle School, Osaka,
T. MIZUSHIMA, Higher Commercial School,
Kobe,
S. MORI, 1st Middle School, Kyoto,
K. NOMURA, Wakayama Middle School,
Wakayama,
K. TSURAZAKI, 1st Middle School, Kobe.
ORGANIZING COMMITTEE,
ROY SMITH (Chairman), Higher Commercial
School, Kobe,
K. S. BEAM, Middle School, Iwakuni,
FRANK CARY, Kitano Middle School, Osaka,
C. G. DITMER, Higher Commercial School,
Osaka,
M. D. DUNNING, Dōshisha University Kyoto,
G. M. FISHER, Tokyo,
S. KANAI, 1st Middle School, Kobe,
S. KOKUBO, Higher Commercial School, Kobe,
P. A. SMITH, Tsu, Ise,
S. SUGAI, 2nd Middle School, Kobe,
W. E. L. SWEET, Higher Normal School, Tokyo,
G. E. TRUEMAN, Nagasaki.

(Detach, fill up and send in not later than
March 31st).

PROF. T. IIZUKA,
Doshisha, Kyoto.

DEAR SIR,

In reply to the letters of March 12th and 22nd from President Kuhara and others regarding the English Teachers' Conference, to be held at the 1st Middle School in Kyoto, April 3rd, 4th and 5th I am pleased to say that the following gentlemen from my school expect, unless detained by some unforeseen reason, to be present:—

Name.	Position in School.
	Faithfully yours,

The English Teachers' Conference.

April 3rd, 4th, & 5th, 1913.

FIRST MIDDLE SCHOOL,
KYOTO.

PROGRAMME.

(SUBJECT TO CHANGE.)

April 3rd, Thursday Afternoon.

1:30—2:10—Opening Remarks by Chairman of Organizing Committee—ROY SMITH, Kobe Higher Commercial School.

Opening Address by Honorary President
—Dr. M. KUHARA, President Kyoto Imperial University.

2:10—4:30—Means Whereby the Japanese Teacher may Improve his Knowledge of Colloquial English and that of his Students:—

(a) By Association with Foreigners—Mr. ISHIGURO, 2nd Middle School, Kobe.

(b) Without Foreigners—Mr. S. SUGAI, 2nd Middle School, Kobe.

- (c) From a Foreigner's Point of View—Prof. FRANK MÜLLER, Tokyo (Formerly of Kobe Higher Commercial School).
OPEN DISCUSSION.

April 3rd, Thursday Evening.

7:00—8:00—The Place of Translation in Teaching English in Middle Schools:—

- (a) A Paper—By the English Teachers of the 1st Middle School, Kyoto—Read by Director S. MORI.
(b) Prof. S. KOKUBO, Kobe Higher Commercial School.

OPEN DISCUSSION.

8:00—9:00—The Auxiliary Methods of Teaching English—Prof. K. KUMAMOTO, Peers' School, Tokyo.

OPEN DISCUSSION.

April 4th, Friday Morning.

9:00—11:15—The Teaching of Composition:—

- (a) Methods Employable by Japanese Teachers—Prof. C. NAKAMURA, Osaka Higher Commercial School.
(b) Methods Employable by Foreign Teachers—Prof. W. E. S. SWEET, Tokyo Higher Normal School.
(c) A Communication from Miss A. C. HARTSHORN dealing with the Methods Employed at the Joshi Eigaku Jiku.

OPEN DISCUSSION.

11:15—12:00—The Teaching of Conversation:—

- (a) The Use of Pictures, Current Events and Stories in Teaching Conversation—Rev. G. W. RAWLINGS, Momoyama Middle School, Osaka.
(b) The Use of the "Eigograph"—Mr. EDWARD L. CLARK, Miyazaki Middle School.

April 4th, Friday Afternoon.

1:15—2:15—The Value of Phonetics to the Teacher—Prof. Y. OKAMURA, Tokyo Higher Normal School and Department of Education.

2:15—3:00—Means of Extending the Modern Language Learner's Vocabulary—Prof. M. D. DUNNING, Doshisha, Kyoto.

3:00—3:30—Reading—Mr. J. E. MONCRIEFF, Yamaguchi Higher Commercial School and Middle School.

OPEN DISCUSSION.

April 4th, Friday Evening.

5:30—7:30—Conference Dinner. (Club Building Imperial University.)

7:30—9:00—An Address:—The Cultural Value of Modern Language Study—Prof. BIN UEDA, Kyoto Imperial University. (This will be given in Japanese.)

April 5th, Saturday Morning.

9:00—12:00—How can the Co-operation of Foreign and Japanese Teachers be made most Efficient for the Teaching of English in Middle Schools?

- (a) Prof. S. IBARAKI, Department of Education.
(b) Mr. P. A. SMITH, Tsu (Formerly of Hiroshima Higher Normal College).
(c) Mr. K. UEDA, Fusoku Middle School, Hiroshima Higher Normal College.

OPEN DISCUSSION.

CLOSING REMARKS.

英語教師大會

京都に於て先頃開催したる 英語教師大會は別項南石氏の通信に其概略を掲げたるが今本誌の編輯を將に締切らんとするに臨み、京都同志社教授にて同會委員の一人たる鈴木吉満氏より各氏演説の大要を説ける 報告書を送り來りたれば特に一欄を設けて之を茲に掲ぐ (四月九日記者しるす)

英語教師大會 第一回

四月三日午後二時京都第一中學校講堂に於て久原京都帝國大學總長司會の下に開會す。來會者は東は栃木、茨木の諸縣より西は沖繩縣に至る各諸縣より集り其數大凡そ三百七十名に達せり。來會者中には久原總長、神田男爵、岡倉茨木兩視學官嘉納高等師範學校長酒井 第三高等學校長熊本學習院教授を始め高等學校程度の教授 凡そ五十名外國人側にてはスイート氏、ミラー氏ガントレット氏等四十名あり、婦人教師來會に就きては決し居らざりし爲め來會者多からず。

始めに神戸高等商業學校教授ローイ、スミス氏の開會の辭あり大要左の如し

本會は例年夏期休暇中信州輕井澤に於て外國人教師が英語教授研究法の爲過去十餘年間開催し來りしものなるが日本人教師諸氏と協力研究の 必要を感じ今回京都に於て内外人協同の英語教師大會の第一回を開くこととなし廣く英語教師諸氏の來會を求め次第なり 然るに幸にして諸氏の熱心なる贊同を得て斯かる盛大なる會合を開くを得たるは發起者一同の深く感謝する處なり希くは諸君は只に講演者の説を聞くを以て足れりとせず 諸君各自の意見を腹藏なく開陳し相互に利益し得んことを而して此の會合に於ての用語は英語とせられんことを望む。
次に久原名譽會長の演説あり大要左の如し。

英語教授は最も困難にして充分なる効果を擧ぐるには教授法の研究に待つ處甚だ多し而して之れが爲めには教師諸君の協同一致の力に待たざる可からず今同かゝる盛大なる會合の開かれしことは我國英語教育進歩の爲め慶賀に堪へざる處なり。

次に神戸市第二中學校教諭石黒氏の日本人教師の Colloquial English の知識を増進する方法(但し外國人に接せる機會ある場合)に関する講演あり大要左の如し。

外國人の教師と同僚として有する時は十分の休憩時間等を利用して常に Colloquial English の知識を増進することに注意せざる可からず外國人の側より云ふも日本人教師を通して生徒を教ふる方便利にして有益なることあり故に時々外國人の直接學生を教ふる時間を減じて日本人教師の爲めに數時間を費すは結局學校の利益となることある可し又學校に直接關係なき外國人とも出來得る限り接觸して相互の交情を温むるは最も有益なる方法なり。

次に同中學校教諭菅井氏の外國人に接する機會なき日本人の教師の Colloquial English の知識を増進する方法に就きて講演あり大要左の如し。

Colloquial English は思想交換の最も便利なる道具なり然るに學校に於ては之を用ふること少きが故に英語は實際に有りて用をなさること多し此の缺點を補ふ爲めには小説雜誌類を讀むに若かず

次に前神戸高等商業學校教授フランク、ミラー氏動議に依りて五分間の休憩後氏の同問題に對する意見を發表せり大要左の如し。

從來は英語を學ぶに當りて主として目を用ゐたれども言語發達の順序に於ても口語が文章語に先立つ如く他國語を學ぶ際にも先づ耳の練習より始むるを以て自然の順序とす、耳の練習熟すると共に舌の使用も亦自ら容易となる可し。然れども英語研究に於ても最も必用なる要素は意志の練習に在りとする人生幸福の大部は努力に在りとは近世の心理學の主張する處にして彼の遊戲の如きも畢竟障害物に打勝たんとする努力に外ならず而して英語研究に於ても斯かる障害物甚だ多く隨つて吾人の意志を練習する好機會多きことなれば、會話、讀書等に際して常に注意の集中に務む可きなり、要するに戰爭の勝敗は銃砲の良否よりも砲後の人に存する如く語學の進歩も方法よりも之を用ふる人に存することなり。

右終つて Colloquial English の修得に適當なる書籍雜誌等に関して内外人數名其の所見を發表せり最も議論の中心となりしものは「八十日間世界一週」の中等學校に於ける使用の可否如何にありしが決する處なかりき、尙某外人は近年ロンドンに於て出版されたる“Talks to the Children Series”を推薦せり。

右を以て午後の會合を終り五時散會す。

英語教師大會第二回

四月三日午後八時京都帝國大學學生集會所に於て森京都第一中學校長司會の下に開催す

始めに海軍兵學校教官田中氏の海軍兵學校に於ける英語教授法に就きて講演あり大要左の如し。

兵學校の英語教師は基礎及實用の二方面に分れ前者は日本人教師之を擔任し後者は外國人教師之に當り密接する聯絡を保たんとことを務む、本校の方針は學生に自己の

力によりて漸次に其の學力を發達せしむるにありて學生の誤謬の如きも務めて自ら發見せしむる方針を取る
次に森京都第一中學校長の英語教授に於ける譯解の位置に付きての講演あり大要左の如し

近年に於ける英語教授の方針は譯解の時間を減じて英語の實用方面に重きを置くに至りしが余は其の成績に對して大ひに疑なき能はず、一般卒業生の成績を見るに彼等は會話等に於ては多少以前の卒業生に比して進歩の跡を認むれども讀書力に付きて見れば明かに退步せるを認む、此の新方法は歐米諸國に於て自國語に密接の關係ある語學を教ふる場合には適切なる可けれど我國に於けるが如く自國語と何等の關係なき外國語を教ふる場合に於ては著しく事情の異なるものを見る況んや現今我國の中等學校に於て外國語教師の外國語の素養甚だ不充分なるに於てをや然れば余は必ずしも新方法を全然排斥するものに非らざれども遠からず從來の方法が變化せられたる形に於て復活せらる可きを信するものなり
次に同校教諭三井氏の同問題に関する講演あり大要次の如し

讀書力の養成は英語の知識の根本たる可きものにして會話作文等を人體の皮膚筋肉に喩ふれば讀書は正に骨格にもす比可きものなり、而して學生の讀書力を養成せしむる最も重要なる方法は彼等の自習を奨励するにあり、之れが爲めには採點簿を利用し各時間中成るべく多く學生に質問をなし彼等をして寸時の油斷なからしむるを要す、猶ほ學生の競争心又は名譽心を適當に利用することも必要なる手段なり。

次に東京高等師範學校附屬中學校教諭神保氏は英語教授法改良に関する所見を述べたり大要左の如し

學校に於ける教授は時間に制限あり故に學校以外にてもなし得ることは教場にはなる可く之を避け生徒の單獨にてなし得ざる方面の練習に授業時間を費す可とす假令ば文章の意義の解釋の如きは之を印刷に附して學生をして豫め各自之によりて研究せしめ教室に於ては之を基礎として耳、口、手の練習をなさしむる如き是れなり、猶ほ現時我國の學校にては書取りを重んずれども余は之れと同時に學生をして教師の言を繰返へさしむること即ち「言ひ取り」も亦必要なりと信す

之れにて豫定の講演終り慶應義塾向氏は演壇に立ちて我國英語教員の無學を痛罵し、かゝる教師に教へらるゝ學生の不幸を訴へクリスマス、キャロルの一節を引きて自ら誦讀の模範を示し更に教授法に付きては最初 Berlitz 次は Gouin, Robertson 等の方法を用ゐる猶ほ從來の方法をも參照す可きを説けり、次に學習院教授熊本氏の英語教授の補助方法に関する印刷物を配附しスキート氏の簡單なる説明ありて十時散會す。

英語教師大會第三回

四月四日午前九時半京都第一中學校講堂に於て高等師範學校教授岡倉氏司會の下に開會し、先づ大阪高等商業學校教授中村氏の英作文教授に關し講演あり大要左の如し

英作文に於ては學生の自習を奨励し且つ學生をして自己の誤謬を發見せしむる手段を執り、能ふ限り教室内に English atmosphere を作り學生をして成るべく日本語的英語を避けしめざる可からず而して英文を綴るに當りて我等日本人は文法の知識なくしては到底之をなすこと能はず、殊に高等の學生は文法的説明を要求するものなる

が故に教師は之に對して満足を得る様務めざる可からず。

次に東京高等師範學校教授スミット氏の外人の採用すべき英作文教授法に關して講演あり大略左の如し。

英作文教師は忍耐と希望を以て事に當り學生をして譯讀によりて得たる知識の活用を充分ならしめざる可からず、吾人の用ふる方法は之を大別すれば Free conversation, 和文英譯、文法實習等なるが學生の程度に應じて適切な教授を爲すこととす假令ば最初に繪畫等を、次に讀本内の物語り、最後には日常の出來事等を材料として英作文を教授することなり

次にスミット氏は東京女子英學塾に於ける英作文教授法に就きての同校よりの通信を朗讀し續て open discussion に移り第七高等學校教授シュワーツ氏は中等學校卒業生の書翰文に關する知識の缺乏を述べ、山口高等商業學校教授ガントレット氏は徹底せる知識の必要を述べ其の方法としては反覆の有益なるを説き菅井氏は Colloquial English の必要を述べ同氏は教師を教育する必要を主張して正午散會す。

英語教師大會第四回

四月四日午後一時半酒井第三高等學校長司會の下に開會す

先づ大阪桃山中學校教師ローリングス氏の會話教授に關する講演ありて各年級に適切な教授法に付きての所見を述べたり

次に宮崎中學校教師クラーク氏の發明せる「英語グラフ」使用に付きての説明より、「英語グラフ」は六角形のシリンダーの各面に互に聯絡せる出來事を表せる繪畫を畫き其の一面のみを學生の目に觸れしむる裝置にして之を順次に回轉すれば學生は一つの出來事を斷續的に目撃することを得る工夫なり、即ち此の裝置の繪畫に於けるは恰も活動寫眞の幻燈に於けるが如きものにして學生をして深き興味を以て知らず々々の間に英語に熟達せしむるものなり、事物を英語にて了解し且つ思考するは英語熟達の秘訣なれば此の裝置は學生をして此の目的を達せしむるに便なり。

次に同校教諭加藤氏は「英語グラフ」の使用の成績を發表し其の結果の顯著なるを説けり

次に岡倉氏は音聲學に關して講話し先づ其の定義を擧げ音聲學の教師に必要な所以を述べ發音機關の各人に於ける相違、字書に於ける符合の不精密等を説き猶ほ發音學に關する有益なる參考書を照會せり次に京都同志社教授ダンニンク氏は英語研究者の語彙増加の方法に關する講演あり大要左の如し

英語はアングロサクソン及びラテンの二大根源より來る前者に屬するものは多く一綴りの言語にして其の意義も簡單明瞭、且つ具體的なり、後者に屬するものは正に其の反對とす、故に最初三年間は成るべくアングロサクソンより來れる語彙を教へラテンより來れるものは其の後に至りて教ふ可し而して教授に際して出來得る限り實物を指示して思想上互に聯絡ある言語を同時に教ふるを便とす猶ほ接頭語接尾語の一般の意味を教へて之等のシムブルを有する言語を教ふれば學生は容易に多數の字彙を修得することを得べし

次に山口高等商業學校教授モンクリーフ氏の讀方教授の

方法に付き簡單なる講話ありて其後討論に移る筈なりしが狂人の妨害ありて四時過散會せり。

英語教師大會晚餐會

午後七時京都大佛ホテルに於て久原會長の司會の下に開催す、今回大會は意外の盛大にして食堂に入る能はざる會員は別室に於て晚餐を喫し、食後食堂の食卓を撤してテーブルスピーチに移る先づ神田男爵の演説あり大要左の如し
余のスピーチは元來テーブルスピーチなるにテーブルは盡く取り去られれば今やノー、テーブル、スピーチとなれり、此會合に於て幾多の舊友に會し猶ほ多くの新らなる知己を得たるを喜び、而して我等英語教育の任に當る者が互に協力一致して其の責任を全ふせんことは最も必要なることなれば本會の如きは將來永久に繼續する必要を認む而して明年の開催地は之を東京に移すを得ば吾等東京會員は出來得る限りの盡力を寄さざる可し、終りに臨みて委員諸氏の勞を謝し深く感謝の意を表す

次に海軍兵學校教官梅谷氏は諧謔に満ちたるスピーチをなし元廣島高等師範學校教授たりしビー、エー、スミス氏は雜誌 English Teachers' Magazine の由來を述べ會員の贊助を求めウチナー氏も亦同雜誌を英語教師の好伴侶として推薦し廣島高等師範學校教授荻沼氏は英語教員の多數が就任後數年にして最初の希望抱負を忘却するも一旦驕然と我れに返り感慨胸に滿つる経験を語り、英語教師の使命の唯一言語の教授に止まらずして社會文明の爲め重且つ大なる所以を論じ、名古屋高等商業學校教授原田氏は先づ明後年の本會を名古屋に於て開催せんことを求め、次に英語教授の目的は西洋文明を了解することにあることを述べ一外國語を修得するは一國を征服するに勝るとし、吾等は偉大なる精神氣概を以て此の事業に當るべし

晚餐會のテーブルスピーチは之にて終り九時半頃散會す

英語教師大會第五回

四月五日午前九時半京都第一中學校講堂に於て神田男爵司會の下に開催す

始め文部省視學官英木氏の講演あり大要左の如し

英語教授の方法は近年著しく改更せられたるが如くなれども其の結果は不充分にして高等學校入學試験に於ける英語の成績も決して良好と認め難し其の原因の一つは内外人教師の協力の不足に依るに非らざるかと思はる我國に於ては英語は過去五十年間に於て歐米文明輸入の媒介となれるものにて今後も第二の母國語たるべき性質を有せるものなれば益々其の教授法を研究し將來一層有效なる結果を收めざる可からず

次に岩國中學校教師ビーン氏は新任外國人教師の困難の主要なるものを擧げたり大略左の如し

第一は外國人教師が職員團體の一員となり難きこと、第二は日本人教師の教授の内容に關し知り得ること、第三は日本人教師が外國人教師の授業に對する希望要求を知り難きこと

次に廣島高等師範附屬中學校教諭上田氏の内外人教師の英語教授に關する協力を最も有效ならしむる方法に關する講演あり大要左の如し

外國人僱聘の必要は之を論ずるを要せざる程明かなる問題なれども單に外國人教師を有することは必ずしも有益と云を得ず相互に一致協力して始めて良好なる効果を

得可きなり假令は發音、會話を教ふるに當りても内外人個々別々に教授するよりも共に教場に在りて互に其の長所を合せて事に當るは初年級に於ては著しき効果を見るが如き之れなり

次にビー、エー、スミス氏は同問題に關して大要左の如き講演をなせり

内外人協力の根本は相互の frankness に在り假令人種を異にすと雖も其間自ら共通性を有するものなれば相互に城壁を築かざる限りは親密なる同情を維持するを得べし外人の注意す可き點は外人は英語の能力に於ては遙かに日本人に勝れども其の教授に關しては寧ろ日本人に學ばざる可からざることなり、故に教場内の共同授業に際しては豫め周到なる打合せをなし互に深く注意せざれば常に協力の實を擧げ得ざるのみならず却て他の授業の妨害となることあり

次に熊本氏は外國人教師に必要な資格に關し氏の集め得たる報告を朗讀せり大要左の如し

第一大學教育を受け近世語學を研究せしもの、第二新たに外國より來りし人にて文學及語學教授に興味を有せるもの、第三日本人教師と共同し日本學生に適切なる教授をなし得るもの、第四日本人にして外國人に代り得べきものあらば之を用ふ可きこと、第五特種の教育より寧ろ一般の廣き教育を受けたるもの、第六品行方正、寛大公平にして業務に熱心なるもの

次に岡倉氏の感話あり大要左の如し

余の希望を無遠慮に述べれば英語教授を全く日本人の手にてなし得ることなり、然れども此の如きは現今に於ては到底不可能なれば此に内外人協力の必要を生ず我等が外國人教師に對して最も望む處のものは諸氏がアンガロサクソンスピリットの好模範となり我等日本人をして此の精神に觸れしむるにあり斯かる人格の發現は之れ即ち最良のメソッドなり

之れにて講演を終り暫時休憩の後五分間演説に移り先づ向氏は學生の英語に於ける學力不足の最大原因を彼等の母國語に於ける知識の不十分に歸し漢字廢止、羅馬字採用の必要を絶叫し若し之を斷行するに至らば教師並に學生は共に無用の勞を省くを得て終にはかかる會合も開くの必要を認めざるに至る可しと論じ、宮崎中學校クラーク氏は日本人各教師と一週二十分づゝ會談して好結果を得たるを述べ、同校教師加藤氏は此の事に關する同校英語主任の所感を朗讀し、琉球中學校教師長坂氏は作文教授の一方法として上級生に日記を英文にて認めしむる利益を説き、神戸商業學校教師某氏は日本が完全に英語を話し得るは寧ろ奇蹟に等しきこととなし、誤謬を恐れて會話の機会を逸する愚を論じ猶ほ學生の教授も必ずしも教場のみに限る可からざるを説き、隈川氏は發音教授の便を示し、鹿兒島縣加治木中學校の増村氏は教授法に就きての氏の實驗を述べ始めたれども時間の制限により他日を期することとなり、滋賀縣膳所中學校教師南石氏は往時の漢學者が漢文の教授と同時に徳育に重きを置きしが如く現今の英語教師も英語教授と同時に學生の品性を發展せしめ、高尚なる理想を示して大に世界の平和、文明に貢獻せざる可からざるを説き、名古屋高等商業學校の原田氏は今回の會長及び委員の勞を述べ之に對して會員一同より感謝の意を表す可きを發議して會員一同起立して之を賛成す、終りに久原會長の昨夜委員の決議により本會を永久に繼續し明年の委員は東京會員中

より撰ぶこととなりし旨を述べ本會の會合が斯く成功に終りしを祝し猶ほ各地よりの來會者が洛陽の春色を賞して歸途に就かれんことを望みて閉會を宣したり

英 學 時 評

英語教師大会の景況

(膳所中學校教諭南石福二郎氏特別通信)

大正第二年四月三日午後一時より五日午後一時迄、京都市府立第一中學校講堂に、神田男爵を初め全國文部省直轄學校及公私立各種の中學程度以上の學校に於て英語教授に従事せる内外人三百餘名相會し、此間晝食の間も忙しき程の勢で、而も一切英語を用ひて英語教授に關する諸の問題を討議し、互に打解けて會談し、或は舊交を溫め或は新に相識り、而して始終英語の atmosphere に包まれ、或は晚餐を共にして深き印象を各自の腦裡に止めたのである。更に中等教員として言へば平素自分より以下なる生徒のみを相手にし、偏狹なる形式にのみ囚はれたる輩を同僚とせる英語教員が、開國以來初めて斯界の先輩内外人と一堂に會し、或は聴き或は述べ以て多大の感動を受け、各自の職務の上に至大の興味と使命の自覺を増したのである。更に社會及世界平和の上より言へば、此會に於ては官學私學の障壁は根底より打破せられ、忌はしき學閥的感情は一掃せられ、又日英米の三國人が同じ職務の爲に互に握手して實に世界平和の根基を築いたのである。

上の如く予は英語教師大会の景況を問はるゝ毎に、人に答へたならば以て全體を蓋ふことが出來得ると信するのである。此空前なる大會に名譽會長として戴かれたる京都帝國大學總長久原博士が始終臨席せられたるは大に一同の光榮と感ずる次第である。京都市中の各中學校の英語科教員諸君が委員として受附に會計にあらゆる方面に斡旋せられたるは深く感謝する所である。

三日の會議

會は三日午後一時を以て開かれた。會場正面には英米の國旗を交差し其上を日章旗を以て蓋ひたるは是れ三國の精神的の同盟を意味せるものならずや。久原總長は會長席にあり。發起委員長 Prof. Roy Smith は壇に登り開會を告げ、此會の由來を簡短に説明せられた。元來英語教授の任にある外人が年々夏季に輕井澤に Conference を開き來りしを此度一步擴張して邦人教師と共に此陽春の節に開くこととなつたのである。次に久原會長の開會の辭があつて直に當日の討論に移た。Chairman は Prof. R. Smith である先神戸第二中學校教諭石黒氏が「如何にして教師が自己の通俗英語 Colloquial English の智識を進め又生徒の之が知識を養ふべきか」との問題につき演説し外人と常に接近し或は共に散歩をなし或は其家庭に入りて不知不識其感化を受くることの必要を論じた。同じ學校の須貝氏が其次に起て外人に接する機なき場合には小説を讀むべしと説かれた。次に Prof. Muller は凡そ斯る問題は學ぶ者の決心如何にあり Where there is a will there is a way と説きあらゆる問題を縱横に論じて痛快を極め最後に The man behind the method の重要なことを高調せられた。夫より自由討論に移た所が Mr. Chairman を呼ぶ者此所彼所に起り中々なる熱心が燃えて見へた。須貝氏の小説論に對して米國領事某氏は、自分が嘗て小説を教へて失敗した例を語つた。即ち生徒が卑俗なる英語を平氣で使て困

つたとの事である。或者は如何なる種類のものを選ぶべきかと問ひ、Prof. Muller は夫の “Round the World in Eighty Days” を推す。或者は六ヶし過ぎると言ひ、或者は六ヶしくはなしと言ふ。Prof. Horn はそんな rubbish なものは教へてはいけぬ寧ろ新聞を教へよと説く。まだ話に大分花が咲いた。午後の討論が了たのが殆五時で、夜は七時から大學々生集會所に於て開會せられた。中學校の講堂に電燈の設備がないからである。夜は森第一中學校長が Chairman で同氏の第一中學校に於ける英語教授の實況の説明があり、更に三井同校教諭の詳細なる説明があつた。海軍兵學校教官 田中氏は同校の作文教授の實際を語られた。同夜は熊本謙二郎氏の Auxiliary Method of Teaching English という講演がある筈であつたが、丁度學習院に聖上の行幸があるので同教授は來られず、止むなく印刷したるもの數葉を配布し Prof. Sweet が簡短なる説明を加へられた。一例を言へば夫の Damon and Pythias の話は英語の讀本にも國語の讀本にも共に普通なる材料であるが、之を兩ながら印刷して生徒に與へ、同一の事實を英語にて言ひし場合と、邦語にて言ひし場合とを精密に比較せしむる等の類である。同夜の hero は慶應義塾教授向軍治氏であつた。流暢なる英語にて得意の入つ當りを試みられ、實に痛快を極めた。天下の英語教員に向て You don't know English at all. How can you teach it? と喝破し、文部省を痛罵し、教員の待遇を善くせよと説き、自ら “Christmas Carol” の一節を暗誦し斯の如く realistic に讀まざるべからずと言ひ、最後に諸君若し眞の正則なる英語教授法を知り度くば乞ふ慶應義塾に來れ予之を示さんと大氣を吐かれた。閉會に當て上京中の原田同志社長の祝電は久原總長によりて紹介せられて散會したるは十時過であつた。

四日の會議

四日は午前九時に開かれ、Chairman は高師の岡倉教授で、問題は作文教授法、講演者は大阪高商の中村長之助氏及高師の Prof. Sweet である。中村氏は高商に於ける自己の實行せる所を説明し、Prof. Sweet の講演は主に外人教師の爲すべき事に關するもので詳細綿密を極め、而も中學校の實際に觸れた適切な suggestions であつた。要する所 repetition, transcription, dictation, の三者を適當に應用するに在るのである。此大會の準備委員は豫て津田女史が Miss Hartshorne の來會を願ふて置いたのであつたが何れも來會する事の出來なかつたのは一同の遺憾とする所であつた。併し Miss Hartshorne の書簡は Prof. Sweet によりて紹介せられたから、實際同女史が來て女子英學塾の作文教授の實況を語られしと同様であつた。因に大會の喫煙室には女子英學塾の生徒の作文を添削せる Specimens が數葉掲げてあつた。會話教授法の問題が桃山中學校の Rev. Rawlings と宮崎中學校の Prof. Clark に依りて論ぜられたが何れも繪畫を用ふる方法で、殊に Prof. Clark は “Eigograph” と稱する同氏新案の教具を紹介せられた。Clark 氏の趣意は普通行はる quick translation method を排するので、Think in English といふのが主眼である。そこで英語グラフといふのは廻り燈籠の様な仕掛にて、一枚の紙は順次に六つの scenes を表はす様に出來て居る。極簡短な活動寫眞と思へば大違はない。要するに繪を以て目に印象すると同時に耳から直覺的に英語を教へ、之を口に reproduce せしむるに在るのである。

四日午後は酒井第三高等學校長の Chairman で岡倉教授の phonetics の活用に關する講演あり、次で同志社の Prof. Dunning の單語を覚える法といふ講演あり。生徒に教へる場合と、教師の研究としての場合とに分ちて、前者には Anglo-Saxon origin の平易なる語より初め上級に進むに及んで Latin origin 等の難語を教ふべしとの趣意で、夫には root と prefix 及 suffix を充分に理解せしむるの必要を説き hard という語に遭會した場合には其反對の soft を練習することの用意を注意し更に教師自身の研究の場合には常に synonymous expression を練習せよと説かれた。Prof. Dunning の演説中一人の紳士インパネスを着、大なる杖を振りつゝづかづかと會場に入り來り、挨拶もせず悠然會長席に着き、携へ來りたる風呂敷包より書物を取り出して見て居るかと思へば、驚の様な眼を會衆に放ち、一度は演説の途中に Why? などと發言したので Chairman の酒井校長は靜に注意を與へ且つ降壇を求められたが、紳士は仲々頑として動かず。其中 Prof. Dunning の講演は了りて、山口高商の Prof. Moncrieff の reading の教授に關する講演あり、之も了て Chairman が自由討論を宣すると誰か發言を求め、Chairman が之を許す間もなく、先刻の紳士は壇壇に立て Ladies and Gentlemen とやり出した。其態度と謂ひ語氣と謂ひ只事ではない、形勢不穩と見て Chairman は閉會を告げた、會衆は起つた、紳士は尙も言ひ續けて居る、遂に日本語で貴様等は旅費泥棒だと怒號しつゝ席を蹴て出て行た。後で聞けば大阪某中學の校長で同様の失策をやつて一時物議を醸した某氏であるとのことだ。中學校長位の地位に在りて色々な事情の爲發狂して時々斯る失態を爲すのだそうだが、實に氣の毒の念に堪えぬ。併し之が爲切角の期待せられた自由討論はとうとうお流れと成つた。

英語教師大會の climax は四日夜の晩餐會であつた。初め準備委員は、大學々生集會所を之に豫定して置たのであるが、出席者が豫測せられたよりも多いので、急に場所を東山の大佛ホテルに変更した。食堂は六時半に開かれたが迎も三百人の大衆は一の食堂に入り切らぬので別の室に overflow するといふ有様であつた來賓には大森京都府知事など見へて居た。食後卓を撤して一同大食堂に集つた。豫定では上田敏氏の講演がある筈であつたが、病氣の爲途に出席せられなかつた。同氏の警咳に接する事の出來なかつたのは遺憾の至である。其代り神田男爵の英語演説を久し振りにて聴くことの出來たのは實に幸であつた。神田男爵は此會が斯く成功を遂げしは全く其委員諸氏の勢に頼ると感謝の意を表せられ、尙此會が本年のみに止まらず、來年も再之を開かれんことを希望し、夫には現在の會長並に委員に其開會地及方法等を一任したと述べられた所、一同大拍手喝采を以て賛成した。次で菱沼高師教授 Rev. P. A. Smith, 原田八高教授等の演説等ありて散會したるは九時半であつた。

五日の會議

五日朝は愈最後の會である。Chairman は神田男爵である。Prof. Roy Smith は男爵を Leader & Father of English Teachers として紹介した。問題は内外人教師の協力一致の教を擧ぐる方法である。昨日迄論ぜられた問題は英語教授の専門的問題であるが、之は文部省から提出せられた問題で、何か之に對して確然たる答申をしたいとのことである。先づ英木視學官の問題の説明があつた廣島高等

師範學校では此問題を充分に研究し、且其附屬中學校に於ては疾くより之を實行して居るのである。同校の上田教諭は詳細に互りて外人教師と共に教材を研究し、互に長短相補ひて其實效を擧ぐる方法に就て語られた。Prof. K. S. Beam は外人が初めて日本の學校に教ふに當て不便を感じる點二三を擧げて注意を乞はれた。Rev. P. A. Smith は昨年迄廣島高等師範學校教師として過般歸國せし Pringle 氏と共に同校英語科の重鎮であつたのである、Prof. Smith は起た。同氏の演説は前日の Prof. Sweet の作文教授に關する演説と共に此度の大會の花であつた。其趣意は Co-operation の秘訣は frankness の一語に盡すといふにある。英人も米人も自分のみが天下を指導する者であるとの自惚を去り、又英語教授は乃公がやるのであるといふ様な慢心をやめ、どこ迄も日本人教師を主とし自分を従とし、日本人教師の定めた目的方針に自分を fit in してやらなければいけぬ。又日本人教師も打解けて相談し、共に教場に在る間は常に通譯の爲に在るにあらず、よく生徒の箇人に就き其發音を小聲にて注意する等、一緒に調和して、互に邪魔をせぬ様、又互に生徒の面前で其間違を指摘する様な事は堅く慎んでやつて貰ひたい。又外人等授業が了るや否直に包を提げて歸るでなく、少しは時間を割て教授の打合をしたり 又は邦人教師を助けて發音などに世話を焼く位は、特に夫が爲餘分の俸給を得ぬでも、やる心掛であつて欲しいと、兎に角互に打明けてやる即 frankness が何より根本であると論結された。Prof. Smith の演説の後 Chairman は五分間演説を宣した。彼方でも此方でも Chairman を呼びて、仲々盡きぬ、時はもう一時を過ぎた。例の向將軍は起て此度は You don't know your mother tongue. と罵倒した。氏は羅馬字ひろめ會の趣旨を廣告し、山川博士の論文の一節を讀で What poor Japanese! と罵つた。最後に八高の原田教授は起て、會長初め委員諸氏の勞と府立第一中學校が校舎を貸與せられし好意によりて斯くは盛なる會合を成就し得たればとて感謝の動議を提出せられた。Rev. Rawlings は次で之を賛成せられた、Chairman の質問に應じて滿場拍手して之を賛成した。斯くて三日の大會は和氣霽々たる裡に完うした。會長は起て昨夜の神田男爵の發議により、明年の大會は東京に開くこととして其時日方法等は、東京方の準備委員に於て決定の上適當の方法にて發表すべし、又今回の大會の會計決算は精算の上中外英字新聞及英語青年紙上に廣告する旨を告げた。次で會長久原總長の閉會の辭を以て爰に芽出度第一回全國英語教師大會は終を告げた。京都商業會議所の案内にて有志者は各工場を參觀することゝなつた。書き落して話が前に戻るが熊本教授は此日來會せられ、Prof. Smith の演説の後に携契問題に就き語られた。又此日嘉納東京高師校長も來會せられた。此度の大會には ladies も内外人合せて二十名程見へて居た。大會中は用語は凡て英語といふ規定であるにも拘らず、中には日本語で話した人も無いではなかつた。唯神田男爵が Chairman たる時には No Japanese が嚴守せられたのは心地が好かつた。



語叱府

●京都に於ける英語教師大會は出席者三百七十餘名の多きに達し、三日間のプログラムも先づ豫定通りに済み上々の成功であつた、是れ一に委員諸氏の周到なる斡旋盡力に賴る、其勞や深く感謝せねばならぬ、記者も出席したかつたが、何分往復日数を如何に切り詰めても五日間は要する、斯くては本誌の編輯に大缺陷を來たし、迎も發行期日の間に合はぬ、由て甚だ遺憾だが缺席した、併し記者の囑望に應じ誼友なる膳所中學校教授鈴木吉満氏からも諸氏の演説講演の大意を記せる報告書を得て三日間議事の景況を知ることが出来た是等の通信で見ると此會合は頗る有益で且つ興味の多かつたことが推察せらる、●第一此大會が直接間接に與ふるベネフィットは大したものであらう、中學校教員の如きは平日は校長や教頭のために其頭を壓へられ、世間からは餘り重く見られず、其に文部省からは恐(コソ)い視學官が時々遣つて來て、其授業法を嚴重に視察され、いつもビクビクして元氣は段々銷沈するばかり、中には厭世觀を起して神經衰弱に陥る者もある、然るに今同の大會では帝國大學總長や高等學校長など歴々の人々と同席し、又同志社大學や高等師範學校や高等商業學校などの内外教授と一堂の下に自由に談話を交へ、殊に本邦英語界の重鎮たる神田男爵を議長に戴きながら英語教授法を議するなど、中學校教員は自家の importance を自覺して何となく、肩身が廣く、自由の天地に逍遙すること、恰も池中の魚が忽ち大海に泳ぎ出したやうで、自づから我が天職の尊とすべきを自覺したに相違ない、シテ見れば此大會が獨り英語の教授に於けるのみならず中學校教員の精神に及ぼす其感化は洪大なるものと謂はればならぬ●又此大會は英語のみを用ひ、no Japanese で押し通はした一事は將來中學校教員間に Practical English の奨励となり、終に今日の英語教授法に革新を促がす動機と爲るであらう●又此大會を最も廣き意味にて言へば是れ取りも直さず日英米三國の交歡會である、或意味の萬國平和會議である、會場の入口に日英米の國旗を交叉して掲げた委員の著想は頗る其宜しきを得た、内外英語教員間の親睦が聽て國際間の親睦を増すのであれば此大會の如きは單純なる教育家の會合と其性質を異にして居る、之に到て英語教師たる者の責任は實に重大なりと言はればならぬ●今一つ我儕の欣喜に堪えぬ事は此大會に於て學閥とか官民とか云ふ如き區別の一時消滅した事である、學術研究の前には、學閥も何もあつたものでない、皆同等である、官立學校の出身だからと言つて威張られもせず、私立學校の出身だとして他に一目置くにも及ばぬ、又文部省と雖も命令的事は言へぬ、視學官と雖もコソイ顔も出來ず是れぞ大正維新の精神にかなつて居る、シテ見れば此大會の如きは大正劈頭の會議として頗る適當であつて能く新時代の精神を發揮したものである其期せずして此の如き盛會を來たしたのも偶然ではない●別項所掲の南石氏の通信に見ゆるが如く二日目の午後同志社のダンニン教授が演説中一人の紳士がインパネスを著、大なるステッキを振りながら、つかつかと會場に入り來り、何の挨拶もせず悠然として會長席に著き、驚のやうな眼を放ちて會衆を一睨し、而かもダンニン氏の演説中喙を容れて Why? と發音し、Chairman たる酒井校

長の注意し且つ降壇を求めたるにも係らず、頑乎として聽かず、後ち Chairman が自由討論を宣するに及び彼の紳士(?)が演壇に立ちて Ladies and Gentlemen とやり出した、其態度と云ひ語氣と云ひ、只事ならずと見て取りたる酒井校長が散會を宣したるに例の紳士(?)は尙ほも言ひ續けて、果ては日本語で、諸君は旅費泥棒だと怒號したるには内外人共定めて膽を潰したであらう、之が日本人同士なら内輪で済むが、外國紳士の居并ぶ席で此在態は實に恥かしい、これでも大阪邊の某中學校長だとは聞てあきれる●向軍治氏が You don't know English at all. How can you teach it? と頑ごなしに會衆を罵倒して後 Christmas Carol の中より暗誦して英語の讀み方を示し、正則の英語を學びなければ予が教ゆる慶應義塾に來て見よと呼び、其次に You don't know your mother tongue! と罵りながら、羅馬字ひろめ會の趣意を廣告し、山川博士の論文の一節を讀み下だして今度は What poor Japanese と大喝一聲罵倒したなどは愛嬌がある●是は「天下の諸君若し方向に迷はば予の處に來れ、予の占斷能く諸君の向ふ所を指示せん」と能く電車の中に見ゆる廣告とは違つて、向將軍の絶叫は之を一場の駄法螺と視てはならぬ、將軍の大言壯語は其中に深い警戒の意が寓せられて居るやうだ●此英語教員の大會は明年も亦た東京に於て開催の事に議決しとの事なるが、關東の英語教員も關西に負けぬやうに今より覺悟して然るべきである●此大會の如きは發起人諸氏に於ても固より本邦に於ける英語教授法の改善を計ると云ふ公明正大の精神より出でたのであれば其席上で述べたる内外教師の論文は之を自家の雜誌に私しするでなく、成るべく多くの人に讀ませるやう他の雜誌にも同時に發表するのが至當である、左もなくして自家の雜誌にのみ掲載し、他の雜誌は其跡で轉載しても差支なしなどと言はゞ我儕止むを得ず其精神の公明を疑はすには居られない、若し不幸にして此の如き事あらば此會合が將來永く繼續し得るかは考ふべき問題である

●諸官立學校の英語科入學試験問題は先年一時極 simple であつたが兩三年前より又々其程度が高く爲つて來た、現に前號に掲げた山口及び長崎高等商業學校又本號に掲ぐる東京外國語學校の入學試験問題の如き、中には連も中學卒業生には了解の出來さうもない難文が出て居る、併し競争試験で、能く出來た者より順次採用するのであれば問題の難易の如きは別に咎むる必要もない●小石川江戸川端の故中村敬宇先生の舊邸即ち同人社の跡は今では宮城縣多額納税議員荒井泰治氏の所有に歸し、大名屋敷の如き邸宅は新築正に成り、大厦高牆四邊を壓して居る、記者は先日偶然其前を通過して端なくも同人社の昔を偲んだ、日本の文明に貢獻すること此の如く偉大なりし同人社の跡が一代富豪の掌中に落ち、其昔の像を留めぬとは何と残り惜しい事ではないか●併し新所有主の荒井氏は確に明治立志編中に掲げらるべき人物である、氏をして今日あらしめたのも亦た敬宇翁の西國立志編の感化に由りてであらう●明治十五年であつたか改進黨の興るや殆ど同時に明治協會と云へる一の政治俱樂部が設けられ、其會員は大概改進黨員及び其と同臭味の人々より成り、會長は前島密氏であつて、北島治房、故小野梓、故沼間守一、故成島柳北、矢野文雄など云ふ名士が毎回出席して天下の政を談笑の間に縱論横議したのであつた、其事務所は先頃類焼した神田仲猿樂町なる順天中學校長松見文平氏の邸であつた、而して此

協會の事務を執りし人は誰あらう荒井泰治氏であつて、月俸は確か二十圓内外だつたと思ふ、然るに荒井氏には其後臺灣に渡り彼の製糖にて今日の富を成したることは誰も知つて居る、荒井氏は明治協會に在る間故沼間氏の淺からぬ信用を得て居つた、沼間氏は人物鑑識の非常に高かつた人であつた ● ロマノフ 皇家 三百年 記念祭により特敎の恩命に與かりたる露國文豪ゴリキー氏は僥倖は之を受くるを屑しとせずと之を辭退せりと東京 朝日新聞に見へたるが、斯くてこそ其著述が世界の思潮を動かすを得るなれ ● 所謂西洋の危險思想は此の如き剛健不屈の源泉より湧き出づるのである、之を壓伏せんとするのは容易な事でない ● 危險思想と云へば徳川時代に蘭學も危險思想であつた、開國論も危險思想であつた、明治に入り民撰議院論も危險思想であつた ● 物質的歐化主義の流行は既に過去と爲り、今や將に精神的歐化主義の流行が來らんとす、近頃泰西文學の翻譯が陸續と出づるのは其争ふ可らざる兆候である、物質的歐化主義は國粹保存論で幾分か喰ひ止めたが、此精神的歐化主義は如何にして防遏べきか、國漢文學の力では到底駄目であらう ● 萬國青年會幹事モット氏は目下我邦に滞在し、過日來市内各所に於て演説中である、氏は十六年前始めて本邦に渡來して以來今回は第四回目の來遊である 同氏の雄辯と來たら有名なもので演壇に立つや、猛將の三軍を叱咤する如く短い句で其中に無量の力を含ませ、其 gesture が又一種特別であつて、双手を力士が今や敵手と取組まんとするが如く左手を胸の邊まで高め、右手は其よりも少しく高めて居る處、恰も二王尊の手附の如く、窺みて底光りする眼は巖下の電光に似て、絶えず聽衆を見廻はしながら一聲は一聲より高く、終にマキシム機關砲を連發する如く疊みかけて警句を發す、聽く者は如何なる無神經でも振起せずには居られない、記者の傍聽した時は青山學院教授小畑久五郎氏が通譯したが、此人の通譯が又た達者なもので、モット氏の言ひ終はるや否や直ちに之を通譯すること猶ほ響の聲に應ずるが如く、若し通譯を一の技術とせば小畑氏の如きは其妙諦に達したのであらう、先づ日本で Dr. Mott の best interpreters と云へば石川林四郎氏と小畑氏より外にない ● 記者先日野州に遊び栃木町の大平山に登つたが眺望の恢濶なること、關八州を眼下に見て遙か南方には利根川が銀を流がした如くに岡陵起伏の間に曲折し、舊兩毛線の汽車は玩具の如くに田疇を走つて居つた ● 山上に大平神社ありて其傍に文章神社と號する小祠ありて人が机に向て書き物をして居る小さき額が奉納されて居る、餘りに祠が小さいので、こんな神に願を懸けたつて、文章が上達すると思はれない、此神の來歴は聞き漏らしたが、兎に角文章神社とは面白い ● 三月二十九日午後六時より築地精養軒に於て東京英語會の第百二十七回の會合を催はしたるが、當日は彼の有名な工學博士高峰讓吉氏を招待し、神田男爵の紹介ありて後同博士には英語にて一場の挨拶あり、東洋汽船會社々員某氏には南米各國の風景や日本移民地の寫眞など幻燈に寫し、志賀重昂氏其傍より一々英語にて説明し、有益なる會合であつた ● 今年は官立私立の高等程度の學校より中學校女學校の入學者が例年より三割又は一割方少ない、これも生活難のためであらうとの事であるが、今國民英學會は如何にと云ふに午前夜學とも初學者の入學は例年と少しも異なる所がなく、初等科の如きは殆ど議員の姿である、これを見ても英語の必用なる事は社會一般に認られて居るらしい

英語演説の評

フランク、ミュラー氏

ON ENGLISH SPEAKING AT CONFERENCES OF TEACHERS OF ENGLISH.

By Frank Muller.

I have been asked so often to express an opinion on the above subject, and it seems to be one that ought to be discussed, so I take the difficult and often thankless task of a critic. Let me disarm criticism in the beginning by saying that I myself have tried to speak in a tongue foreign to me and that therefore I am forever prevented from harshly criticising those who speak in public in a foreign language. The purpose of my criticism is to encourage teachers to speak in English and to help them in their efforts.

The English speaking at the Conference in Kyoto, —which I may take as a starting point,—consisted of the reading of papers and of speeches made without manuscript, some of the latter being extemporaneous while others were the result of preparation.

As to the papers that were read, there was no difficulty whatever in understanding any of them, although it is always harder to follow a paper that is read, than it is to listen to a speech for which the speaker has made careful preparation. Many of the papers were too long, and I should say that, in general, no paper should take longer than 25 minutes to read. If more time be needed to complete the treatment of the subject the audience would be quite satisfied with brief mention of the remaining points. There are limits to one's power of attention, and the reader is unable to lighten up the task of hearing as the speaker can do.

Nearly all the leaders in the discussions read their papers, even the foreigners did so as far as I heard. For Japanese speakers certainly this is the better course, but as for myself I have never been able to read a paper either in my mother tongue or in a foreign language. I admired, however, the skill with which the foreign speakers that I heard combined the excellencies of a speech and a paper. Even though one has to forsake the paper when he stands upon the platform, yet all ought to be carefully thought out beforehand. In the case of using a foreign language it is well to write the speech in order to insure having careful preparation.

There is a half-way house between reading and speaking, and that is to read the more exact parts of the lecture and to speak freely in giving illustrations and explanations. One speaker followed this method effectively, but it is a difficult undertaking.

Coming now to the matter of speaking proper, there was unfortunately but little time for informal discussion after the papers on the program had been

presented. This time was shortened still more by calling on two or three speakers to make extra speeches. In the discussion, speeches were limited to ten minutes in length, but it seems to me it would be well to make the limit five minutes. The speeches made after the set papers were either upon some of the topics just discussed, or upon some subject of great importance to the speaker. Speeches of the latter kind were naturally more common, and the speakers therefore had their speeches either well in mind or on paper.

In so called extemporaneous speeches there are three precepts which are commonly stated in the terse maxim: "Have something to say, say it and quit." The great thing is to have something to say, and something that *must* be said. When some idea possesses a speaker his hearers are carried along by his enthusiasm and they pay little attention to words, for they too are becoming possessed by the idea. I recall three speeches of this nature, two were on the duties of the teacher as a spiritual leader, and the other on the less inspiring subject of phonetics, showing that a dry subject may be lightened up by the enthusiasm of the speaker. It is a joy and a privilege to be carried onward and upward on the wings of another man's enthusiasm.

The speeches that tire and wear one out are those in which the speaker apparently follows the maxim, "Have nothing to say, say it and keep on." But we must remember that some speeches fail because the hearers are not in the proper condition to hear. At the end of a three hours session a speech must be thrice as good as one presented at the beginning of the session, in order to appear of equal value. Moreover a speaker is not always up to mark. A clock that strikes twelve must sometimes strike but one. A speaker of great experience told me that it is a sign either of illness or of old age when one cannot bring a speech to a close at the proper time.

The speeches most difficult to make in a foreign language are those in which one has to say something about nothing, and to make one of those after dinner speeches which may be either so charming or so very, very tiresome. It is dangerous for a man to stand on his feet trusting to the inspiration of the moment to enable him to avoid chagrin to himself and pain to his hearers. Once such a speech is begun it becomes harder and harder to stop, the speaker hoping against hope that something will arise to enable him to cover up his defeat. But I myself am wandering from the subject I set.

One speaker at the Conference said that we ought never to be afraid of speaking in broken English, and he said that he would give an example of one who was not held back by such a fear. This advice is often given and while it is designed to carry one clear of the Scylla of timidity, it may wreck one on the Charybdis of carelessness. I should say, Never fear to use broken English when there can be no time for preparation, but always fear to do so when

you might have prepared to express yourself in good English. For example, in a discussion one may well speak on the spur of the moment on a single point that seems of importance even though one's language be none of the best. But one has no right to take up the time of the audience by inflicting on it a long speech in broken English. A speech ten minutes in length made in vain before an audience of three hundred means a loss of no less than fifty precious hours, or a week of working days. The very thought is an appalling one, and doubtless it appals the speaker who has failed far more than any one of the hearers.

I dwell thus upon the dangers in order to show that they may easily be avoided. There is never any compelling necessity for one to make a *long* extemporaneous speech in a foreign language. If such necessity should arise the audience, recognising the necessity, would be lenient in its judgment, while, as for the speaker, necessity would be for him the mother of invention.

* * * * *

The above notes were made immediately after the Conference of last year, and left unfinished. I send them out now in their incomplete state, hoping that they will stimulate others at the coming Conference to consider, and afterwards to discuss, this important matter of speaking in public in a foreign tongue.

第一回 英語教員會議の評

是れ前神戸高等商業學校教授フランク・ミュラー氏の原文を意譯したるものにして其原文は別項に掲ぐ

同會議に於ける英語演説の批評

私は如上の問題に於て卑見を發表するやうにと從來屢々請求された、此問題は研究せればならぬ問題のやうに思はれます、それで今私は批評家たるの困難であり且つ難有く思はれない仕事を自から引受くることにいたしました、併し私も現に日本語と云ふ外國語で公衆に對ひ演説を試みたこともありますから、英語と云ふ外國語で矢張公衆の前で演説した人々を酷評するに忍びない、そんな酷評を試みることは永久私には出来ない、先づ此事を一言して置きますこの批評は其目的とする所、英語を以て話すやう教師を獎勵し、又た此努力に就て教師に一臂の力を貸さんとするのであります

昨年京都に於て催はされた英語教員大會に於て爲された英語演説——私はこれを私の批評の出發點といたします——は文章の朗讀と草稿なしの演説とより成り立ち、其草稿なしの演説は即席のもあり、又た前以て準備したのもありました

朗讀した文章は之を聽て居つて何れも其意味を理解するに別段困難もなかつた、併し演説者が豫め鄭重に準備をして述べたる演説よりも、朗讀の方が却て聽て居て其意味を解するに困難なものである、其朗讀した文章は餘りに長が過ぎるものが多かつた、此種の文章は朗讀するに二十五分

以上を要してはならぬと思ひます、若し全文を読み盡くすにモット多くの時間が取れる必要あらば残る部分は之を略して唯だ其大要を摘んで述べたところで讀者は全く満足するだらうと思はれます、何となれば人間の注意力には制限があります、演説であつたら聴者を倦ましめないやうにする工夫もありまするが文章の朗讀と來てはそれが困難であります

討論に於ては重立ちたる人々は大概皆其文章を朗讀しました、又私の聴聞した所では外國人でも同様であつた、此方針は日本人に取ては確に得策でありませうが、併し私としては母語にせよ外國語にせよ、文章にしたものを朗讀すると云ふことは決して出来ませぬ併し私の靜聽するを得た外國人の演説者が文章の妙と演説の妙とを二つながら兼備して巧妙に讀んだ其腕前には敬服しました、文章を用意して演壇に立ち、其文章を見ずして話さればならぬ時でも、其趣向は前以て入念に考へればならぬ、それを使用する場合に、假令文章を朗讀せなくとも、先づ演説の草稿を作り、論旨の前後しないやうに心懸けるのが肝要である、茲に朗讀と演説との折衷法がある、それは講演の詳細なる部分は草稿を讀み、例證や説明は自由に述べ立つることである、昨年の大會に於て此方法を採用したる演説者が一人あつた、併しこれは一の困難事でありませう

是より純粹の英語演説に就て言はん、プログラムに在る文章が朗讀されて後、自由討論の時間が不幸にして甚だ僅少であつた、大抵朗讀のために其時間を奪はれたのは遺憾であつた、加之座長に促されて番外の文章を朗讀した人々が二人あつたので尙更時間が少なく爲つた、討論に於ては一人の演説が、十分間に限られたが併し私は五分間で十分だと考へる、文章の朗讀後にありたる演説は丁度研究せられたる問題の或物に關するか、否らざれば演説者の自から重大なりと考ふる或る問題に就てであつた、後者の演説は自然に問題が普通の問題であつたから能く熟考し又は能く文に作りたるものであつた、

所謂即席演説に至りては茲に三個條の心得がある、其三個條は(一)何か言ふべき事を持て、(二)其を言へ、(三)言つてしまつたら演壇を去れ、と云ふ此三個條の格言にて普通言ひ盡されて居る、演説者が何か言ひたい事があらば我が熱心に乘じて自然に話が出て言語には餘り注意せぬ、何となれば餘りに其思想に心を奪はれるからである、昨年の大會に於て私は此種の演説を三つ聽いた、其の二つは靈的嚮導者たるべき教員の義務を論したる演説であつて、他の一つはそれほどのインスピレーションなきフォネチクスに關する即席演説であつた、こんな無味乾燥な問題でも演説者の熱心に由りて引立つことの出来ると云ふことを示した、熱心なる人の演説を聴聞し自分も覺えず知らず、其熱心に釣ひ込まれると云ふことは愉快でもあり、又た特權でもある

聴く人を退屈させる演説は演説者が前に述べた三個條を裏返したる格言、即ち(一)何も言ふべきものを持たぬ(二)それを言へ、(三)而してノベツ矢鱈に喋舌り立つべし、との格言(?)を守りて述べるらしい人々の演説である、併し我々の記憶せればならぬことは演説に依りて之を傍聽する人々が既に退屈したる時、折角の演説も其效力なくして失敗に歸することがある、三時間の後に述べる演説は開會の劈頭に述べる演説よりも三倍好くなければ聴衆の注意を惹くことが出来ない、且つ其上に肝腎な演説者も常に

に卓越して居ると云ふわけには行かぬ、人が退屈して居れば時間の経つのも待ち遠しいものである、此道に懸けて大なる経験ある演説者が私に語つて言ふには、人が其演説を適當な時に完結し得ることあらば、これ其人が病氣であるか、又は老衰して居る兆候だと言ひました

外國語で述べる演説の内最も困難なる演説は何でもない事に就て何か言はねばならない演説である、食後演説を一つ述べねばならない場合である、此食後演説は頗る面白いものであるか、左もなくば至て面白くなくして人を倦ましめるものに極まつて居る、斯かる場合に於て人が一時のハヅミに乘じ、話して居る内には何か靈感に觸るゝこともあるだらうと頼みなき事を頼みて不用意に起立し、それ自分には瘡癥を起し、他人には苦痛を與へずして終はると云ふことは困難である、故に此の如き不用意な演説を試むると云ふことは危険である、一度此の如き演説が始めらるゝと、それを止めると云ふことは益々六つかしくなり、其演説者は自家の失敗を蔽ひ隠さんとして何か機會の生じ來らんことを望み、ノベツに詰まらない事をしやべり立て、何時(イツ)其演説に結末の附くことやら、夫子自からも之を知らず、他人は尙更之を知らない、此の如き演説は寧ろ最初よりせぬ方が宜い、併しこれは本問題には關係のない脱線である

昨年の大會に於て一人の演説者の言ふには、我々はプロークン、イングリッシュでも決して遠慮するに及ばぬと言はれた、而して其人は請ふ槐より始めよ、早速自から其模範を示されたが、此忠告は屢々我々の耳にする所であるが、併し一方で臆病を排斥すると同時に、他方で不注意と云ふことを警戒しないと頗だ事に爲る、私は斯く言ひませう、「準備時間の無きときは、プロークン、イングリッシュでも差支ないから、決して之を用ゆることを憚かる勿れ、併し立派な英語で我が思想を發表し得る準備が出来らば、プロークン、イングリッシュは常に遠慮して然るべし」と、例せば茲に一場の討議がありとせんに、自分の重大なりと考ふる點があらば、假令其英語は善良なる英語で無くとも、其人は一時の熱心に乘じて述べ立てゝも差支ない、併しプロークン、イングリッシュを振り廻はして聴衆の貴重なる時間を獨占し、聴衆に苦痛を與へながら喋々として立つる權利はない、十分間の無益な演説を三百人の聴衆に向て爲すとせば、之を一人々々に割り當てて見れば五十の貴重なる時間、即ち日曜を除いて一週間の損失と爲る勘定である、チヨツと考へても驚くべきではないか、其驚くのは聴衆の誰よりも先づ第一に失敗した演説者其人であらう

私は此の如くプロークン、イングリッシュにて不用意に語るの危険を長々と述べた、之を喋々するのは其危険の容易く避け得べきことを示さんがためである、何も外國語にて冗長な即席演説を爲さればならぬと云ふ必要は決して無い、萬一斯様な必要が起らば、其時こそ聴衆は其必要を認め、寛大を以て其を遇するであらう、又た必要は工夫を生むの母なりで、斯かる必要の下に話さればならぬ演説者は當意即妙の才を發揮し得るであらう

以上の批評は昨年の大會の後直ちに私の認めたのであります、尤も未定稿ではあれど、近日開かれんとする大會に於て此重大なる問題、即ち公衆の前に外國語を以て演説すると云ふ、此重大なる問題を考究し、其後之を討議するに方り、幾分か参考にも爲らんかと思ひて不完全ながら、茲

に之を發表する次第であります

〔記者云く、此譯文は特に印刷に附せんとする間際に着皇翻譯し否な寧ろ意譯したるものであれば、或は原文の意味を誤まりたる所あるやも計り難し、讀者請ふ之を恕せよ〕

語 叱 府

● 第二回英語教員大會も彌々明日より開かれんとす、時は維れ陽春清和の候、櫻花爛漫として都は春の錦繡を飾り、殊に大正博覽會も開かれ、政界の騷擾も漸く収まりて人心自づから長閑なるの時に方り、内外の英語教員が一堂に會して各々其意見を開陳し、斯學教授法の改良進歩を計らんとす、寔に賀すべき事である、五日間の開期短しと雖も、此會議にはりホテル事件もなく、海軍收賄事件も起らず、内閣不信任の決議案も出でず、議會の停會もなく、内閣總辭職の幕も無ければ、進行博士の盡力なくとも、議事討論は和氣霽々の裡にズン々と埒どり、豫定通りの好結果を收め得るならんと信ず、● 唯願はくば此會議は開期の短き事なれば、貴重なる時間を我物顔に壟斷し、長談議をせぬやうにありたし、成るべく多くの人に其意見を吐露するの機會を與へたきものなり、聞けば昨年の會議の如きは、何か分からぬ英語にて長々と述べ立て、其ために他人に大迷惑を懸け、中には春の陽氣に誘はれて坐睡する者も少からずあつたとの事であるが、それでは折角の名論卓説も何の甲斐がない、“Brevity is the soul of wit”の格言を守りて、唯だ要を摘んで簡単に述べてもらひたい、

● 東大文科大學英文學講師たる文學士齋藤勇氏と醫科大學教授醫學博士河本重次郎氏の二女女子嬢との結婚式は先月二十一日午後五時より富士見教會に於て舉行せられた、新郎新婦とも同教會に屬し、何れも信仰の篤き基督信者である、目出たく合盒の式が了つて富士見軒に於て披露の宴が開かれた、來賓の數、約百五十名、其中には濱尾男爵、加藤弘之男、貴族院議員久保田議氏、文科大學長上田萬年氏、ロレンス博士、醫學博士岡田和一郎氏、牧師植村正久氏、フランク、ミユラー氏など、又婦人側には濱尾男爵夫人加藤男爵夫人、山縣伊三郎氏夫人、三宅花園女史、ロレンス夫人など見へたり、● 席上植村牧師、ロレンス博士、上田博士、濱尾男爵、加藤老博士の祝詞あり、植村氏にはアラウニグ女史の詩句を引用し、ロレンス博士は詩人モーアの詩句やバンヤンの天路歷程中の一句を引用し、結婚はLiberal educationの卒業と同じく、言はゞ人生の卒業であると云つて祝はれた、上田博士には齋藤氏が仙臺の高等學校時代から大學時代まで學術優等、品行方正で人格の高潔なる學生であつた事を挙げ、又宗教の上に於ても常に深き

第二回 英語教員大會執行順序

THE SECOND ENGLISH TEACHERS' CONFERENCE

April 2nd, 3rd, 4th, 6th and 7th, 1914
HIGHER COMMERCIAL SCHOOL
TOKYO

N.B.—The Meetings on *Monday, April 6th*, will be held at the *Tokyo Higher Normal School, Koishikawa*.

PROGRAMME

(SUBJECT TO CHANGE)

April 2nd, Thursday Afternoon

1.30-3.00—Opening Remarks by Chairman of Organising Committee—Baron N. KANDA, Tokyo Higher Commercial School.

Opening Addresses by—Baron D. KIKUCHI, Honorary President; Dr. J. KANO, Tokyo Higher Normal School.

3.00-4.00—The Cultural Value of Modern Language Study—Prof. J. LAWRENCE, Tokyo Imperial University.

April 2nd, Thursday Evening

6.30-8.30—The Teaching of Grammar.

(a) Mr. S. SAGAWA, Seisoku Eigo Gakko, Tokyo.

(b) Mr. R. YOKOCHI, Tokyo-fu Fourth Middle School.

OPEN DISCUSSION.

April 3rd, Friday Morning

9.00-11.30—How the Teacher of English may improve himself and how he may be aided in doing this.

(a) Prof. G. MUKO, Keio Gijiku, Tokyo.

(b) Prof. P. L. GERHARD, Tōhoku Gakuin, Sendai.

OPEN DISCUSSION.

April 3rd, Friday Evening

6.00 —Conference Dinner.

April 4th, Saturday Morning

9.00-11.30—How to arouse a deeper interest in the Study of English on the part of Pupils.

(a) Prof. S. IBARAKI, Department of Education.

(b) Prof. S. KIMURA, Higher Commercial School, Yamaguchi.

(c) Prof. J. T. SWIFT, Tokyo Imperial University and Higher Normal School.

OPEN DISCUSSION.

April 4th, Saturday Afternoon

2.00 —Garden Party.

THE MEETINGS ON MONDAY, APRIL 6TH,

WILL BE HELD AT

THE TOKYO HIGHER NORMAL SCHOOL

April 6th, Monday Morning

8.00-11.00—The Teaching of Translation (in Japanese).

(a) Prof. Y. MURATA, The First Higher School, Tokyo.

(b) Mr. Y. HASEGAWA, Kaisei Middle School, Tokyo.

OPEN DISCUSSION.

8.30-11.00—The Teaching of Composition and Conversation in the Fourth and Fifth Year Classes (in English).

(a) Prof. M. D. DUNNING, Dōshisha, Kyoto.

(b) Prof. H. L. FARDEL, The First Middle School, Kōchi.

OPEN DISCUSSION.

11.00-12.30—Joint Business Session.

April 6th, Monday Afternoon

1.30-3.30—First Year Work.

(a) Mr. K. JIMBO, Fuzoku Middle School, Tokyo Higher Normal School.

(b) Miss A. C. HARTSHORNE, Joshi Eigaku Jiku, Tokyo.

OPEN DISCUSSION.

3.30-4.00—The Classification of Pupils in the Tokyo-fu Third Middle School—Mr. Y. KINOSHITA, Tokyo-fu Third Middle School.

April 6th, Monday Evening

6.00 —Illustrated Lecture on English Life—Prof. H. H. WALLER, The Fifth Higher School, Kumamoto.

Musical Items, Recitations, Dialogues, etc. by Pupils of Tokyo Middle Schools.

April 7th, Tuesday Morning

9.00-9.30—The Gymnasialseminar—Prof. A. HAHN, The Eighth Higher School, Nagoya.

9.30-11.00—What the Higher Schools require of Middle School Graduates.

(a) Prof. S. OKADA, The First Higher School, Tokyo.

(b) Mr. I. NODA, Principal of Shibata Middle School, Echigo.

OPEN DISCUSSION.

April 7th, Tuesday Afternoon

1.30-4.00—OPEN MEETING.

- (a) Prof. H. SAITO, Seisoku Eigo Gakko, Tokyo.
- (b) Prof. Y. OKAKURA, Tokyo Higher Normal School.
- (c) Prof. H. KANAZAWA, Peeresses' School, Tokyo.

N.B.—Delegates to the Conference are invited to speak (for not more than ten minutes each) on any subject connected with the teaching of English. It is recommended that those who wish to speak at this meeting should hand in their names and subjects to the Chairman at an earlier meeting.

CLOSING REMARKS.

第二回 英語教員大會

なにがし

昨年四月京都に開かれた英語教員大會が豫想外の大成功を告げたので、一部出席者の間に於ける希望が熟して公然動議となり、遂に今次の第二回大會を東京に開くことになったのである。昨年の第一回大會は會期も三日にして、時間なども随分苦しく切り詰めてあつたので、食事に出掛ける間も乏しき程であつたのが、本年は會期五日で其間には日曜を一日置き、尙其上に午後が一同と夜一同とは全く自由に明けてあつたので、地方より出席する人は是等の時間に博覧會の見物も出来れば知人を訪問することも出来得たわけである。加ふるに晩餐會あり、園遊會あり、幻燈講演ありて、大會は實に英語教授上の意見を交換し、互に相補ふの利益ありし而已ならず、また社交上、修養上、實に多大の利益を致した次第である。若し英語教員大會の例に倣つて國語科や地理歴史科でも年々斯かる會合を催すことになるならば、吾が邦教育の進歩實に驚くべきであらう。兎も角此點に於ては英語教員が吾邦教育界の魁をしたわけである。實際今日の意氣銷沈せる吾國教育界にて兎にも角にも幾分の生命を有し、幾分の自信を以て活動せるは、獨り英語教員のみであると言ふても過言ではないと信ずる。之は吾々の朝夕に取扱ふて居る英語其者の性質に因ることは言ふ迄もない。國粹論者が如何程漢學教育の復興を叫んでも、勢ひ今日の教育の中心は英語教員に来て居るのである。現に昨年及今年の英語教員大會の如き絶對的に官僚臭味を脱して學閥も無ければ官公私立の區別もない、又内外人の區別もないといふ純粹なる brotherhood に基く會合が英語科以外に催さるゝのであらうか、今日の所では疑はしいではないか。高等程度の學校の教員は中學教員の要求する所を聞き、中學教員は高等教員の希望する所を聞き、以て互に相輔け、外國人は内國人の希望や困難を聞きては其教授の方針を改め、内國人は外國人の要求や不便を聞きては更に方法を繕へ、斯くて協同一致といふことが着着成就さるゝのである。若し夫れ田舎教員が斯界の先輩に接し數日間を English atmosphere の裡に暮らすの利益に至りては、之は大會の副産物ではあるが、夫の講習會などの數等上である。

第一日の會議

開休休憩。大會は四月二日(木曜日)午後一時半を以て高等商業學校の講堂に開かれた、支關には委員の一人なる神保格氏が高等師範の學生數名を指圖して來會者より會費を受取りては徽章を渡して居る。控所(Waiting room)には講堂の南に位する事務所の建物の階上を之に當て、階下には丸善や教文館や其他の本屋が店を出して居る。定刻と成ると講堂は殆ど満員である。先づ神田男爵が Chairman of Organizing Committee として一場の挨拶を述べられ、満場の拍手の裡に大會の名譽會長たる菊池男爵を紹介せられた。

菊池男爵の演説

菊池男爵は莊重なる英語を以て開會の演説をせられ、英語と日本語との語學上根本的相異に基く發音上其他種々の困難を擧げ、文法の教授、學級の編制、外國人教師との

提携法、英語教授の目的等根本的大問題を指示して列席教員の熱心なる考究を求められた。續て東京高等師範學校長嘉納治五郎氏の演説があつて後、菊池會長の紹介にて東京文科大学の Prof. Lawrence の The Cultural Value of Modern Language Study と題する最有益なる演説があつた。

ロレンス博士の演説

先づ各國語に存する特殊の idiom を論じて其教育上の價値に及び、言語學上、文學上、又實用上に互りて詳細なる研究の方法を述べ、終に語學が之を使用する國民思想の上に及ぼす感化を論ぜられた。博士の該博なる reference や quotations は非常な價値のものであつた。何れ Teacher's Magazine に全文が掲載されるのであらう。是非共さうあるべきものである。一時限りの演説としてはあまりに貴重である。夫にしても英語教員は今後少く共獨佛の語に遜ずると言ふては大き過ぎるだらうが、博士の reference を充分に appreciate し得るゝ位の素養は是非無くてはならぬと思ふ。菊池會長の動議にて一同 Lawrence 博士に感謝を表して散會した。

第一日の夜

此日の夜の會議は高杉瀧藏氏の司會にて佐川横地兩氏の演説あり、もつとも兩氏とも演説草稿は用意して居られた、佐川氏は英語教授に文法の必要なるを説き、種々の文例を示し、又時々滑稽話を交へて熱心に説き、上出來のレクチュアであつた。横地氏は文法教授の必要を認むること佐川氏と同じであるが、併し同氏は從來我邦に行はれたる如き文法教授を不可なりとし、文法は形式に陥らず、克く其實際的の練習に重きを置き、理解し難くして混同し易き術語の如きも可成避け、其教授に當ても先づ rule を授けて example を示し練習を行ふといふ、演繹的方法是は不可なりと爲し、宜しく先づ練習問題を授けて其中より rule を抽出するといふ、所謂歸納的方法の遂に教育的なることを論ぜられた。同氏のレクチュアは佐川氏のに比較して簡短であつたが、性來美聲なるが上に發音最も正しく、兩氏の此演説は此夜の雙璧として好評噴々であつた。續て京都府立第一中學校の三井氏が自己の學校に於ける實況を述べられたきりで當夜は發言者至て少かつた。最後に鶴見某氏の演説があつた、同氏の考案に爲る英語々原表は最 elaborate なもので、控所の壁に掲げて一般の興味を惹いた。

第二日の會議

三日の朝は昨年大會の勇將向軍治氏の名が programme にあるので尠からぬ興味を起した。當日の問題は教員の修養法如何といふのであつて、立教大學の元田作之進氏が紹介せられた、向氏の論旨は昨年的大會に述べられた所を少しく順序よく纏めたものである、向氏の向氏たる特色は free off-hand speech に顯はるゝので、同氏が草稿を手にして朗讀さるゝ時には同氏の勢は半減されたやうな感があつた、妄評多罪。

Professor Gerhard の演説

次で仙臺東北學院の Prof. Gerhard 氏の演説は最も綿密に教師の修養問題を論じて餘蘊なく、加ふるに其明晰なる英語は實に力あるものであつた。今同大會の演説中で最價値あるものゝ一であつた事を疑はぬ。其零碎の時を利用して讀書に勉め、些少の娛樂を犠牲として自身の修養に用

ひ、圖書雑誌の類を購読するの道を suggest するなど誰も彼も承知して居る至て平凡な方法ではあるが、偕て實際誰にも實行せられ難い所である。然るに博士の多年の實驗に基く最實際的の suggestions は教員に至大の印象を與へた。要するに教師が少し I will という心掛けになつて來れば斯かる問題は解決する筈である。

東京學院の佐々木梅治氏は既に帝都にて English speaker として知られて居るのである。同氏は向氏に依つて述べられたる教員増俸問題を捉へ、私立學校の爲め訴ふる所あり。次て學習院の鈴木氏、第一高等學校の Prof. Clement 等の演説あり膳所中學校の南石氏は教師が俗務に追はるるため自然自身の修養を妨げらるゝ今日の實狀を訴へ、而も教師が日々時間を定めて朗讀の練習に捧ぐるの價値あるを高調された。同日午後は休みで唯將來に於ける大會の方法を考究すべき特別委員會が開かれたわけであつた。夜は富士見軒で晚餐會を催された。

富士見軒の晚餐會

此晚餐會の出席者 無慮二百三十名、來賓の中には東京南部の監督 Bishop Cecil、路透社電報通信員 Mr. Kennedy、ツヤパン、タイムスの頭本氏、東大理科大學長 櫻井健二博士。等が見へた食後菊池男爵が toast-master と爲りて、櫻井博士、セシル監督、ケネディ氏、頭本氏、元田作之進氏、淺田榮次氏の卓上演説あり、終て神田男爵には起つて Professor Sweet の此大會に就て多大なる盡力をせられたることを感謝し、一同拍手して之を賛し、スウィート氏は又神保格氏の一方ならず盡力したることを述べ、同氏が當止むを得ざる事故ありて缺席したることを遺憾なりと述べた、斯くて和氣藹々の裡に散會したるは十時過ぎであつた。

第三日の會議

四日(土曜日)の朝は文部省より諮問になつた如何にして生徒の英語に對する興味を喚起すべきかといふ問題を討議することになつて居る。外國語學校長村上氏の司會にて、先づ茨木督學官の説明があつて、山口高商の木村氏、鹿兒島第二中學校の渡邊氏、神戸商業の住友氏等の之に關する論文朗讀あり、唯 Prof. Swift 氏が病氣の爲出席されず、同氏の醫咳に接し得られなだのは遺憾の至であつた 要する所教師が生徒の理解力の及ばぬ様な難しい事をどしどし詰め込み、生徒は唯試験に追はれて充分に解し得ぬ事を夫れから夫れへと詰め込まれるといふ有様故 生徒が英語に對する興味は全然 murder される。今日の所 教師は興味の「殺人犯」をやつて居る。渡邊氏が各種の讀本中にある單語の統計を擧げたのは少からず會員の耳を聳たしめた。住友氏は吾は善き牧羊者なり、善き牧羊者は羊の爲に生命を捐つといふ聖書の句を引き、教師が眞に生徒の爲に牧羊者の心掛けを以てせなければならぬ事を述べられた。佐々木梅治氏は起て快辯を振ひ、日本趣味を有せざる英米にて編纂せる讀本を使用すべしと説き、生徒が Bible Class などに出席するを獎勵し盛に英語講演會の如きものを起すべしと論ぜられた。

スミス氏の演説

前廣島高等師範學校教師の P. A. Smith 氏は簡短なれども最直截に自身が廣島にて教鞭を執りし當時の經驗を語り、時に教場に joke を用ひて興味を喚起して而も毫も生徒を甘やかすといふ如き危險なきことを説かれて Don't be

afraid of being on good terms with your students. と言はれたのは慥に尊大を以て自ら居る一般教員に對して教育の一大秘訣を示したものである。Genius consists not in doing uncommon things, but in doing common things uncommonly well. と言はれたなどは面白き警句である。も一つスミス氏は教師が教場にて英語を用ふるは至極結構なれど、左も苦し相に顔をしかめて無理に英語を作ることが如何ばかり生徒をして英語に對する dislike を起さしむるかを述べて大に注意を促し、英語を教場に用ふるに當り Be natural と勧められた。

當日の問題は文部省より諮問せられたのも何とか具體的に答申せなければならぬので、夫が爲 Rev. P. A. Smith 外二三の委員は特に筆記の勞を取られた。

早稻田の園遊會

大隈伯の演説

四日の午後は大隈伯の好意に依る園遊會が伯の邸に催された。生憎の雨天で Garden Party は Parlor Party となつた、併しながら陽春四月の日に櫻と雪とを同時に觀るとは再び得難き詩的な味があつた。若し之が夜で煌々たる月光の下であつたら夫れこそ更に一段の harmony を見ることであつたらう。一同日本間に著席すると、菊池男爵の案内にて伯は臨場せられた。先づ Prof. Sweet は伯の好意によりて今日の會を開くに至りし次第を述べ、菊池男爵より伯に一場の講話を乞ひしに、伯は起て維新開國の當時より今日迄の國家發展の次第を述べ去り述べ來り、「わしも五十年前に英語を學んだこともある、又之れでも教へたこともあつたのだ」と自身が往時如何に國家の狀況を見て泰西文明に學ぶの急を感じ殊に條約改正の問題に關して苦心せるかを語られた。國家の元勳たる伯の口より直接に活ける歴史、殊に其歴史に於て伯自身が中心的 prominent part を演じた其歴史を聞いたので一方ならぬ印象を出席せし教員の腦裡に留めた。最後に伯は英語教員が克く Anglo-Saxon 文明の眞髓を捉へ之を國民の中に植へるの重大なる責任あることを勧めて結論せられた。

菊池男一同に代つて伯爵に感謝し、それより伯爵には其席を去られ、終つて一同卓を圍んで菓子咖啡の饗應を受け、有名なる温室に珍花を賞し、婦人等は是亦日本にて理想的の臺所と稱せらるゝ伯の臺所を參觀し、又蕭々たる春雨を冒かして園内を徜徉し、目白臺の好風景を賞する者もあり、身は此老偉人の高風に親炙して殆ど歸へるを忘れ、中には尙ほ嫌らずして伯の居間に押し懸け其踴躍風發の談論を傾聽する者もあつた、因に云く此日には英國大使も臨席する筈であつたのが俄な差支で止めになつたのだそうで残念の至である。

第四日の會議

六日(月曜日)は大塚なる高等師範學校に開かれた、午前には邦語の會と英語の會と二つに分けたのは本年の特例であつた。日本語の會は講堂で開かれ、譯讀の問題で成瀬仁藏氏の司會で開成中學の長谷川氏第一高等學校の村田氏の論文朗讀があつた。英語の會は階上會議室に開かれ神戸高商の Roy Smith 氏が司會した。此方の問題は四五年級に於ける會話作文の教授である、先づ高知一中の Prof. Fardel の論文朗讀あり、

Professor Dunning の 演 説

次で帝都同志社の Prof. Dunning は先づ自身の経験に基づく會話教授の三段階に就て語られた、三の段階とは最初は時間の觀念を交へず純粹なる space relation に於ける問題を以て教材となし、次には time relation を加へて現在、過去、未來の觀念を含む問題を教材とし、最後に personal relation を加へたる問題を教材とするといふ工合に各の連絡を詳述せられた。桃太郎や舌切り雀のやうな familiar tales を問題としても其中に person や tense 又 indirect quotation などの重要な文法上の教材の乏しからざるを一々指摘された。

向軍治氏は起て自分は何より先に personal relation を教ふる、元來日本語には人稱の觀念が乏しい、英語を教ふるに先づ第一に person の觀念を充分に呑込ませなくてはならぬと言はれた。會話教授に際して繪畫使用の事が問題に上つた所が

Miss Hartshorne の 演 説

Mis Hartshorne は起て繪畫よりも實物を使用する方が遙にましである。若し實物が手元になく繪畫の必要がある時には黒板を使用して繪を書いたら宜いではないか。高い金を拂て Hölzel の繪を買ひ込んで使て見た所が生徒は毎日毎日同じ繪を見せ付けられて居ては直にあきてしまふ。夫れよりか盛に黒板を利用すべしとして自ら二三の略畫を板書して示された。

英語の方の會が和氣霽然と定刻に散會した所が邦語の會の方は中々問題が盡きず、尤も開會するのも定刻より少し後れたものではあるが村田氏の論文の如き或る部分を省略するの止むなきに至さうである。佐川春永氏は座長に喰て掛り今朝開會を遅刻せしめしは誰の責任なるかと詰問するなど一寸騒ぎをやつた

今 後 の 方 針

六日午後は一時半から事務會が開かれて神田男が議長で劈頭南石氏が午前の日本語の會にて未だ討論盡きざるを以て今日午後の會の終了後引續き邦語の會を繼續するの動議を提出し向氏之に賛成して議長は採決した所が多数を以て可決した。夫より現在の大會委員を以て繼續委員となし、別に憲法を制定し、東京、仙臺、名古屋、京都、大阪、神戸、鹿児島、福岡、熊本、の諸地方より新委員を選定し、1915年に前記各地方にて地方部會を開催し中央部は之を補助する事及び1916年に全國の大會を近畿地方に開くことを満場異議なく可決した。夫れより文部省諮問案に對する大會の答申案を委員の Prof. Smith より述べられ之も逐條異議なく可決した。終て此日の討論題なる初年級の問題に移り岡倉由三郎氏の司會にて東京府第一中學校の岡田氏より市中四中學校の實狀を述詳せられ、神保氏は東京高等師範の附屬中學の實狀を語り、Miss Hartshorne の演説の後、東京府第三中學校の木下氏の同校に於ける級別法を述べ、五分間休憩の後引續き岡倉教授の司會にて邦語の會を開き、向氏、佐川氏、村田氏等の演説があつた。向氏の八つ當りは彌々峻烈を極め、佐川氏は今朝の問責云々は失言なりとて之を謝した。

六日の夜は熊本第五高等學校の Prof. Waller の幻燈を用ひて倫敦案内の講演があつて其間には青山學院、外七校の中學生の recitation, dialogue 等があつて何れも發音と

いひ intonation といひ殆ど間然する所ないと言ふてよい位流石は帝都の中學生で中々の喝采であつた。

第 五 日 の 會 議

七日は彌々最後の日である。朝は九時から淺田榮治氏の司會にて第八高等學校の Prof. Hahn の獨逸に於ける學校制度の説明よりミュンヘンの Wilhelmsgymnasium 師範學校の實況を詳述せられた。同氏は獨逸人で八高では獨逸語の教師であるさうな英語教員大會は愈々 Cosmopolitan meeting である

一 高 教 授 岡 田 氏 の 説

當日の問題は高等學校と中學校との連絡問題である。先づ高等學校側より中學校に對する希望は第一高等學校の岡田氏より述べらるゝ筈であつたのが差支りて同氏の出席なき爲同氏の草稿は Prof. Sweet によりて代讀せられた。要する所入學試験の答案などに表はれたる所に由りて、考ふるに中學校の英語教育が動もすれば皮相に流れ發音學や文法の細かな點に就ては八釜敷く議論もするが、肝心の根本的の大切な點が充分に徹底して居らぬ、動詞の conjugation などに飛でもない間違を皆やつて居る。若し夫れ spelling と言ては無茶苦茶である。字のまづいこと驚くばかりである。兎に角上滑りでなく斷片的でなく、根本的の知識をしつかり頭に入れる様にして、卓近な事が實行の出来る様にして貰ひ度いとの事である

新潟縣立新發田中學校長野田氏は中學校の英語の實狀より説き來りて最後に高等學校に於ても少し聞取會話を重じて貰ひ度い、先づ入學試験に聞取會話を試験課目の中に入れて貰ひ度い。なんぼ中學校で聞取會話に骨折つても高等學校の入學試験が今日の様では到底生徒を夫れに熱心ならしむる力はない、是非入學試験に口頭試験を採用して貰ひ度いと言はれた時には大分拍手が起つた。そこで南石氏は起て野田氏の口頭試験云々は 大分賛成もある様なれば之を大會の意見として昨日討議したる文部省の諮問案に對する答申の末項に加へんとの動議を發した所が二三賛成者あり熊本氏の不可能説あり向氏の不可能説あり石井清三郎氏の字句修正説あり、所が斯る問題が out of order なりとの意見あるかと思へば、村田氏の巡回教師の建議案や各學校に英字新聞三種を購讀せしむるの案など出でて大分混戦を來したが結局熊本氏の動議により一切を特別委員に審査せしむることとし委員として熊本、岡倉、Sweet の三氏を指名せられた。

午後の會は彌々今同の大會の大詰である、菊地男爵が司會者となり、先づ熊本氏より午前の問題を審査せし結果、高等學校入學試験に際し some oral test other than dictation を試験課目に加ふるの一條を答申に追加するの resolution を提出し、満場異議なく之を可決した。夫より齋藤秀三郎氏の論文は山田巖氏によりて代讀せられたが、これは頗る長文であつた、聞く所に依れば此論文は印刷に附して他日一同に贈呈するとの事なれば、當日の如く貴重なる時間には單に其大要を摘んで口頭で述べた方が更かつた、

津 田 女 史 の 演 説

次に津田梅子女史は起て女子の爲萬丈の氣焔を吐かれた、其の英語の流暢なことは今更喋々する迄もない、曰く女子と雖も教育事業に參與し得ぬことがあらうか、女子の職分は家事裁縫以上に出でぬものであらうか、文學の如きは最

も女子に適した仕事ではないか、忍耐といふことはこれ女子の badge ではないか、今日の中學校で五十人なんて大勢を以て一學級を作て夫れで英語の教授が完全に出來るか、夫れよりも、中學校の一二年は十五人か二十人位の小さな class にして女子の教師をして教授せしめよ、中學の生徒にも少し英文學を教へよ、テニソンやロングフェローなどの平易な詩は下級の中から能く覺へ込ませよ云々、女史の此議論は決して一場の氣焔ではない、至當な説である、中學の下級はもう少し家族的にして少く共女子を中學教師に採用する位のことは最適當なことと思ふ。夫より福井縣立大野中學校の上井氏外二三の十分演説があつて菊地男は起て閉會の挨拶をせられ先づ神田男爵以下 Organizing Committee の盡力斡旋を感謝し一同拍手して之を賛し、次に神田男は會長に對する感謝を述べ一同再び拍手して之を賛し斯くて第二回全國英語教員大會は芽出度く結了を告げた

第 二 回 英語教員大會決議

今回の英語教員大會に 文部省より諮問したる「英語に對し中學生をして尙ほ一層の興味を感じしむる方法如何」の件に付き同會の決議したる答申は次の如し、尤も此決議は特別委員に於て起艸し、之を大會に於て修正を加へずして通過したるものなり。

英文の次に加へたる邦文は記者の翻譯したるものなり

REPLIES TO THE DEPARTMENT OF EDUCATION'S QUESTIONS.

1. That greater efforts should be made by the teacher to make the class work interesting and that he should show more sympathy with the students.

一、英語の教授に興味あらしむるため教師は尙一層の奮勵を要し、且つ生徒に對し一層深き同情を抱くこと

2. That teachers should make better use of the students' natural curiosity.

二、教師は學生の自然に備へる好奇心を尙ほ一層善用することを努むること

3. That the teacher should adapt his questions better to the ability of the individual pupils without making them aware of it.

三、教師は學生の能力を詮考し、各自の學力に適應すべき疑問を發することを努むべし

4. That whatever possible competitions should be held, and prizes given to the most proficient.

四、成る可く競争を行ひ、優等者に賞品を與ふること

5. That etymological analysis of words should be taught.

五、單語を説明し、其語原上の分析を教ゆること

6. That technical grammatical terms should not be used much in first year classes.

六、初年級には文法の術語を成るべく避けて教ゆること

7. That lessons be better adapted to the ability of the students.

七、授業は學生の學力に適應するやう、尙一層心懸くべき事

8. That occasionally the students be given to study selections from newspapers and periodicals and that suitable books be adopted for sight reading.

八、時々新聞紙及び雜誌中よりの拔萃を與へて生徒に讀ましめ、又た科外讀書用として適當の書籍を採用すること

9. The poems in the readers should not be passed over.

九、讀本中に在る詩は必ず教ゆること

10. That students should be encouraged to practise letter-writing and to exchange letters.

十、勉めて英文書翰を書き又英文書簡を互に交換することを學生に奨勵すること

11. That students be encouraged to associate with foreigners and even to attend Bible-classes to improve their English.

十一、勉めて外國人と交はり、且つ英語研究のために聖書の講義に出席すべきやう學生を奨勵すること

此外に同大會は文部省に入箇條の建議を爲すことに議決したるが、其中には、漢文の授業は四年級までは延引すること、但し國語の中に含まれて居る漢文は此限りにあらず、高等學校の入學試験委員は英語の入學試験には六つかしい文法の術語を知らなく共 差支なしとの保證を與ふこと、同試験委員は入學試験に要する學力に就て中等教員と打合せすべきこと、英語は歴史及び地理の如き外の學科を通じて教ゆるべきこと、教科書の撰定には日本人の編纂せるものよりも英米兩國に於て刊行せる教科書に重きを置くこと、日本人の教師は尙一層日本語に通達すること等の要求がある

TRUTH loves open dealing.—*Shakespeare.*

WAKE not a sleeping wolf.—*Shakespeare.*

WHO often reads, will sometimes wish to write.

—*Crabbe.*

YOU may know him by his company.—*Wycherley.*

語 叱 府

● 英語教員大會、過日東京にて催はしたる第二回英語教員大會は出席者四百九十七名の多數に上り、豫期以上の大成功を収めた、是れ一は地の利を得、二は天の時を得たるに由るとは云へ、最も主なる原因は The Organizing Committee の熱心周密なる盡力に原由す、實に神田男爵、スウィート氏を首め其他委員諸氏が過去一年間の拮据勉勵は言語に盡くし難きほどにて、貴重なる時間と勞力とを此事のために犠牲にし、終に此の如き成功を収め得たること、吾人滿腔の感謝に値ひする、殊に名譽會長菊地男爵が開會の當日其得意の英語を以て有益なる一場の演説を述べられ、又富士見軒に於ける晚餐會や大隈伯邸に於ける園遊會にも出席せられたのは會員一同の深く感謝する所である、● 唯だ此大會に於て遺憾とする所は第一日を除くの外殆ど毎日曇天か否らざば雨天にて、折角の大隈伯邸園遊會も春雨のために名園を徜徉することも出來ず、興味の半ばを殺がれたのは残念であつた、併し主人伯が歡迎の辭と共に開國五十年間本邦の開化史を演説せられ アングロ、サクソン語が此西化のために最も貢獻する所多かりし所以を説き、英語教員を獎勵する所ありしは、何よりの御馳走にして、衆一同此老偉人の警咳に接することを得たるは一に此大會の賜である ● 昨年的大會には常識を失したる某中學校長の奇談ありしが、今年の大會は至極穩かであつた、唯だ六日午前の會議に於て午前八時開會の筈であつたのが、何かの手違にて二時間後れて開會することと爲り、佐川氏が之を憤りて座長に喰つて懸かりたる事と、最終の會議に於て、某氏の論文の朗讀に二時間を費やし、又某氏が當日の議題に餘り關係なき事を述べたりして、大に時間を奪はれ、肝腎な議事決議を略して其まゝ散會したのは聊か龍頭蛇尾の嫌があつた、之を除ては今回の大會は先づ無事平穩の裡に終了したのである、● 偕第一日の開會式にて菊池名譽會長の述べたる演説は先づ第一に本邦中學校に於ける英語教授の成績の一般に不満足なるを説き、それから日本人が英語を學ぶに方りて遭遇せねばならぬ幾多の困難障礙を列擧した中に、日本語には元來母音子音の區別が多からず、又其音を短かく切り取りたるが故に、隨て語音を識別する耳の能力が發達して居らぬ故英語の如く母音の澤山ある外國語を學ぶに困難であるとの説は最も適切な評であつた、此外日本人が國民的高慢や自得のために外國語の研究に餘り興味を感せず、又間違つた英語にて話し、他人の嗤笑を招きはせざるやとの恐よりして英語を話すに踟躇すること、從來使用する英語讀本が其編輯宜しきを得ずして、學生の年齢や要求に適應せざること、日本學生に適すべき教科書は物語とか、歴史とか、傳紀物などであることを述べ、それから英語と日本語の構造の相違や英語の綴方の不規則なることを説き、尙進んで中學校に於て英語教授の目的に就て論じ、從來此目的に就ては二様の相反對せる意見がある、一は主として讀書力を養成して英書を讀破し得るやうにすべしと云ふ説と、他はスピーキングに重きを置き、實用の英語力を養成せしむべしとの説であるが、同男爵の意見では斯く一方に偏せずとも、教授法に宜しきを得ば二兎を追ふて一兎も獲ずと云ふ遺憾なく、同時に二つの目的を達し得ない事

はない、要は教授法の如何に在りと言はれた、又外國人の教師に就ても男爵が先年學習院長たりし時の経験談を述べて説く所あり、最後に其英語教師たるの資格を述べなとして結論したるが、男爵の英語は既に鍛え上げたものなれば發音明析、それに態度が至極落ち着いた、條理井然、大概の會衆には其趣意が了解せられたと思ふ、●次に高等師範學校長嘉納治五郎氏登壇して明快なる英語を以て生徒は日常成るべく英語にて談話するの習慣を附けること、又た英文書翰の交換なども必要なりとの趣意を述べた●次に帝國文科大学英文學講師ロレンス博士には菊池男爵に紹介せられて登壇し、「修養上に於ける近世語學の價值」と云ふ題で演説した、さすがに博學なる博士の事なれば博引旁抄、熱心に説き去り、説き來り、先づ第一に近世語の研究が吾人の心智的活動を刺激し、注意力を鋭敏ならしむること、精神集注力を養ふことの効能あることを説き、又外國語は數個國の語を少しづつ學び、生嗟じりの知識を得た所で何の効はない、宜しく一二の外國語を深く研究して之を我物とせざるべからずと戒め、又文法に精通するの必要を高調した、●凡そ英米の大學などに行はるゝ講演は日本人が聞て何(ド)の位ひ解かるものであるか、大概の講演者は早口であるか、又は徐々と説くものであるかと未だ外國に遊ばざる人々の知らんと欲する問題であらう此問題に就て記者の感じた所を言へば、ロレンス博士の此日のレクチュアの如きは問題が問題として、英語教員には先づ解かり易い講演であつた、尤も同博士は當日餘りに熱心なる結果、少しく急(セ)き込んだ氣味があつた、餘りに能辯なるがために時々話を止めると云ふ事なく、殆どノベツに述べたと云ふ風があつた、故に始めて其演説を聞いた人々には大體の意味が解かつて、細かい點に至ては聞き漏らした人も少からずあつたと思はる、併しロレンス博士の如きは英國のlecturersの中で比較的聽て居つて分かり易い方である、英國にはまだ々々博士よりも早口のlecturersが澤山ある、日本人にしてEnglish lecturersの講演が一言一句解かつたら其人は耳に於て申分ない人であらう、併しそのやうな日本人は先づ百人に一人も無からう●富士見軒の晚餐會は恐らく此大會のプログラム中第一等の成功であつた、當日の出席者總數二百三十名にして、五百名近くの總會員にしては其半數にも満たず、多分缺席した人々は正博覽會に出懸けたのもあらう、或は西洋劇場の雛形を見んとて帝國劇場に赴いたのもあらう、或は淺草の活動寫眞を見に行つたのもあらう、色々attractionsやtemptationsの多くある帝都の事なれば、偶(タマ)に出席したる會員には西洋料理よりも其方が面白いなどと極(キ)め込んだに違ひない、深く咎むべきでもないが、併し此晚餐會は東京なればこそ得られる、外の土地では迎も得られぬ利益と感興が得られた、會場は新築の三階を之に充て、生憎當日は曇天であつたが、晴天だと西には富嶽が巍然として甲斐群山の上に聳え、西北には秩父の群嶺、眞北には日光山、又東北には筑波山を望み、靖國神社は櫻雲飄飄たる中に間近く見へ、氣象の雄大なる眞に天下の壯觀である●偕て遙か彼方の一卓を顧みれば菊地名譽會長を中央にして神田男爵、櫻井理科大學長、津田梅子、村上外國語學校長、頭本ジャパン、タイムス社長、小島憲之氏、茨木督學官、又た當夕の珍客たるChurch of Englandの東京南部監督Bishop Cecil及びロイテル通信員Mr. Kennedyが菊池男爵と相並びて着席し、ツヒそ是迄公けの席に出た事なき齋

藤秀三郎氏も珍らしく出席し、其外Professor Sweet, Miss Hartshorne, Mrs. Kitashima 其外東京の英語界に名を知られたる淑女紳士を多數見受けたり●食後菊池男爵先づ起立して一場の挨拶を述べ、toast-masterなる語が英米に於て意味の全く異なることを語りて後自からtoast-masterと爲り、先づ櫻井錠二博士に一場の食後演説を請ふた、男爵は同博士をば“He is one of the perfect English speakers in Japan”と推賞したるが、如何にも其通じ櫻井氏の英語は當夕出席した外國人間にも好評噴々たるものであつた、博士には先づ英語の研究を煙突に譬へて、現今の教授法の注入主義を排斥し、又現今の入學試験法の有害無益なるを非しり、試験官は學生を試験するよりも先づ自分の學力を自から試験すべしとの皮肉を言ひ、次に英語教員たる者の心得を説き、不平を言ふことも時に有益でありとか、帝大學生にはspeakingの出來ぬことを罵しり、語學にはpracticeやexerciseの最も必要なること、又英語にて考へ、甚しきは喧嘩も英語にてせねばならぬと言ひて満場を笑はせ、其他種々有益なる語學上のhintsを與へた●次にBishop Cecilが菊池男爵の紹介にて一場の演説をした、同監督は英國近代の大教育家たるDr. Thringの校長たりしUppingham School(中學及び高等程度の學校)に於て學び、前英國大使マクドナルド氏やチャモレー氏と同窓の友である、アヘンガム校よりオックスフォード大學に入り、嘗て同大學のNeodigate prizeを獲たことあり、これは詩學を獎勵するための賞金であつて牛津大學に於て此賞金を得ると云ふことは非常なる名譽として居る、偕セシル監督は此の如く立派な高等の教育を受けられ、殊に職掌柄として、其辯舌は實に爽やかなもので、英語が如何にも能く分かり、一言一句味ふべき意味を含み、さすがにオックスフォードの出身は違つたものと記者はツクツク感じた、同氏は先づ英國にて教育の大眼目は人物を作くるに在りて喝破し、自分がDr. Thringに就て學んだ當時の懷舊談を述べ、單にパンを儲けるためにする近世語の研究は高尚なる意味にて言ふ教育の一部分ではない、教育は徳智の發達を目的とせねばならぬ、又其恩師たるシュリング博士は殊に英語の教育上價値あるを見認めたる人にて、英語を最高なる教育の機關なりと信じて居つた事など語り、詰まり語學の名人と云ふことはCommon thingsをuncommonly wellに言ひ廻はし得るに過ぎないと説き、又文法の必要を切論したるが、但し文法の研究は文法其れ自からのためにし、又單に試験に應ずる目的を以て研究してはならぬと言つた、因に云くBishop Cecilは芝罘町なるアンドン教會に於て時々説教せらるゝ、而して同教會では毎日曜日午前十一時より外國人のための禮拜が執行せらるゝ故此禮拜に列なれば自然同監督の説教が聽かれるであらう●次に頭本氏、ケネディ氏、元田作之進氏、淺田氏の卓上演説があつた、一々其大要を摘記したいが餘りに長くなつたから残念ながら之を略す●聞く所に依れば今年の大會には會費の剩餘が餘程あると云ふので追て委員會を開きて其處分法を協議する筈なる由●三日の會議に於て意見を述べた仙臺東北學院のゲルハルト氏は二十三歳の時本邦に渡來し、早や二十年近くも英語のみ教授し居らるゝ頗る熱心なる教育家にて、同學院生徒間の評判頗る宜しき由、同氏は米人であるが其祖先の一人は獨逸人にて有名なる文學者であり、讚美歌作者として一世に鳴りたる由或獨逸文學史に詳しく書てあると、同氏の友人たる入江祝衛氏の話

● 英語聖書の講義に出席するやう學生を獎勵すべしとは今回決議の一個條であるが、此事に就てジャパンメール記者の云く、成程英文聖書の文章は美なるものではあるが、其單語と idioms は普通の日本人が熟知したいと望むものであると言ひ難い、故に日本の英學生が其英語を improve せんために聖書の講義に出席した所でそれがために學生の英語力を進め得ることは殆ど覺束なき事であると ● 向軍治氏は今年も相變らず文部省攻撃を行ひ相變らずの氣焰を吐いた、其議論の當否は別として氏の如きは此種の會合に活氣を添ゆるに缺く可らざる人物であらう ● 向氏に次ひで最も氣焰を吐いたのは東京學院の佐々木梅治氏であつた、同氏が英語讀本に就て論じ、日本人の編纂したる readers よりも英米に於て發行せる readersの方が優れりと忌憚なく論破したのはチョット普通の人には出来ない無遠慮の評であつた ● 去十一日發行の The Far East に此英語大會に就ての簡單なる批評が載つて居る、其中に或る投書中の文句を引用し、最初の二日は第一流の speakers が演説したので一同面白く聽聞したが第三日後は地方より出席せる數名の教師が所謂英語と稱するものを話し、其を聽聞するに折々苦痛を感ずることがあつた、此大會は重もに日本人より成り立つが故に以後日本語を用ひて然るべしと其投書家は言つて居る、ザ、ファア、イースト記者も之には同意したいが、併し此大會は内外人連合だから日本語に改めたら會議が出来なからうと云ふ趣意にて評して居る

文 部 省 英 語 講 習 會

珍らしや文部省の英語夏期講習會は久振にて今年東京に開くことになり、豫定の如く八月二十五日(日曜日)午前九時より御茶の水女子高等師範學校の講堂に於て各科の講習員一同着席の上、其開會式を行ひ、一本文相には「時局と教育」の題にて口頭にて一場の式辭を述べ岡倉教授には講師總代として演説あり、其大要は英語教授に従事する者は何れの方面にも美點を備へて居られねばならぬ、斯く美點を備へて居れば、其が自づから教授の上に顯はれ、教授の効果を擧げ得べしと云ふ趣意なりし由、次に田所普通學務局長には各講師を講習會に紹介し、十時過散會した

今年英語科の講習員百八十三名の申込あり、此内數名の缺席者もありしかども、此の如き多數は從來嘗て其例無き所である、

翌二十六日より講習會が始められた、講師は岡倉教授井スウィート氏にして、午前七時半より九時半迄は岡倉氏九時半より十一時半まではスウィート氏の授業とし岡倉氏は實用(又は應用)發音學、英語解釋法に就て實際の教授法を説きスウィート氏は英國の風物(English realien)を毎日一時間づゝ、其外に作文、會話、實際教授法を説けり英國風物話には豫め其要點を書ける印刷物を講習員に配付した

此外に科外講演として茨木督學官、神田男爵、津田梅子、熊本謙二郎、齋藤秀三郎(イロハ順)の諸氏出席して或は英語或は邦語にて一席の演説ありたり

女子の爲めには別に女子高等師範學校内にて、岡田、小此木兩女史の擔當にて、女子講習會を開く、此方の出席者は拾七名なりし由、斯く女子のため特別に英語講習會を開きしは本年を以て嚆矢とす、當局者が女子の英語教授法に重きを置くに至りしこと、之を視ても知るべし、而して女子講習會は早く切り上げて、男子講習會のスウィート氏時間に駆け付け、出席するの特權を有した

科外講演には齋藤氏七月二十七日に出席し、邦語にて約二時間話したる由、其趣意は昔の漢學者は四書五經などを必らず讀み、漢學の根柢と爲り標準と爲るべき基礎を有して居つたが、今の英學者には左様な根柢が無い、矢張英學者も標準たるべき知識を備ふるの必要なる所以を説き、次に正則英語學校に使用する會話作文書に就て實際の解釋を試みたる由、

茨木氏は八月一日出席し、文部省令の英語教授要目は其趣意が未だ十分に中等教員間に徹底して居らぬかと思はれる故、改めて之を詳しく説明せんとて、約一時間ばかり英語の各課目に就て説明した

熊本氏は八月三日に出席し、中等學校に於て教ゆる英語の各方面にわたりて、實際の教授法を説くこと約二時間であつた

神田男爵は八月六日に出席し、得意の英語にて、語學教授に關する實驗談を話した、其れは先年男爵が歐洲漫遊の追懷談であつて歐洲諸大學を歴訪して語學教授の意見を質だしたることや、伊多利の風光の明媚などを説くこと、約二時間、少からざる感興を一同に興へたと云ふ、津田女史も英語にて英語の教授に文學趣味の教材を省くの不可なるを論じ、中等學校にては少なくとも簡短なる詩歌を教へ、之を生徒に誦讀せしむるの必要なるを説いたそうであるが、女史の講演中は生憎の大雨にて、屋頭を叩く雨聲餘りに高くして、後列に坐せる講習員中には能く聞き取れなかつたとして残念がる者少からずあつた様子、遺憾と謂ふべし

「文部省英語講習会」22(16)、大正4年8月15日、508-509頁

右科外講演はいつでも午後にあります

会場には Question Box (質問函) が備へありて、何事に寄らず英語に關する質疑を紙に認め、此函に投ずればスウィート氏主として口頭にて一同の前にて之を 應答した、其質問の中には随分驚くべきものがあつたと云ふ、又フォネチックスに關する質疑は岡倉氏も 應答せしと云ふ

八月五日午後一時より茶話會の催ほしあり、岡倉、スウィート兩講師の演説の外講習員數名も其所感を述べ三時頃閉會した

八月七日、午前は平日のプログラムにて開會し、午後一時半より女子高等師範學校にて閉會式を行ひ、講習證書を各科の講習員に授與した、當日は田所普通學務局長文部大臣の代理として出席し、閉會の辭を述べ、東京府立第一中學校教諭岡田明達氏には一同を代表して謝辭を述べた、斯くして此盛大なる講習會は無事に終了した

語 叱 府

GOSSIP.

● 先月十七日ニウ・ヨーク發にて宮森麻太郎氏が記者に送りたる私信が四五日前に到着した、其れで見ると、同氏は先便に言へる如く、同月十三、十五の兩日コロンビヤ大學の夏季講習會に出て、豫定の講演を試みた、十三日は同時に Professor Arthur F. J. Remy の獨逸語のレクチュアありしにも係らず聴衆堂に滿つるの盛況であつた、併し宮森氏は當日生憎にも腸胃を傷め居り、且つ反響強き講堂に慣れざるため満足な効果を奏せぬやう、自ら思ひなれば、十五日の講演には萬事に注意し、懸命に講演したるに幸にして大喝采を博するを得て、講演後數名の婦人より手帳などに signature を求められ面目を施したる由、因に云く、聴衆の多數は婦人なりしと云ふ、又同氏は本月初旬渡英したき心組の由書き添へてあれば 今頃は或は大西洋上に在るか又は既に英國の地を踏めるやも知れぬ、前便には海上不安のため渡英を見合はすとありしに、斯く渡英に決したるは同氏のために祝すべし ● 同氏は此私信に添えてコロンビヤ大學夏季講習會の報告書 (Bulletin) を一葉送つて呉れた、其れで見ると同講習會は七月十二日(月)に始まり、同十八日(日)迄壹週間の開期であつて、毎日大概午前八時二十分に始まり、午後は二時三十分より、夜分は七時三十分より紐育市内の博物館、動物園、公園、新聞社、又は 嶋などへ遠足を行ひ、又は音樂會などの催ほしがある、尙ほ米國の夏季講習會が如何に 趣味あるものであるかを知らしめんため、次號に此 Bulletin を掲ぐる筈である、

● 文部省の夏季講習會の景況は二三の講習員に就て其實況を聞き、其一斑を別項に掲げて置いたが、茶話會は二週間で唯一回しか催ほさなかつたとは之を 英米の同種講習會に比較すれば 餘りに學問的に傾き、どうも日本の講習會は趣味に乏しい、もう少し社交的趣味を加へ、講習員中の親睦を計るやうにしたいものである、● 英米の夏季講習會はレクチュアの外に種々の催ほしがあつて、或は遠足、舟遊び、或は音樂會、或は Private families より tea に呼ばれたりして、實に愉快なものだ、又英米にては講習員と云へば男子よりも却て女子の方が多きゆへ、日本の講習會のやうに單調で、殺風景でない、これは日本には容易に行

はれない事として、我儕は本邦の講習會が “A little more social” で、“a little less formal or restrained” であれば 宜いがと常に思つて居る、● 今年文部の英語講習會に開いた茶話會の景況を聞くに、茶話會と云はんよりも寧ろ演說會と評する方が適當である、先づ岡倉スキート兩講師の挨拶があつて後、數名の講習員のスピーチがあつたが、中にはカント、プラトーなどの説を引き、エロキューションなどは學ぶべきものでない、エロキューションの中には男生が女子と爲つたり、惡漢と爲つたりするので、知らず識らず自分も女子のやうに柔弱な氣分となり、惡漢のやうな淺ましい氣持に爲つて惡影響を及ぼすものである、但し英雄偉人の眞似をするのは差支ないと言ふ者あれば、又た中には自分は人生問題に疑惑を抱いて居れば解決を與へてもらひたいなど云ふ哲學者もあり、又高等師範出身にて神奈川縣某中學校に奉職する教師の一人は、自分は從來英語教師として三つの忘るべからざる出來事に遭遇した、其の一は赴任すると間もなく英國皇帝が崩御し、其弔電を書いて呉れと知事に依頼されたが、悲しい事には自分には其れが書けなかつたから、横濱の辯護士ペーカー氏に内々其文句を教はつて責を塞いだことがある、● 其二は先年匈牙利人にして本邦に來遊したる者と不圖知り合ひに爲つたが、此人は僅二週間斗りにて日本語を使ひ得るのを見て驚いた、此匈牙利人は外國語を研究するに自家獨特の方法ありて、十二個國の國語を話した、爾來互に通信して居つたが歐洲戦争の始まつて以來音信が絶えた、● 第三は歐洲戦争の始まる少し前の事であつた、アメリカにて或る大學教授の著せし一英書を手に入れた、其中に着弾點の確實なる銃器の事を書いた記事があつたから、校長の手を経て參謀本部に送りたるに、其後一將官より校長へ宛て禮狀が來たり、彼の語學教師に宜しく傳言を頼むと書いてあつた、語學教師とても帝國の軍事に貢獻することが出来るのであれば我々語學教師は互に一致團結して國家のために盡くす所無かるべからずと得意然と話した ● 先づ日本人の茶話會なるものは押しなべて此の如き堅苦しい話ばかりで、少しも打くつるいだ社交的の雜談がない、如何にも没趣味である、中にはヒソツタ話してフオネチックスを研究する時間があらば快心の洋書でも讀んだ方が宜いなど、語り合ふ者もあつたと云ふ、不都合千萬ナ ● 質問函に投じた質疑の中には Perhaps と probably との二語には意味の相違があるとか、Grew と Blue の發音の相違とか、“Stories of Cuorè” の Cuorè の意義如何とか、など云ふ管らぬ質問もあり、又ブルワーの小説辭典などを引けば直ぐ分かるやうな質問を爲し、スキート講師より、これはブルワーの小説字典を看玉へと注意されたのもある、併し如何なる質問でもスキート氏や岡倉氏が 一々鄭重に應答したのは感心したと或る人の話、

● 先月十四日發行の米誌 The “Outlook” に Japanese Story-tellers' Tales, retold by C. M. Cady と題する一編が載つて居る、同號に掲ぐる話は荒木又右衛門の話で、其次號即ち二十一日發行の號には “Hakuin Jenji (The Hater of Hypocrisy)” と “Hojo Soun” の二編が載つて居る、尙ほ其次の號にも他の話が掲げらるゝ筈である、● ミセス・ケーターが此物語の緒言として書いた文に據れば、此等の Tales は松村介石氏が講談師の話を西洋人向きに改め、村井知至氏がそれをザツト英文に譯し、之を又ケーター夫人が西洋人に向くやう書き改めたるものなりと云ふ、其英文

第三回英語教員大會

The Third English Teachers' Conference,
April 1st, 3rd and 4th,
1916,
Higher Commercial School,
Osaka.

PROGRAMME.

(SUBJECT TO CHANGE.)

April 1st, Saturday Morning.

- 10:00—12:00—Opening Remarks by Baron N. Kanda,
Chairman of the Permanent Committee.
Addresses by Baron D. Kikuchi, Governor
Okubo, and Mr. Tadokoro of the Department
of Education.

April 1st, Saturday Afternoon.

- 1:00—4:00—How to Improve the Pupils' Ability
in the use and understanding of the
Spoken Language.
(a) Prof. S. Kokubo, Higher Commercial School,
Kobe.
(b) Mr. P. A. Smith, Fukui.

April 1st, Saturday Evening.

- 7:00—9:00—Addresses by Prof. F. A. Lombard,
Doshisha and Kyoto Imperial University, and
Prof. B. Uraguchi, Doshisha.

April 3rd, Monday Morning.

(SECTIONAL CONFERENCE IN JAPANESE.)

- 9:00—11:00—The Teaching of Translation.
(a) Middle, Normal, and Commercial Schools—
Baron N. Kanda.
(b) Girl's Schools—Miss Ume Tsuda, Eigaku
Jiku.

- 11:00—12:00—The Connection Between the Teach-
ing of English and the Teaching of
History—Prof. K. Kumamoto, Gakushuin.

(SECTIONAL CONFERENCE IN ENGLISH.)

- 9:00—12:00—How we Conduct our Classes. Being
fifteen-minute reports by representatives from
the following schools followed by general dis-
cussion:

- (a) Kwansei Gakuin.
(b) Kobe Jogakuin.
(c) Meisei Commercial School.
(d) Prefectural Middle Schools.

An address by Prof. Y. Okakura, Higher
Normal School, Tokyo.

April 3rd, Monday Afternoon.

- 2:00—4:00—How to run an English Speaking
Society.—Reports from the Schools where
such a Society is a Prominent Feature:—
Doshisha, Higher Commercial Schools of To-
kyo, Osaka, and Kobe, Gakushuin, Kwansei
Gakuin, and Eigaku Jiku.

April 3rd, Monday Evening.

- 6:00—Dinner at Osaka Hotel.
Speakers:—Governor Okubo, Dr. T. Harada,
Doshisha, Rt. Rev. Bishop H. St. G. Tucker,
Kyoto, Mr. J. Katano, Osaka Higher Com-
mercial School, Dr. J. C. C. Newton, Kwansei
Gakuin, Mr. K. Inahara, and Mr. S. Takaishi.

April 4th, Tuesday Morning.

- 9:00—11:00—The Place of Grammar and Com-
position in the Middle School Curriculum.
(a) Mr. B. Mitsui, First Middle School, Kyoto.
(b) Prof. W. E. L. Sweet, Higher Normal
School, Tokyo.
(c) Mr. Satchell, Middle School, Wakayama.
11:00—12:30—The Requirements for the Entrance
Examination for Schools of Higher Grade.
(a) Prof. K. Ito, Kyoto Higher School
(b) Prof. C. Ogawa, Higher Commercial School,
Kobe.

April 4th, Tuesday Afternoon.

- 1:30—2:00—Business Session.
2:00—3:00—An Address by Dr. N. Murakami,
Foreign Languages School, Tokyo.
2:00—4:30—Open Meeting Speeches from five to
ten Minutes long in English.

Closing Address.